

臨床実習教育の手引き

(資料：本文)



高知健康科学大学 健康科学部
リハビリテーション学科 作業療法学専攻

〒781-5103 高知県高知市大津乙 2500-2

TEL 088-866-6119 (代表) FAX 088-866-6120

目 次

第1章	リハビリテーション学科の教育と臨床実習	・・・・・・・・ 2
第2章	臨床実習の種類	・・・・・・・・ 3
第3章	学生の役割・責務	・・・・・・・・ 9
第4章	実習指導者の役割（実習指導者の皆様へのお願い）	・・・・・・・・ 17
第5章	大学教員の役割	・・・・・・・・ 23
第6章	ハラスメントについて	・・・・・・・・ 25

第1章 リハビリテーション学科の教育と臨床実習

1. 本学の教育理念

「自らを律し、共に生きる社会を創造する」、この校是のもと大学教育を通してより良い社会の実現に寄与する。これは、医療や福祉に携わる者の基本的な立ち位置であり、踏み外してはならない道標でもある。高い倫理観のもとで病める人々や苦悩する人々に寄り添い、共に成長していける社会の創造こそが、医療や福祉の専門職として働くことの究極的な意義である。

2. ディプロマ・ポリシー（作業療法学専攻）

リハビリテーション学科では、学修段階に応じた各臨床実習をディプロマ・ポリシー達成のための総合科目と位置付けている。作業療法学専攻においては、以下の態度や能力を身につけ所定の単位を修めた学生に対し、学士（作業療法学）の学位を授与することを定めている。

- (1) 医療専門職としての幅広い教養と品格を身につけ、質の高い作業療法士の素養を有している。
(教養)
- (2) より良い社会生活への適応に向け、常に作業療法士として対象者に寄り添い支えることができる。(倫理)
- (3) 作業療法士としてリハビリテーション医学の基礎知識を修得し、適切な作業療法や社会資源を提供することができる。(知識)
- (4) 作業療法士としての確かな知識を基に、作業活動を通じた社会適応方法を選択し、基本的な身体的心理的アプローチを実践できる。(技術)
- (5) 対象者のもつ問題解決のために、科学的思考に基づく作業療法を実践し、その進歩発展のために研鑽できる。(科学)
- (6) 医療福祉における作業療法士としての役割と社会的要請を理解し、多職種と協働して活動できる素養がある。(協働)
- (7) 地域社会における生活上の健康課題や社会適応課題に対し、作業療法士としての専門性を活かし社会参加を支援する能力がある。(貢献)

第2章 臨床実習の種類

1. 臨床実習の種類とスケジュール

本学における1年次から4年次までに実施される臨床現場での見学、作業療法評価や治療経験などの総称を臨床実習とする。リハビリテーション学科 作業療法専攻は、以下の1~5)の形態で臨床実習を実施する。

- 1) 早期臨床体験実習 : 1年次 後期/1週間 45時間:1単位
- 2) 作業療法臨床評価実習 : 2年次 後期/3週間 135時間:3単位
- 3) 作業療法臨床総合実習Ⅰ : 3年次 後期/6週間 270時間:6単位
- 4) 作業療法臨床総合実習Ⅱ : 4年次 前期/7週間×2回 630時間:14単位
- 5) 作業療法地域実習 : 4年次 前期/1週間 45時間:1単位

【補足】実習時間について

<理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインより抜粋>

5 授業に関する事項

- (4) 臨床実習については、1単位を40時間以上の実習をもって構成することとし、実習時間外に行う学修等がある場合には、その時間も含め45時間以内とすること。

以上の事から、

⇒実習時間は8時間/日(5日×8時間/日=40時間/週、週休2日*)、実習時間外(自宅等での課題時間)は1時間/日(5日×1時間/日=5時間/週)が基本である。実習時間内と時間外の合計が45時間/週を超えない実習を標準と考えている。実習指導者講習会では、時間外指導を時間内指導へ取り込むことも提案されている。ただし、学生の自己研鑽の時間は実習時間には含まれないと本学では考えている。

*休日に関しては、施設や実習指導者などの状況に合わせて、学生と相談して決定する。

2. 早期臨床体験実習

<目的>

本実習を通して、実習施設が果たす社会的役割や機能の概要とその施設における作業療法士の役割や専門性、業務内容を把握する。また、実習施設における医療従事者同士また医療従事者と対象者とのコミュニケーション、関係性の構築の仕方などを見学し、1年次前期で学んだ医療人としての職業意識や倫理観、コミュニケーションの重要性を認識する。また、実習生としての役割および責務を認識し、これからの基礎知識・専門知識の学習への動機づけとすることを目的とする。

<到達目標>

- 1) 常識的態度や責任ある行動をとることができる。
- 2) 指導者や対象者と望ましい人間関係を持つことができる。
- 3) 見学した内容を記録し、他者へ伝えることができる。
- 4) 意欲的に取り組む姿勢・態度を示すことができる。

<方法>

実習期間は1週間とする。実習前に実習オリエンテーション、実習後に成果報告会を学内で行う。

1) 実習オリエンテーション

実習の目的や到達目標、実習生としての役割と責務、注意事項などについて説明する。

2) 臨床体験実習

臨床実習指導者および引率教員のものとして、見学を中心とした実習を行う。

実習中は、実習施設が果たす社会的役割や機能の概要とその施設における作業療法士の役割や専門性、業務内容を把握する。また、実習施設における医療従事者同士また医療従事者と対象者とのコミュニケーション、関係性の構築の仕方などを見学し、1年次前期で学んだ医療人としての職業意識や倫理観、コミュニケーションの重要性を認識する。

実習中は、学んだ内容について見学実習ノートに記録し、実習指導者に毎日提出する。

3) 成果報告会

見学実習を通して、経験したこと、学んだこと、今後の課題等を振り返り、書面と口頭で報告する。

<成績判定>

成績は、出席状況、受講態度についての実習指導者からの情報、事後の成果報告会の内容等を勘案し、実習指導担当教員が判定する。なお、判定には2/3以上の出席が必要である。

<実習後の提出物>

- 1) 早期臨床体験実習ノート
- 2) 欠席・早退・遅刻届
- 3) 臨床実習事故報告書

3. 臨床評価実習

<目的>

臨床家としての基本姿勢を自覚し、作業療法士として対象者の側に立った視点に目を向け、対象者との関係性の構築に努力する。また、対象者に必要な評価技法を実践し、作業療法の必要性を認識するとともに、対象者の全体像を把握し作業療法の目標を考えることを目的とする。

<到達目標>

- 1) 評価をするのに相応しい態度と臨床家としてのマナーを修得する。
- 2) 対象者に応じた評価・情報収集を行うことができる。
- 3) 対象者の全体像の把握、問題点の抽出、目標設定まで一連の流れと臨床思考過程を経験し、説明することができる。
- 4) 課題の作成・発表等を通して対象者についての理解を深めることができる。

<方法>

1) 事前学習・実習オリエンテーション

各実習施設での実習に先立ち、各実習施設の役割や機能、対象者の抱える問題について予習する。検査・測定の実技試験および口頭試問において、学習の到達度を包括的に評価する。

2) 臨地実習

実習生が診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督のもとで行う診療参加型の臨床実習を行う。実際の症例に対し、医療面接を行うとともに観察や診療記録からの情報収集を経験する。次に、基本的な検査・測定の展開による作業療法評価に基づき、ニーズの把握、問題点の抽出、合意目標設定、治療計画の作成までの一連の作業療法過程を経験する。最後に問題点の設定および治療計画の決定過程についてディスカッションを行い、理解を深める。

3) 成果報告会

各施設の実習を通じて経験したこと、学んだことを症例報告会等を通して振り返り、事前学習からの変化を評価することで、臨床実習後における学習の到達度を評価する。

<成績判定>

成績は、出席状況、受講態度についての実習指導者からの情報、事後の成果報告会の内容等を勘案し、実習指導担当教員が判定する。なお、判定には2/3以上の出席が必要である。

<実習後の提出物>

- 1) デイリー・ノート
- 2) ケース・ノート
- 3) 一般情報シート
- 4) 生活行為向上マネジメントシート
- 5) 欠席・早退・遅刻届
- 6) 臨床実習事故報告書

4. 臨床総合実習 I

<目的>

対象者の全体像の把握ができるということを基礎として、治療プログラムの立案、実践を試み、対象者との治療関係を構築するとともに、対象者のニーズに結び付けた援助をする能力を培う。

<到達目標>

- 1) 対象者に応じた評価・情報収集を行うことができる。
- 2) 対象者の全体像を把握し、問題点を抽出する為の思考過程を説明することができる。
- 3) 対象者に必要な目標を設定、および治療計画を経験でき、説明することができる。
- 4) 多くの対象者とかわり、作業療法士の多様な臨床思考過程を確認することができる。
- 5) 課題の作成・発表等を通して、対象者への理解を深めることができる。

<方法>

1) 事前学習・実習オリエンテーション

各実習施設での実習に先立ち、各実習施設の役割や機能、そこにおける対象者の抱える問題について予習する。検査・測定・基本的介入の実技試験および筆記試験において、学習の到達度を包括的に評価する。

2) 臨床実習

実習生が診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督のもとで行う診療参加型の臨床実習を行う。実際の症例に対し、医療面接を行うとともに観察や診療記録からの情報収集を経験する。次に、基本的な検査・測定の展開による作業療法評価に基づき、ニーズの把握、問題点の抽出、合意目標設定、治療計画の作成・治療場面参加までの一連の作業療法過程を経験する。最後に問題点の設定および治療計画の決定過程についてディスカッションを行い、理解を深める。

3) 成果報告会

各施設の実習を通じて経験したこと、学んだことを症例報告会等を通して振り返り、事前学習からの変化を評価することで、臨床実習後における学習の到達度を評価する。

<成績判定>

成績は、出席状況、受講態度についての実習指導者からの情報、事後の成果報告会の内容等を勘案し、実習指導担当教員が判定する。なお、判定には2/3以上の出席が必要である。

<実習後の提出物>

- 1) デイリー・ノート
- 2) ケース・ノート
- 3) 一般情報シート
- 4) 生活行為向上マネジメントシート
- 5) 欠席・早退・遅刻届
- 6) 臨床実習事故報告書

5. 臨床総合実習Ⅱ

<目的>

対象者の全体像の把握ができるということを基礎として、治療プログラムの立案、実践を試み、対象者との治療関係を構築するとともに、対象者のニーズに結び付けた援助をする能力を培う。また多くの対象者に接し、多様な作業療法の思考過程を知る機会とする。

<到達目標>

- 1) 対象者に応じた評価・情報収集を行うことができる。
- 2) 対象者の全体像を把握し、問題点を抽出する為の思考過程を説明することができる。
- 3) 対象者に必要な目標を設定、および治療計画を経験でき、説明することができる。
- 4) 多くの対象者とかかわり、作業療法士の多様な臨床思考過程を確認することができる。
- 5) 課題の作成・発表等を通して、対象者への理解を深めることができる。

<方法>

1) 事前学習・実習オリエンテーション

実習に先立ち、各実習施設の役割や機能、対象者の抱える問題について予習する。検査・測定・基本的介入の実技試験および筆記試験において、学習の到達度を包括的に評価する。

2) 臨地実習

実習生が診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督のもとで行う診療参加型の臨床実習を行う。実際の症例に対し、医療面接を行うとともに観察や診療記録からの情報収集を経験する。次に、基本的な検査・測定の展開による作業療法評価に基づき、ニーズの把握、問題点の抽出、合意目標設定、治療計画の作成・治療場面参加までの一連の作業療法過程を経験する。最後に問題点の設定および治療計画の決定過程に議論を行い、理解を深める。

3) 成果報告会

各施設の実習を通じて経験したこと、学んだことを症例報告会等を通して振り返り、事前学習からの変化を評価することで、臨床実習後における学習の到達度を評価する。

<成績判定>

成績は、出席状況、受講態度についての実習指導者からの情報、事後の成果報告会の内容等を勘案し、実習指導担当教員が判定する。なお、判定には2/3以上の出席が必要である。

<実習後の提出物>

- 1) デイリー・ノート
- 2) ケース・ノート
- 3) 一般情報シート
- 4) 生活行為向上マネジメントシート
- 5) 欠席・早退・遅刻届
- 6) 臨床実習事故報告書

6. 作業療法地域実習

<目的>

地域リハビリテーションの現場見学を通して地域包括ケアにおける作業療法士の役割や対象者を把握し、専門職や社会人としてのマナーに基づいた行動を修得するとともに、自己の作業療法士としての将来像を構築して学内での学習意欲を向上させることを目的とする。

<到達目標>

- 1) 地域に在住し生活している対象者と家族を取り巻く社会環境を含めた包括的な社会的リハビリテーションアプローチを見学し、理解を深める。
- 2) 地域リハビリテーションにおける作業療法士の役割を理解し、併せて他の関連職種との役割や諸制度、地域連携、社会資源などについても学修する。
- 3) 各種施設あるいは在宅における対象者の捉え方や作業療法の知識・技術がどのように活用できるかを学修する。
- 4) 事例検討などを含めたプログラムに基づいて地域作業療法のあり方を学修する。

<方法>

臨地における実習期間は5日間とする。実習前に実習オリエンテーション、実習後に成果報告会を学内で行う。

1) 事前学習・実習オリエンテーション

介護保険制度や地域包括ケア・地域リハビリテーション・介護予防現場における作業療法士の役割について予習する。実習の目的や到達目標、実習生としての役割と責務、注意事項などについて説明する。

2) 臨床実習

地域における作業療法士の役割や対象者を把握し、作業療法の必要性を理解する。介護者としてではなく作業療法士としてどのように対象者と関わり、生活を支援しているのかを学ぶ。また、介助者ではなく支援者としての作業療法士としての関わりを学ぶことを目的とする。

3) 成果報告会

実習を通して、経験したこと、学んだこと、今後の課題等を振り返り、書面と口頭で報告する。成果報告会を通して、文章作成能力や説明能力の向上、理解の深化を促すとともに、見学実習後における学習の到達度を評価する。

<成績判定>

成績は、出席状況・受講態度についての実習指導者からの情報、成果報告会の内容等を勘案し、実習指導担当教員が判定する。なお、判定には2/3以上の出席を必要とする。

<実習後の提出物>

- 1) 作業療法地域実習ノート
- 2) 欠席・早退・遅刻届
- 3) 臨床実習事故報告書

第3章 学生の役割・責務

臨床実習を充実したものにするために、実習施設においては施設の円滑な管理運営や日常業務に支障をきたすことのないように施設の規律に従い、社会人としてのモラルを持った節度ある態度および行動をとる。特に以下の内容に留意して取り組む。

1. 臨床実習における注意事項

1) 一般的心得

- (1) 臨床実習は本校と実習施設とが協力し相互の立場を尊重して実施されるものである。学生の受け入れは、実習施設の好意と熱意によることを忘れてはならない。
- (2) 実習時間等に関しては、実習施設の規定や実習指導者の指示に従う。やむを得ない事情のため欠席・遅刻・早退する場合は、前日までに実習指導者に届け出る。当日やむを得ず欠席や遅刻をする場合は、始業までに実習指導者と学校へ連絡し了解を得る。
- (3) 実習については全て実習指導者の指示に従い、実習に積極的な態度をもって接するように心掛け、多方面の体験を得るように努める。積極的な態度は望ましいが、未熟な私見に基づく批判や、反抗的態度は厳に慎まなければならない。
- (4) 服装・態度・言葉使い等については、学生としてふさわしいものとする。服装については、本学指定のユニホームと白の靴下を着用する。頭髪・爪・髭・化粧等は他人に不快感を与えないように、また装飾品は対象者に危害を与えることがあるため身につけない。
- (5) 実習期間中は実習に支障が生じないように自己の健康管理に十分注意する。体調に異常がある場合は実習指導者に申し出る。
- (6) 実習時間内は、原則、スマートフォンなどは使用しない。
- (7) 実習中、実習終了後に、Twitter、LINE、InstagramなどのSNSで、実習施設や実習内容に関する書き込み、写真等をアップロードすることを固く禁じる。
- (8) 所有するパソコンにはウイルス対策ソフトをインストールしておく。ソフトウェアは常に最新のものに更新し、フルスキャン（コンピュータの検査）を実行してウイルスが検知されないことを確認する。万一、個人所有の記憶媒体を実習施設のパソコンで利用する場合は、実習指導者にウイルス対策の状況を報告し、許可を得た上で利用する。

2) 対象者に対する心得

- (1) 対象者には誠意と尊敬の念を持って接する。
- (2) 実習中に知り得た対象者の情報については秘密を守り口外しない。また、臨床実習ポートフォリオ・各種書類等の取り扱いには十分注意する。
- (3) 対象者から診断名・経過・予後等について尋ねられた場合、即答せず実習指導者に相談する。
- (4) 実習中は安全に心掛け、対象者には慎重かつ謙虚な態度で接し、事故やトラブルを避ける。万一事故が発生した場合には、実習指導者に速やかに報告し指示を仰ぐ。

3) 実習施設における心得

- (1) 実習施設や所属部門の規則を守り違反しないようにする。
- (2) 職場全体と常に協力と信頼関係を保てるようにする。
- (3) 職場の身近にいる人の名前や職名を覚える。
- (4) 電話に出る場合は、自分の所属と名前をまず告げる。
- (5) 職場の清掃は自ら進んで行う。
- (6) 物品や機器等の整理整頓、取り扱いに留意する。
- (7) 施設内では手洗いを励行し、感染の予防を心がける。
- (8) 疑問がある場合は、状況をわきまえた上で積極的に質問し、教示を受ける。
- (9) 携帯電話などを施設内に持ち込む場合は、必ず電源を切り、実習施設内では使用しない。

4) 生活上の注意

- (1) 勉学という実習の目的を心にとどめ、交友には節度を守る。
- (2) 実習先の職員とは、公的な場と私的な場とでの区別をつけて接する。
- (3) 実習先の職員に、実習にとって必要なこと以外の依頼を安易にしない。
- (4) 施設を去る際に、借用した物品、書物などを返却する。

2. 個人情報保護について

個人情報保護法の施行に伴い、学生は対象者のプライバシーを保護するため、診療録へのアクセスや各種情報の取り扱いについて、一般的注意事項および各施設の規定などに十分に留意して行動しなければならない。

1) 臨床実習上の一般的留意事項

- (1) 学生は実習施設において職員と同様に個人情報保護に関する責務を負う。
- (2) 実習指導者に説明を受け、各実習施設の規則を遵守する。

2) 実習記録の取り扱い

- (1) 個人情報の記載について、学生が作成するレポート、報告書、実習ノート、経過記録などには、個人や施設を特定できるような下記事項は記載せず、匿名化する。
(対象者の氏名・年齢・生年月日・住所・連絡先・施設名など)
- (2) メモ書きなどについても同様の取り扱いとし、紛失に十分留意するとともに、廃棄する時はシュレッダーなどで裁断するなど細心の注意を払う。
- (3) カンファレンスなどで配布された資料の取り扱いについては実習指導者に判断を仰ぐ。
- (4) パーソナルコンピューターなどの電子情報は、記録などの紛失がないように責任を持って管理する。
- (5) 記録媒体におけるデータは、個人の責任において再使用できない状態で廃棄（削除）する。

3) 守秘義務

- (1) 対象者に関する情報の秘密を守り、治療上知り得た情報は対象者の治療に直接関係する人（対象者、家族）以外には一切漏らしてはならない。
- (2) 通学途上の友人との会話や、実習施設内での会話でも個人情報が漏れないよう十分注意する。
- (3) Facebook や Twitter、LINE、Instagram などの SNS やブログ、掲示板に、実習中に知り得た情報や個人の特定につながるような情報の投稿はしてはならない。また、対象者や実習指導者などを誹謗・中傷することも行ってはならない。
- (4) 面会・病状の問い合わせに応じるには本人の同意が必要であり、入院・入所の事実に関しても答えてはいけない。こうした場合には実習指導者に判断を仰ぐ。

上記を踏まえ、学生は「個人情報保護に関する誓約書」を作成し実習施設に提出する。

3. 出欠の扱いについて

- (1) やむを得ない事情による欠席・遅刻・早退などは前日までに実習指導者と学校に届け出る。突発事故、病気などによる遅刻・欠席については、始業前までに実習指導者へ電話連絡した上で、大学にも速やかに連絡する。
- (2) 始業・終業時刻と休日は実習施設の規定に従うものとする。
- (3) 遅刻・早退が 3 回あった場合は 1 日欠席とみなす。遅刻・早退時間の限度は実習指導者に一任する。
- (4) 各期の臨床実習の欠席日数が各実習日数の 3 分の 1 を超える場合は、当該臨床実習を不合格とする。

4. 事故防止と事故発生時の体制

1) 事故防止

事故の発生を防ぐためには、実際の対象者への医療行為などを行う前に基本的技術を十分に学習するとともに、対象者の状況、周囲の環境などもあわせて認識しておくことが必要である。自分勝手な判断で行動せず、不明な点は必ず実習指導者に相談することを基本とする。また、自己の安全にも留意し、手洗いや物品の取り扱いなどに十分気をつける。

2) 実習中の事故とは

ここでいう実習中の事故とは、学生が当事者となって発生した医療上・施設管理上の危害または破損を示し、以下のように大別できる。

- (1) 対象者に対する医療事故
- (2) 学生自身に関わる事故
- (3) 施設の設備・物品の破損
- (4) 他者および学生の尊厳に関わる問題

3) 事故発生時の体制

事故発生時の対策を十分に理解しておくことが重要である。学生が行う対処方法を以下に示す。

- (1) 事故が発生した際は、学生は速やかに実習指導者および担当教員に報告し指示を仰ぐ。
- (2) 学生は実習指導者の指示のもと、対象者の状況を把握し安全な状況を確認するよう適切な対応を行う。
- (3) 状況が落ち着いた後、実習指導者と共に事故の分析を行い、今後の事故防止に向けての課題について話し合う。
- (4) 臨床実習事故報告書を作成し、実習指導者の署名・捺印を受けた後、担当教員へ提出する。実習施設で保管が必要な場合は、コピーを取り提出する。

5. 抗体検査・予防接種等について

1) B型肝炎とMMRV*について

※MMRV=麻疹 (measles)、流行性耳下腺炎(mumps)、風疹(rubella)、水痘 (varicella)

本学では B 型肝炎と MMRV の抗体検査と予防接種について、自らの感染予防と他者、特に受診者や入院患者への感染源とならないよう、学生に対しその必要性和重要性を説明し理解を求めた上で、実施への協力を求める。抗体検査は 1 年次 9 月に実施し、抗体価の基準を満たさなかった疾患は、同一年度内にワクチン接種を終えるように指導を行う。抗体検査と予防接種の実施は、本学校医である「きんろう病院」(高知市)に依頼する。本学が参照している B 型肝炎と MMRV の抗体価は以下の通りである。

<日本環境感染学会 医療関係者のためのワクチンガイドライン>

	検査方法	ワクチン接種推奨基準		
		基準を満たさない (陰性)	基準を満たさない (陰性ではない)	基準を満たす
B型肝炎	CLIA法	陰性(-) 10.0mlU/ml未満	陽性(+) 10.0mlU/ml以上	
麻疹	EIA法 (IgG)	陰性(-) 2.0未満	±および16.0未満 の陽性 2.0~15.9	陽性(+) 16.0以上
流行性 耳下腺炎	EIA法 (IgG)	陰性(-) 2.0未満	± 2.0~3.9	陽性(+) 4.0以上
風疹	EIA法 (IgG)	陰性(-) 2.0未満	±および8.0未満 の陽性 2.0~7.9	陽性(+) 8.0以上
水痘	EIA法 (IgG)	陰性(-) 2.0未満	± 2.0~3.9	陽性(+) 4.0以上

※「基準を満たさない(陰性)」または「基準を満たさない(陰性ではない)」がワクチンの接種対象

予防接種は、B型肝炎ワクチンについては、初回、1か月後、6か月後の3回接種(1シリーズ)を行っている。MMRVの各ワクチンについては、1回接種である。学生は、ワクチン接種が終わればその都度接種証明書を学校へ提出する。提出された接種証明書は学校が保管し、実習施設より接種記録等の提出依頼がなされた場合は、本学が記録を確認し対応する。

2) インフルエンザについて

臨床実習は、罹患した対象者と接触するリスクの高い実習機関で実習を行うことが多いため、学生には自身の感染防止、対象者や他の職員への施設内感染防止、およびインフルエンザの罹患による実習停止の観点から、積極的にワクチン接種を受けるよう勧めている。インフルエンザワクチンは各学生が医療機関にて、接種を受ける形を取っている

3) 新型コロナウイルス(COVID-19)について

新型コロナウイルス (COVID-19) については、治療法の未確定などから「感染しない予防」が重要であり、標準予防策と感染経路別予防策が感染予防の基本となる。学生に対して実習に関する留意事項として、以下の内容で指導を行う。

(1) 登校に関すること

- ① 登校時には検温器で体温を確認し、手指消毒をおこなう。
- ② 登校から下校までマスクを着用する。
- ③ 教室への入退室時には手指消毒をおこなう。
- ④ 次に該当する場合、登校を控える。
 - ・ 当日自宅で検温を行い 37.5 度以上の発熱があった場合（平熱より 1 度以上高温の場合）
 - ・ 発熱をしていなくても、息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、味覚・嗅覚異常、軽度であっても咳・咽頭痛などの症状や心身の不調を感じる場合
 - ・ 同居家族に感染者が発生した場合
 - ・ 感染者の濃厚接触者として自宅待機の指示を受けている場合
 - ・ 過去 14 日以内に政府から入国制限または入国後の観察期間を必要とされている国・地域などへの渡航履歴がある場合、もしくは該当者との濃厚接触がある場合
- ⑤ 欠席の場合は学校に電話連絡を行い、回復後は速やかに欠席届を提出する。

(2) 生活面での留意事項

- ① 全ての行動に対して、感染予防のための十分な対策をとること
- ② 十分な睡眠と栄養のある食事をとり、体力の維持に努めること
- ③ 高齢者は基礎疾患を有する方が多く、同居者への配慮も忘れないこと
- ④ 可能な限り「密閉」「密集」「密接」となるアルバイトは避けること
- ⑤ 同居する家族にも、これらのことに協力していただけるようお願いすること

(3) 実習に関する留意事項

実習を控えた学生には以下の項目を指導しています。

①実習開始 2 週間前以降

- ・ アルバイトの禁止（何らかの事情がある場合は担任に相談すること）
- ・ 大人数が集まる場所やイベントへの参加の自粛
- ・ 予備分を含めた不織布マスクの準備 *施設によってはサージカルマスク

②実習期間中

- ・ 実習施設での感染対策指針に従うこと
- ・ 発熱時や体調不良時には実習を控え、必ず学校にも報告すること

6. 感染症発生、感染事故時の体制

1) 感染予防

実習では、感染症の対象者に接する際、学生自身への感染や学生を介して対象者への感染が起こる危険性がある。学生は、感染予防対策として自己の健康状態に留意し、日常から手洗いやうがいを励行するとともに、感染防止に必要な知識・技術・態度を身につけることが必要である。

2) 学生が感染源あるいは感染の媒介者にならないための留意事項

- (1) 作業療法の前後に、必ず手洗いや必要に応じて手指消毒を行う。
- (2) 対象者の抵抗力、免疫状態、感染の有無などを把握する。
- (3) 易感染者に作業療法を行う場合、予防衣の着用やマスクの装着、消毒薬の噴霧など、必要な準備を確実に行う。
- (4) 自分が感染症に罹患している可能性がある場合は接触を控える。
- (5) 血液や膿汁、尿、分泌物など、感染源となり得る物の取り扱いに注意する。

7. 事前学習・実習オリエンテーション

各実習施設の施設情報を収集し、必要と思われる内容について事前学習を図る。また、各実習前に以下の試験を実施し、各臨床実習に臨む学生に求められる基礎学力や基礎臨床技能の担保を図る。その上で各臨床実習に臨む前に、各臨床実習の概要、心得、責務等について説明する。

1) 事前学習

(1) 実習前学力試験

臨床評価実習前の試験範囲は、解剖学・生理学・運動学・作業療法評価学についての問題とします。臨床総合実習 I 前の試験範囲は、3 年次作業療法臨床総合実習前までに修得したすべての科目についてとする。

(2) 客観的臨床能力試験 (pre-OSCE)

臨床評価実習前の試験範囲は、面接・脈拍と血圧の測定・関節可動域測定・筋力測定・形態測定・感覚検査・反射検査・脳神経検査・協調運動検査・認知症検査・高次脳機能検査等とします。臨床総合実習 I 前の試験範囲は、3 年次作業療法臨床総合実習前までに修得したすべての科目についてとする。

2) 実習オリエンテーション

臨床実習に際して、校内で行っているオリエンテーションの内容は以下の通りである。

(1) 臨床実習の位置付け、到達目標、実習方法、スケジュール、課題等の説明

第 I 章から第 III 章の内容について、熟知すること。なお、充実した臨床実習を経験するためには、自身が探究心を持ち、より能動的な行動などを学生には求める。また、臨床実習中に起こった出来事については、実習指導者に対して十二分な「報告」、「連絡」、「相談」（報・連・相）が必要となる。

(2) 実習施設への連絡

実習開始前1週間前を目途に各自で臨床実習施設情報を収集し、実習指導者に電話をかけてください。その上で、実習初日の集合時間と場所、持参する所持品、その他準備・注意事項などについて確認してください。

(3) 持参物

実習には以下のものを持参する。

① 実習関係資料

- ◎臨床実習の手引き ◎臨床実習評価表とそれを封入するための封筒
- ◎臨床実習指導者間連絡ノート ◎見学実習ノートまたはデイリーノート
- ◎デイリーノート ◎クリニカル・クラークシップチェックリスト

② その他

- ◎白衣 ◎実習用上履き ◎ゴニオメーター ◎メジャー ◎ストップウォッチ
- ◎打鍵器 ◎筆記用具 ◎メモ帳 ◎バインダー

8. 臨床実習

1) 学生の課題

学生の課題は、以下の(1)~(3)を基本とする。(1)~(3)以外の課題についても、必要に応じて提示された場合は、取り組む。(1)、(2)は基本的に毎日、(3)は適宜指導者に提出する。

(1) クリニカル・クラークシップ チェックリスト

学生の診療参加レベル（実施状況）を段階別に確認することができる。基本的には学生自身が記入するが、実習指導者と一緒にチェックすることにより、双方によって技能の不足、未熟、達成などの状況を確認することができ、学生の成長や経験状況、実習目標や指導内容の見直しが図ることができる。記入は、実施回数を「正」の字で記入する。臨床実習チェックリストに記載されていない内容を経験した場合は、各項目の空欄に追加する。

なお、クリニカル・クラークシップチェックリストに記載されている全項目が、学生への必須課題という訳ではない。また、クリニカル・クラークシップチェックリストは、臨床評価実習から継続的に記入する。

(2) デイリー・ノート

成果報告書を作成する症例を中心に、経験した症例や基本的技術について日々の記録や学習したことを記録として残す臨床実習ポートフォリオを作成する。作成は基本的に毎日行い、作成したものは実習指導者に提出しフィードバックを受ける。臨床実習終了後は本学に提出する。

(3) 症例報告レジュメ

成果報告会で使用する症例報告レジュメを作成し、臨床実習終了後に学校へ提出する。症例報告レジュメは臨床実習中もしくは実習後に作成する。

2) 実習初日の提出物

実習初日に以下のものを実習指導者に直接手渡すこと。

- (1) 臨床実習評価表とそれを封入するための封筒
- (2) 臨床実習指導者間連絡ノート

3) 実習最終日の受領物

実習最終日に以下の5点を実習指導者から直接返却してもらう。

- (1) 臨床実習指導者間連絡ノート
- (2) デイリーノート
- (3) ケースノート
- (4) クリニカル・クラークシップチェックリスト
- (5) 実習生個人資料

*実習生個人資料については、実習開始前に本学から実習指導者に送付します。

4) 実習終了時に学生が果たすべき責任事項

- (1) 実習施設での借用品は必ず返還する。
- (2) 実習中に要した諸経費の支払から本学に郵送するため、返却してもらう必要はない。
- (3) 控室やロッカーの清掃・整理整頓を行い、私物を忘れないで持ち帰る。
- (4) 実習指導者に臨床実習の成果物（臨床実習ポートフォリオや臨床実習成果報告書など）の最終チェックを受ける。
- (5) 実習中に受けた指導と援助に感謝し、関係者に謝意を表す。
- (6) 実習終了後1週間以内に実習施設に礼状を出す。

5) 本学への提出物

学生は以下の4点の資料を、臨床実習終了後1週間以内に本学に提出する。

- (1) 臨床実習指導者間連絡ノート
- (2) デイリーノート
- (3) ケースノート
- (4) クリニカル・クラークシップチェックリスト
- (5) 症例報告レジュメ

9. 成果報告会

1) 各実習（臨床評価実習、臨床総合実習Ⅰ、臨床総合実習Ⅱ）終了後、学生が臨床実習で学修したことの総括、かつ各学生の学修内容を共有する場として、学内において臨床実習成果報告会を実施する。発表後には、実習で得た学びを整理するため、教員からのフィードバックを通して今後の学びに活かす。

2) 実習後試験

(1) 実習後学力試験

臨床総合実習Ⅱ後、学内にて作業療法全般の試験を実施し、実習における到達度を評価する。

(2) 実習後客観的臨床能力試験（post-OSCE）

臨床総合実習Ⅱ後、学内にて作業療法全般の post-OSCE を実施し、臨床実習における到達度を評価する。試験範囲は、理学療法評価全般（面接・脈拍と血圧の測定・関節可動域測定・筋力測定・形態測定・感覚検査・反射検査・協調運動検査・認知症検査・高次脳機能検査・ADL評価等）ならびに作業療法治療全般、さらに各種疾患の基礎知識を交えた内容とする。

第4章 実習指導者の役割（臨床実習指導者の皆様へのお願い）

本学担当教員は、実習施設の臨床実習指導者と事前に連絡を取り、実習目的・方法・スケジュールを調整・確認および実習中に発生する可能性がある事故などの緊急事態に対応できるように事前に協議します。また担当教員は、学生の目標達成状況、臨床実習上の問題点などについて確認し、適時対応します。

1. 実習前

本学より事前に配置学生分の学生個人資料を送付しますので、ご確認ください（実習終了時には、必ず学生にご返却ください）。また、事前に教育的配慮が必要と思われる学生については、担当教員より事前に連絡します。その他、施設により誓約書や健康診断・抗体検査結果などが必要な場合は出来るだけ早くお知らせください。

学生は事前に本学ホームページ内の「求人および実習施設検索」により情報を得ています。実習前（2週間前を目途）には、各施設情報を最新情報にアップデートをお願いします。実習前（1週間内を目途）に当該学生が電話連絡を致します。以下の項目を中心にご確認・説明をお願いします。

- ・ 実習初日の集合時間、集合場所、交通手段の確認
- ・ 昼食など生活面の確認
- ・ 書類の確認（必要に応じて）
- ・ 服装、持参物などの確認

2. 実習初日

実習当該施設における留意事項および施設の概要、業務内容、実習スケジュール、実習期間の生活など実習全般を通した注意事項などについてオリエンテーションをお願いします。また、以下の書類を学生よりお受け取りください。

- ・ 臨床実習評価表とそれを封入するための封筒（見学実習、地域実習を除く）
- ・ 実習指導者間連絡ノート
- ・ クリニカル・クラークシップチェックリスト
- ・ 出席表（臨床評価実習、臨床総合実習は実習評価表に綴じ込み）

なお、デイリーノート、ケースノート（臨床評価・臨床総合実習Ⅰ・Ⅱ）については学生で管理いたしますので、日々確認のうえ捺印をお願い致します。

3. 実習中

学生には本学から以下の課題を提示しています。（第Ⅲ章 8. 参照）

- ① 臨床実習指導者間連絡ノート
- ② デイリーノート

- ③ ケースノート
- ④ クリニカル・クラークシップチェックリスト
- ⑤ 症例報告レジュメ

②、③は基本的に毎日、①、④は適宜、ご確認ご指導をお願いします。学生は診療チームの一員として参加させていただきますので、①、④の項目には偏りが出るものと思われます。学生は早期臨床体験実習、臨床評価実習、臨床総合実習Ⅰ・Ⅱ、作業療法地域実習と複数の施設で実習を行います。①、④を参考に、各施設の特徴に応じて幅広い経験を積ませてください。また、臨床実習評価表にある出席表への毎日の記入をお願いします。実習期間中に何らかの問題が生じた場合は、できるだけ速やかにリハビリテーション学科 作業療法専攻までご連絡ください(代表:088-866-6119、または緊急連絡用携帯電話番号)。業務時間外などで電話の繋がらない場合は、メール連絡をお願いします。

1) 欠席、早退、遅刻について

欠席、早退、遅刻については、学生から実習機関の臨床実習指導者に報告致します。なお、早期体験実習に関しては引率教員より報告いたします。

2) 事故などの扱いについて

事故防止において十分なお配慮をお願い致します。

(1)実習生に対しては、対象者のリスクに関する情報を与えてください。

(2)実習生の臨床実習中の行動は、できる限り臨床実習指導者の監視下においてください。

(3)事故・感染症発生などの扱いについては、臨床実習指導者のもと担当教員と適切な処置をお願い致します。

※ 実習中(実習時間内、通勤中も含む)の事故に関しましては、全学生が加入しております「学生総合保険」で対応することが可能です。

3) 臨床実習施設訪問について 各実習期間の中旬頃に本学教員による臨床実習施設への訪問を予定しています。訪問に限らず学生の実習について気になる点がある場合、出来るだけ早めに当該専攻までご連絡ください。また、電話やメール、Web 会議システムなども活用することで、学生・実習施設・本学のより良い連携を図りたいと考えます。

4) 実習指導の方法(一般社団法人日本作業療法士協会 作業療法臨床実習の手引き(2018)より引用)

(1) 実習の形態

実習指導者が指導する学生数については、厚労省による理学療法士・作業療法士養成施設指導要領によれば、「実習施設における実習人員と当該施設の実習施設の実習指導者数の対比は2対1程度とすることが望ましい」とあります。これらを踏まえ、実習指導者は図1または図2のように、学生を1名ないし2名担当していただき、学生は実習指導者と共に対象者を担当し、チーム医療の一員として参加させてください。(診療参加型実習) 図1は実習指導者の担当学生を1名、図2は実習指導者の担当学生を2名(A・B)とした作業療法参加型臨床実習の形態例です。

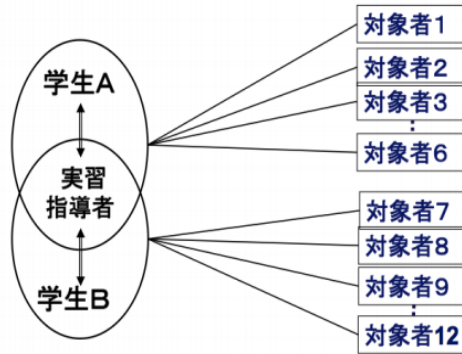
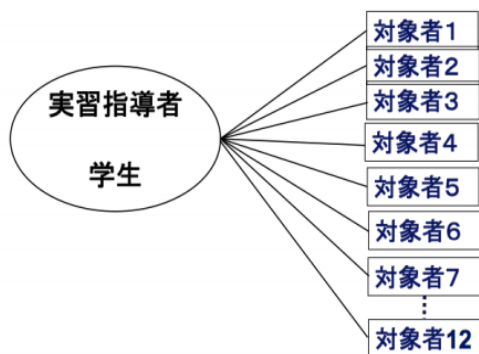


図1 実習指導体制（学生1名担当例）

図2 実習指導体制（学生2名担当例）

図3には、図1に示す担当学生Aについて作業療法参加型による実習指導の展開例を示しています。この展開例の対象者1で示すように、一例は実習指導者の作業療法過程（初期評価－治療－最終評価）を学生に経験させ、実習指導者の一貫した技能、臨床思考過程を学ばせてください。一連の臨床思考過程を学ぶことは重要であり、その作業療法過程を事例報告書として学生に整理させることで、さらにその理解を深めることは有効です。また対象者2～6では、技能単位（ROM、バランス検査、MMT、食事動作訓練など）で、臨床技能の向上を目指した指導を随時行ってください。

		臨床実習過程				
対象者1 (事例報告)	作業療法過程での診療参加	臨床技能	情報収集 面接 観察	検査測定	治療	再評価
		臨床思考過程	評価計画立案	評価結果の整理	目標設定	プログラム立案
対象者2	技能単位での診療参加	ROM	バランス検査	バランス訓練	MMT	
対象者3		MMT	高次脳機能検査	知能検査	更衣動作訓練	
対象者4		意識検査	ADL検査	感覚検査	食事動作訓練	高次脳機能検査
対象者5		観察	上肢機能検査	上肢機能訓練	書字動作訓練	退院前訪問
対象者6		排泄動作訓練		面接	家事動作訓練	

図3 診療参加型実習による実習指導の展開例

(2) 臨床実習指導の基本的な考え方

日本作業療法士協会の臨床実習の手引き第4版に「経営者や指導者、教育者にしばしば引用される教育論に山本五十六語録の『やって見せて、言って聞かせて、させてみて、誉めてやらねば、人は動かず』という一節がある。これには、人を育てるためには、やって見せること(垂範)、やり方を教えること(指導)、やらせること(試行)、褒めること(賞賛)の4つが必要であるという人を育てることの本質的な意味が込められている。臨床実習は、この指導理念を取り入れた実践教育が手がかかりとなる。」とあります(図4)。学生は患者への臨床技能の実践経験は殆どなく、学内での学生同士といった健常者同士での実技練習の経験しかありません。実習指導において「臨床実習は学内実習の技能を試す場ではなく、作業療法士として修得すべき基本的態度・臨床技能・臨床思考を育成する場である」よう指導をお願いいたします。

この指導の原則は、“学習の基本は模倣である”とし、実習指導者の指導・監督の下で臨床チームに参加し、実習指導者を手本(モデル)として、許容範囲の臨床体験を重ねることで、作業療法士としての基本的態度・臨床技能・臨床思考過程を修得していくという指導—学習形態をとる。これは、クリニカル・クラークシップ(Clinical Clerkship)の概念に類似します。

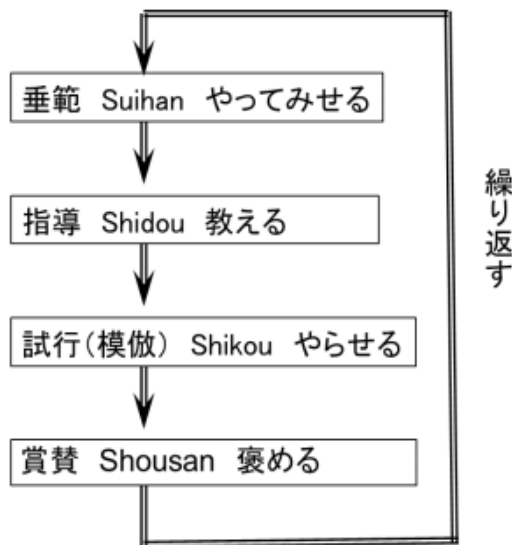


図4 人を育てる4つのSと指導の原則

(3) 見学・模倣・実施の臨床実習の教育プロセス

図5に作業療法臨床実習の過程、また各過程における指導内容を「基本的態度」「臨床技能」「臨床思考過程」に分けて示します。作業療法臨床実習においては、これらの指導項目を、見学—模倣—実施の教育課程の流れで指導していただきます(図6)。また、図7に「臨床実習の技能修得の流れと指導ポイント」を示します。

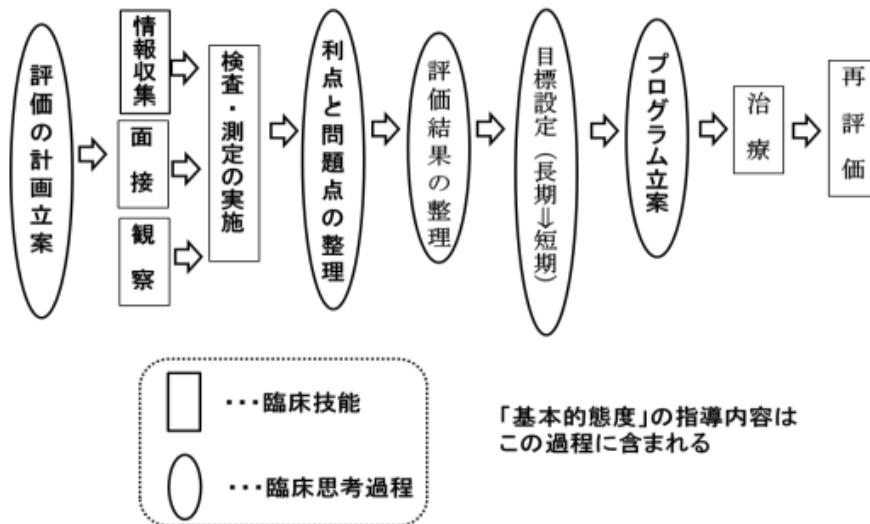


図5 臨床実習の過程と指導内容

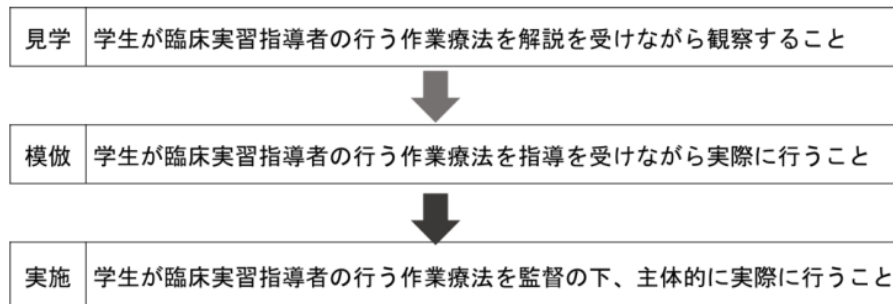


図6 基本的態度・臨床技能・臨床思考過程の習得の流れ（作業療法臨床実習指針 2018）

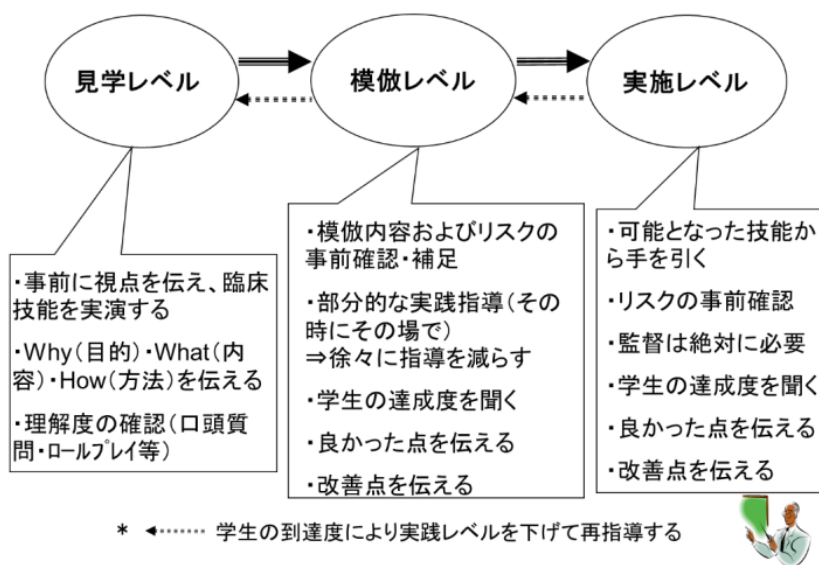


図7 臨床実習の技能習得の流れと指導ポイント

4. 実習最終日

実習最終日は必要書類を最終確認の上、学生の実習を評価し、改善すべき点などをご指導ください。書類については漏れのないように記入いただき、以下の通りご対応ください。

<本学へ郵送するもの>

- ① 臨床実習評価表（所定の封筒に封印し、当該専攻宛てにご郵送ください。）

<学生へ返却するもの>

- ① 実習指導者間連絡ノート ② デイリーノート ③ ケースノート ④ 一般情報シート
- ⑤ MTDLP シート ⑥ クリニカル・クラークシップチェックリスト ⑦ 実習生個人資料

※ 必要書類の取り扱い

- ・ 臨床実習評価表の表紙ならびに最終頁には、実習指導者の協会会員番号・氏名・ふりがなの記入・捺印をお願いします。（署名・捺印は実習指導者講習会を受講済みの先生に限ります。※見学実習，地域実習除く）
- ・ 臨床実習における教育目標の達成度評価を評価表に記載している達成度の判定基準に従い、実習指導者による評価を記入してください。実習全体を通しての総合評価※とコメントも含めて実習指導者からのフィードバックをお願いします。コメントは、実習で成長した点や優れている点、あるいは今後の実習または卒業後に克服すべき課題や目標について総合的かつ具体的にご記載ください。
- ・ デイリーノート、ケースノート、クリニカルクラークシップチェックリストの最終チェックをお願いします。
- ・ 実習個人資料を忘れず学生に返却ください。

5. その他（臨床実習の評定について）

設定した実習教育目標に対する学生の到達レベルを認定することと、学生の履修途次における学習の進展度合について、フィードバックを提供することを目的に、各実習（早期臨床体験実習、臨床評価実習、臨床総合実習Ⅰ、臨床総合実習Ⅱ、作業療法地域実習）後、学生に対する評価を実施します。臨床実習の評定は、学外評価と学内評価および出席状況などを総合し、作業療法学専攻の臨床実習評定会議において判定します。

第5章 大学教員の役割

学生の実習が有意義なものとなり、滞りなく終了するために、また臨床実習施設に対して不利益が生じないために、大学教員はあらゆる面で実習をサポートする。

1. 実習前

1) 事前セミナーの実施

教員は実習に関する事前セミナーを開催し、各実習施設の施設情報（医療施設分類や病床分類、併設施設、主な対象疾患など）を収集させ、必要と思われる内容について、十分な説明、指導を行う。学生の実習前の学習の到達度を把握するため、臨床評価実習前と臨床総合実習Ⅰ前に、学力試験ならびに実技試験もしくは客観的臨床能力試験（OSCE）を実施する。

2) 事前オリエンテーションの実施

教員は実習に関する事前オリエンテーションを開催し、「臨床実習教育の手引き」をもとに、以下の項目について確認、指導を実施する。

- ・ 保険加入の確認
- ・ 実習に対する心構え
- ・ 実習に関する各種書類の取り扱い
- ・ 事前セミナー・事後セミナーの実施と学習到達度の確認
- ・ その他（必要に応じて個別面談や補習）

3) 実習生個人資料の送付

教員は各実習の前に、実習生個人資料を作成し、実習指導者宛てに送付する。

4) その他

教育的配慮が必要と思われる学生については、担当教員より事前に連絡する。

2. 実習中

1) 実習期間中の実習地訪問

実習期間中、教員は臨床実習指導者と学生に連絡を取り、実習状況、進行具合について確認し、必要な調整と指導を行う。実習中の問題発生などに対して、必要に応じて連絡あるいは訪問を含めた対応を講じる。

2) 電話やメール連絡等による指導

必要に応じて学生と連絡を取り臨床実習の進捗状況などの指導を行う。

3) 緊急時の対応

緊急連絡対応教員が専用の携帯電話を所持し、緊急時の連絡に対応する。臨床実習指導者あるいは学生からの緊急の連絡があった場合、速やかに対応する。

3. 実習終了後

1) 事後セミナーの開催

実習の総括、また臨床実習後における学習の到達度を確認するために、事後セミナーを行う。

2) 成果報告会の開催 学生の文章作成能力や説明能力の向上、理解の深化を促すため、成果報告会を開催する。成果報告会を通して、各実習後における学修の到達度を評価する。

3) 実習後総合試験 臨床総合実習Ⅱ後に、学力試験ならびに客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、学修の到達度を包括的に評価する。

4) 単位認定

出席状況、提出課題、実習成績表、事前・事後セミナーなどを総合的に評価し単位認定を行う。

第6章 ハラスメントについて

本学は、「高知健康科学大学におけるハラスメント防止及び対策に関する規定」や「高知健康科学大学ハラスメント防止ガイドライン」を制定し、ハラスメントの防止に努めている。実習中についても学内の当該規定・ガイドラインを適用する。

1. 実習中のハラスメントの種類

1) セクシャル・ハラスメント

不必要な身体への接触・性的な言動、性別差別的言動、身体的特徴に対する言動、学生のプライバシーを詮索する言動などを指す。

2) アカデミック・ハラスメント

正当な理由なく教育指導を行わず、学習活動を困難にする行為、学習内容に関して不当に評価する言動、不当な課題の提示などを指す。

3) パワー・ハラスメント

人格を貶めるような発言、嫌がらせ行為、威嚇や恐怖を与えるような大声・怒鳴り声、見せしめ行為、ミスを不当に責める行為などを指す。

4) その他のハラスメント

種々の差別的行為や言動、いじめ行為等。

2. 本学のハラスメントに対する基本姿勢

- 1) 本学は、人権尊重の精神に則り、学生及び教職員が互いに尊重し合い、人として対等のコミュニケーションのうえに、平等に能力を発揮し協力し合える環境を作ることに努めなければならない。
- 2) 良好な環境のもと、その持てる力を最大限に活かし勉学、教育、研究、就労活動を遂行することは、全員の責務であり、大学の社会的使命でもある。

3. ハラスメントが起きないように留意すること

万が一ハラスメントが発生した場合は、速やかに、実習担当教員に相談してください。事実確認や仲裁をもって担当教員が迅速に対応します。

早期臨床体験実習 評価表

実習施設名 : _____

実習期間 : 年 月 日 ~ 月 日

実習指導者名 : _____ 印

学籍番号 : _____

学生氏名 : _____

高知健康科学大学 健康科学部

リハビリテーション学科

【出席表】

記載方法

①出席：捺印 ②欠席：／印 ③遅刻：×印 ④早退：△印

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
月日	/	/	/	/	/
出欠					
	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目
月日	/	/	/	/	/
出欠					

【見学・体験内容】

本実習で主に見学・体験させて頂いた内容についてご記入ください。

【コメント】

実習生が成長した点、今後の課題などについてご記入ください。

年 月 日

実習指導者名： _____ 印

高知健康科学大学 健康科学部
リハビリテーション学科

〒781-5103

高知県高知市大津乙 2500 番地 2

TEL : 088-866-6119

FAX : 088-866-6120

臨床評価実習 評価表

臨床実習施設名 : _____

臨床実習期間 : 年 月 日 ~ 月 日

臨床実習指導者名 : _____ 印

_____ 印

学籍番号 : _____

学生氏名 : _____

高知健康科学大学 健康科学部
リハビリテーション学科 理学療法学専攻

【出席表】

記載方法

①出席：捺印 ②欠席：/印 ③遅刻：×印 ④早退：△印 ⑤休日：休

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
第一週	日	/	/	/	/	/	/	/
	出欠							
第二週	日	/	/	/	/	/	/	/
	出欠							
第三週	日	/	/	/	/	/	/	/
	出欠							

実習時間

平日

_____ 時 _____ 分 ~ _____ 時 _____ 分

その他 (_____)

_____ 時 _____ 分 ~ _____ 時 _____ 分

週： _____ 時間

出席義務日数： _____ 日

欠席： _____ 日 遅刻： _____ 日 早退： _____ 日

臨床実習における行動目標の達成度評価表

教育目標1：理学療法の対象者に対して、一般的理学療法を体験し実践できる

達成度の判定基準

経験なし：見学もしていない。

見学：学生が解説を受けながら、実習指導者の技術を観察した。

模倣前期：指導者が行っている技術の手伝いや解説を受けた技術、観察した技術を、手取り足取りの指導を受けながら実施している。

模倣後期：指導された技術を、不十分な部分の支援を受けながら実施できる。

実施：指導された技術を、見守りや助言を受けながら、独力で実施できる。

1-1 理学療法の基本

0:経験なし 1:見学 2:模倣前期 3:模倣後期 4:実施(見守り)

行動目標	自己評価					指導者評価				
	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
*記入例(該当欄に○を書いてください。)				○						○
動作介助(誘導補助)										
1) 基本動作介助(誘導補助)ができる										
2) 移乗動作介助(誘導補助)ができる										
3) 移送介助(誘導補助)ができる										
4) 体位変換(ポジショニング含め)ができる										
記録と報告										
1) SOAPで記録できる										
2) 対象者の診療録を記載できる(学生が行った内容)										
3) 対象者の理学療法経過について報告できる										
4) 対象者の状態を適切にまとめ報告することができる										
リスク管理										
1) 標準予防策(standard precaution)を理解し、実施できる										
2) 症状(顔色、表情など)・病態の観察ができる										
3) 聴診法により血圧を測定することができる										
4) 脈診により脈拍数を測定できる										
5) 呼吸数を測定し呼吸の異常の有無を確認できる										
6) 心電図、パルスオキシメーターなどの各種モニターから異常の有無を確認できる										

7) 意識障害の評価ができる(観察、JCS、GCS など)										
8) 褥瘡を予防するための体位変換とポジショニングができる										
9) 転倒を予防するための易転倒性の確認、環境設定、指示、適切な介助位置を取ることができる										
10) 酸素吸入療法中の患者の管理ができる										

1-2 理学療法の対象者に理学療法評価を行うことができる

0:経験なし 1:見学 2:模倣前期 3:模倣後期 4:実施(見守り)

情報収取・分析	自己評価					指導者評価				
	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
1) 医学情報を収集できる (診療録、画像、各種検査結果など)										
2) 社会的情報を収集できる (家族、他職種、診療録など)										
3) 対象者の疾病の症候を説明できる										
問診										
1) 対象者の情報収集及び分析結果から系統立てて問診ができる										
2) 聴き取った情報を取捨選択し整理できる										
一般的評価技術										
1) 対象者に必要な検査・測定項目を列挙できる										
2) 対象者に検査・測定の目的・方法・リスクを説明できる										
3) 対象者の状態に応じて検査測定ができる。										
4) 打鍵器を用い深部腱反射、病的反射検査ができる										
5) 感覚検査ができる (表在感覚、深部感覚、複合感覚など)										
6) 呼吸音、心音などの聴診ができる										
7) メジャーを用い四肢長、周径測定ができる										
8) 筋緊張検査ができる (MAS など)										
9) 関節可動域検査ができる										
10) 筋力検査ができる (徒手筋力検査など)										
11) 協調運動機能検査ができる (指鼻指試験、踵膝試験、ロンベルグ試験など)										
12) 高次神経機能検査ができる (HDS-R、MMSE など)										
13) 脳神経検査ができる										
14) 姿勢観察ができる										

	自己評価					指導者評価				
	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
15) 基本的動作および移動動作能力の評価ができる (自立度、運動学的分析、10m歩行、TUG など)										
16) バランス検査ができる (BBS、FRT など)										
17) 日常生活活動評価ができる (Barthel Index、FIMなど)										
18) 手段的日常生活活動評価ができる (老研式活動能力指標など)										
19) 疼痛検査ができる (VAS、NRS、Face Scale など)										
20) 脳卒中運動機能検査ができる (Br stage、SIAS など)										
21) 整形外科的テストができる (ストレステスト、不安定テストなど)										
22) 脊髄損傷の評価ができる (ASIA、Frankelの分類 など)										
23) 神経・筋疾患の評価ができる (Hoehn & Yahr の重症度分類、UPDRSなど)										
24) 身体活動量の評価ができる(歩数計など)										
25) 運動耐容能の評価ができる (6分間歩行テストなど)										
26) 運動能力の発達評価ができる (能力低下評価法PEDI、GMFCS など)										

1-3 対象者の状況に応じて、科学的根拠に基づく目標設定・治療計画を理解できる

0:経験なし 1:全くできない 2:ややできない 3:ややできる 4:十分できる

	自己評価					指導者評価				
	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
統合と解釈										
1) 検査測定結果の統合的解釈について指導下で理解 できる										
2) 対象者の全体像の把握について指導下で理解できる										
問題点の抽出										
1) 対象者の生活機能をICFの観点で整理し、ケース を全体的・構造的に把握することについて指導下 で理解できる										
2) 問題点の抽出について指導下で理解できる										
3) 各検査データを相互に影響を及ぼす因子を見つけ ケースの障害像を把握することについて指導下で 理解できる										
目標設定・治療計画										
1) 問題点解釈の優先順位の設定について指導下で 理解できる										
2) 対象者の理学療法の短期ゴールについて指導下で 理解できる										
3) 対象者の理学療法の長期ゴールについて指導下で 理解できる										
4) 対象者の基本的な理学療法治療、指導計画について 指導下で理解できる										

1-4 理学療法治療・指導を行うことができる

0:経験なし 1:見学 2:模倣前期 3:模倣後期 4:実施(見守り)

一般的治療技術－運動療法－	自己評価					指導者評価				
	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
1) 関節可動域運動ができる										
2) 筋力増強運動ができる										
3) 全身持久力トレーニングができる										
4) 運動学習ができる										
5) バランス練習ができる										
6) 起き上がり動作練習ができる (発達を促す動作を含む)										
7) 移乗動作練習ができる (発達を促す動作を含む)										
8) 起立・着座動作練習ができる (発達を促す動作を含む)										
9) 床上動作練習ができる (発達を促す動作を含む)										
10) 歩行動作練習ができる										
11) 階段昇降練習ができる										
12) 車椅子駆動練習ができる										
13) 応用歩行動作練習ができる										
14) 日常生活活動練習ができる										
15) 手段的日常生活活動練習ができる										
一般的治療技術－物理療法－										
1) ホットパック療法に関して適応、禁忌を理解して実施できる										
3) アイスパック療法に関して適応、禁忌を理解して実施できる										
4) 過流浴療法(褥瘡・創傷治療を除く)に関して適応、禁忌を理解して実施できる										
5) 低出力レーザー光線療法に関して適応、禁忌を理解して実施できる										
6) EMG バイオフィードバック療法に関して適応、禁忌を理解して実施できる										
義肢・装具・福祉用具・環境整備										
1) 装具を理解し、使用に関して指導ができる										
2) 福祉用具(姿勢保持具を含む)を理解し、使用に関して指導ができる										
3) 義肢を理解し、使用に関して指導ができる										

教育目標2：理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚をもった行動がとれる

2-1 対象者を尊重し、共感的理解をもって、良い人間関係を形成できる

1:できない 2:普通 3:できる

	自己評価			指導者評価		
	1	2	3	1	2	3
1) 適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度で対象者に接することができる						
2) 指導助言より、共感的態度をもって、良い人間関係を形成できる						
3) 周囲における自己の存在を意識し、行動することができる						
4) 自らが置かれた立場で、必要とされている要件が理解でき、助言等により応答できる						
5) 対象者、家族の要求に対し、自身の感情をコントロールして接することができる						
6) 対象者、家族にとって、相談しやすい雰囲気作りを心がけることができる						

2-2 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚をもった行動がとれる

1:できない 2:普通 3:できる

	自己評価			指導者評価		
	1	2	3	1	2	3
1) 医療人としての心得や職場におけるルールを遵守する						
2) 部門におけるルールの理解と診療プロセスを理解する（処方の確認、計画書、効果判定、カルテ記録、算定手順など）						
3) 臨床実習指導者と十分なコミュニケーションを保って良好な関係を維持することができる						
4) 積極的に理学療法スタッフや関係職種と関わり、良好な関係を維持することができる						
5) 提出物は期限を守って提出することができる						
6) インシデントが生じた場合に適切に対応することができる（指導者へ報告など）						
7) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる						

教育目標3 臨床実習をとおして、自己の理学療法士としての自覚を高めること

1:できない 2:普通 3:できる

	自己評価			指導者評価		
	1	2	3	1	2	3
1) 基本的理学療法の体験、実践を通して、自己の理学療法観を育成できる						
2) カンファレンスや勉強会、学会活動などのリハビリテーションスタッフの行事に積極的に参加し、新たな知見を得ることができる						
3) 自己管理能力、生涯学習の態度を身につけることができる						
4) 理学療法士になることへの動機づけを高めることができる						
5) 十分な意欲をもって実習に参加することができる						
6) 文献や指導によって知識・技術を増やすことができる						
7) 医の倫理、生命倫理について説明できる						

◇総合評価

臨床実習全体を通して総合的に判断して、当該箇所に○印をつけてください。

優 良 可 不可

◇コメント

実習全体を通じて、学生が成長した点、今後の課題などについて記入してください。

年 月 日

実習指導者名： _____ 印

_____ 印

* 上欄と表紙に施設登録時に登録していただいている指導者の署名捺印が必要になります。

高知健康科学大学 健康科学部
リハビリテーション学科 理学療法学専攻

〒781-5103

高知県高知市大津2500 番地 2

TEL : 088-866-6119

FAX : 088-866-6120

臨床評価実習評価表

実習施設名 : _____.

実習指導者名 : _____.

実習期間 自 令和 年 月 日

至 令和 年 月 日

学生氏名 _____.

高知健康科学大学 健康科学部

リハビリテーション学科 作業療法学専攻

評価表の記載方法について

- ・行動目標に対し、評価尺度(Rating scale)を用いて評価します。
- ・各項目は4段階になっているので、該当するところに○をつけてください。
なお、該当しない項目は、~~優~~—~~良~~—~~可~~—~~不可~~ としてください。

優（良好）： わずかな助言・指導を与えるならば当該項目の実施が独立して可能であった。

良（普通）： 時々助言・指導を与えるならば当該項目の実施がほぼ独立して可能であった。

可(やや劣る)： 常に助言・指導を与えるならば当該項目の実施が可能であった。

不可(劣る)： 常に指導・助言を与えても当該項目の実施が不可能であった。

I . 作業療法士としての適性

1. 常識ある態度や行動をとる

評価項目	評価	備考
①課題提出期限、実習時間、約束などを守ることができる。	優 良 可 不可	
②対象者や職員に対し、状況に応じた挨拶ができる。	優 良 可 不可	
③礼儀をわきまえた態度や公私を区別した行動ができる。	優 良 可 不可	
④対象者や職員に対し敬意をもって話することができる。	優 良 可 不可	
⑤その場にふさわしい服装や身なりを整えることができる。	優 良 可 不可	
⑥守秘義務の重要性を理解し、遵守することができる。	優 良 可 不可	

コメント：

2. 対象者および家族・職員と望ましい人間関係を保つ

評価項目	評価	備考
①相手の気持ちに共感して、接したり話をすることができる。	優 良 可 不可	
②対象者に緊張を与えない態度で接することができる。	優 良 可 不可	
③自分の言動を相手がどう感じたか振り返ることができる。	優 良 可 不可	
④対象者と適切な距離をとり、接することができる。	優 良 可 不可	

コメント：

3. 関連職種との連携

評価項目	評価	備考
①職員、関係職種の役割を説明することができる。	優 良 可 不可	
②関連職種の中で作業療法士の役割を説明できる。	優 良 可 不可	
③関連職種と情報交換することができる。	優 良 可 不可	

コメント:

4. 学習に対する探究心、意欲、創造性がみられる

評価項目	評価	備考
①課題に対して責任をもって遂行することができる。	優 良 可 不可	
②疑問点についてディリーノートや口頭で質問できる。	優 良 可 不可	
③必要に応じて文献や資料を収集できる。	優 良 可 不可	
④指導者や関連職種の意見を受け入れ、意見交換できる。	優 良 可 不可	
⑤自ら課題遂行や問題解決を行おうとする姿勢がみられる。	優 良 可 不可	

コメント

Ⅱ . 評価技術

1 . 評価立案

評価項目	評価	備考
①疾患、障害の特徴を説明することができる。	優 良 可 不可	
②適切な評価手段を選択することができる。	優 良 可 不可	
③対象者の評価の流れを考え手順を組むことができる。	優 良 可 不可	

コメント:

2 . 評価実施

評価項目	評価	備考
①対象者に分かりやすい言葉で説明できる。	優 良 可 不可	
②検査・測定手技が適切に実施できる。	優 良 可 不可	
③評価に必要な物品の準備、場所の確保ができる。	優 良 可 不可	
④評価に必要な情報を適切に収集できる。	優 良 可 不可	
⑤観察から必要な情報を適切に収集できる。	優 良 可 不可	
⑥評価実施の際に安全への配慮ができる。	優 良 可 不可	

コメント:

3 . 評価の統合

評価項目	評価	備考
①対象者の全体像を捉えることができる。	優 良 可 不可	
②作業療法に必要な対応課題を列挙し、相互作用を考察できる。	優 良 可 不可	
③対象者に必要な作業療法目標の設定ができる。	優 良 可 不可	

コメント:

Ⅲ. 記録・報告

評価項目	評価	備考
①実習における記録および報告を専門用語を用いて作成できる。	優 良 可 不可	
②実習における報告を口頭で適切に行うことができる。	優 良 可 不可	

コメント:

Ⅳ . 管理・運営

評価項目	評価	備考
①カルテや諸記録等を適切に整理し、収納することができる。	優 良 可 不可	
②備品などの整理整頓、メンテナンスを行うことができる。	優 良 可 不可	
③部門における管理運営の対象を理解し実行することができる。	優 良 可 不可	

コメント:

臨床総合実習 評価表

臨床実習施設名 : _____

臨床実習期間 : 年 月 日 ～ 月 日

臨床実習指導者名 : _____ 印

_____ 印

学籍番号 : _____

学生氏名 : _____

高知健康科学大学 健康科学部
リハビリテーション学科 理学療法学専攻

【出席表】 記載方法 ①出席：捺印 ②欠席：/印 ③遅刻：×印 ④早退：△印 ⑤休日：休

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
第一週	日	/	/	/	/	/	/	/
	出欠							
第二週	日	/	/	/	/	/	/	/
	出欠							
第三週	日	/	/	/	/	/	/	/
	出欠							
第四週	日	/	/	/	/	/	/	/
	出欠							
第五週	日	/	/	/	/	/	/	/
	出欠							
第六週	日	/	/	/	/	/	/	/
	出欠							

実習時間

平日 _____ 時 _____ 分 ~ _____ 時 _____ 分

その他 () _____ 時 _____ 分 ~ _____ 時 _____ 分

週： _____ 時間 出席義務日数： _____ 日

欠席： _____ 日 遅刻： _____ 日 早退： _____ 日

臨床実習における行動目標の達成度評価表

教育目標1：理学療法の対象者に対して、一般的理学療法を体験し実践できる

達成度の判定基準

経験なし：見学もしていない。

見学：学生が解説を受けながら、実習指導者の技術を観察した。

模倣前期：指導者が行っている技術の手伝いや解説を受けた技術、観察した技術を、手取り足取りの指導を受けながら実施している。

模倣後期：指導された技術を、不十分な部分の支援を受けながら実施できる。

実施：指導された技術を、見守りや助言を受けながら、独力で実施できる。

1-1 理学療法の基本

0:経験なし 1:見学 2:模倣前期 3:模倣後期 4:実施(見守り)

行動目標	自己評価					指導者評価				
	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
*記入例(該当欄に○を書いてください。)				○						○
動作介助(誘導補助)										
1) 基本動作介助(誘導補助)ができる										
2) 移乗動作介助(誘導補助)ができる										
3) 移送介助(誘導補助)ができる										
4) 体位変換(ポジショニング含め)ができる										
記録と報告										
1) SOAPで記録できる										
2) 対象者の診療録を記載できる(学生が行った内容)										
3) 対象者の理学療法経過について報告できる										
4) 対象者の状態を適切にまとめ報告することができる										
リスク管理										
1) 標準予防策(standard precaution)を理解し、実施できる										
2) 症状(顔色、表情など)・病態の観察ができる										
3) 聴診法により血圧を測定することができる										
4) 脈診により脈拍数を測定できる										
5) 呼吸数を測定し呼吸の異常の有無を確認できる										
6) 心電図、パルスオキシメーターなどの各種モニターから異常の有無を確認できる										

7) 意識障害の評価ができる(観察、JCS、GCS など)										
8) 褥瘡を予防するための体位変換とポジショニングができる										
9) 転倒を予防するための易転倒性の確認、環境設定、指示、適切な介助位置を取ることができる										
10) 酸素吸入療法中の患者の管理ができる										

1-2 理学療法の対象者に理学療法評価を行うことができる

0:経験なし 1:見学 2:模倣前期 3:模倣後期 4:実施(見守り)

情報収取・分析	自己評価					指導者評価				
	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
1) 医学情報を収集できる (診療録、画像、各種検査結果など)										
2) 社会的情報を収集できる (家族、他職種、診療録など)										
3) 対象者の疾病の症候を説明できる										
問診										
1) 対象者の情報収集及び分析結果から系統立てて問診ができる										
2) 聴き取った情報を取捨選択し整理できる										
一般的評価技術										
1) 対象者に必要な検査・測定項目を列挙できる										
2) 対象者に検査・測定の目的・方法・リスクを説明できる										
3) 対象者の状態に応じて検査測定ができる。										
4) 打鍵器を用い深部腱反射、病的反射検査ができる										
5) 感覚検査ができる (表在感覚、深部感覚、複合感覚など)										
6) 呼吸音、心音などの聴診ができる										
7) メジャーを用い四肢長、周径測定ができる										
8) 筋緊張検査ができる (MAS など)										
9) 関節可動域検査ができる										
10) 筋力検査ができる (徒手筋力検査など)										
11) 協調運動機能検査ができる (指鼻指試験、踵膝試験、ロンベルグ試験など)										
12) 高次神経機能検査ができる (HDS-R、MMSE など)										
13) 脳神経検査ができる										
14) 姿勢観察ができる										

	自己評価					指導者評価				
	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
15) 基本的動作および移動動作能力の評価ができる (自立度、運動学的分析、10m歩行、TUG など)										
16) バランス検査ができる (BBS、FRT など)										
17) 日常生活活動評価ができる (Barthel Index、FIMなど)										
18) 手段的日常生活活動評価ができる (老研式活動能力指標など)										
19) 疼痛検査ができる (VAS、NRS、Face Scale など)										
20) 脳卒中運動機能検査ができる (Br stage、SIAS など)										
21) 整形外科的テストができる (ストレステスト、不安定テストなど)										
22) 脊髄損傷の評価ができる (ASIA、Frankelの分類 など)										
23) 神経・筋疾患の評価ができる (Hoehn & Yahr の重症度分類、UPDRSなど)										
24) 身体活動量の評価ができる(歩数計など)										
25) 運動耐容能の評価ができる (6分間歩行テストなど)										
26) 運動能力の発達評価ができる (能力低下評価法PEDI、GMFCS など)										

1-3 対象者の状況に応じて、科学的根拠に基づく目標設定・治療計画を理解できる

0:経験なし 1:全くできない 2:ややできない 3:ややできる 4:十分できる

	自己評価					指導者評価				
	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
統合と解釈										
1) 検査測定結果の統合的解釈について指導下で理解 できる										
2) 対象者の全体像の把握について指導下で理解できる										
問題点の抽出										
1) 対象者の生活機能をICFの観点で整理し、ケース を全体的・構造的に把握することについて指導下 で理解できる										
2) 問題点の抽出について指導下で理解できる										
3) 各検査データを相互に影響を及ぼす因子を見つけ ケースの障害像を把握することについて指導下で 理解できる										
目標設定・治療計画										
1) 問題点解釈の優先順位の設定について指導下で 理解できる										
2) 対象者の理学療法の短期ゴールについて指導下で 理解できる										
3) 対象者の理学療法の長期ゴールについて指導下で 理解できる										
4) 対象者の基本的な理学療法治療、指導計画について 指導下で理解できる										

1-4 理学療法治療・指導を行うことができる

0:経験なし 1:見学 2:模倣前期 3:模倣後期 4:実施(見守り)

一般的治療技術－運動療法－	自己評価					指導者評価				
	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
1) 関節可動域運動ができる										
2) 筋力増強運動ができる										
3) 全身持久力トレーニングができる										
4) 運動学習ができる										
5) バランス練習ができる										
6) 起き上がり動作練習ができる (発達を促す動作を含む)										
7) 移乗動作練習ができる (発達を促す動作を含む)										
8) 起立・着座動作練習ができる (発達を促す動作を含む)										
9) 床上動作練習ができる (発達を促す動作を含む)										
10) 歩行動作練習ができる										
11) 階段昇降練習ができる										
12) 車椅子駆動練習ができる										
13) 応用歩行動作練習ができる										
14) 日常生活活動練習ができる										
15) 手段的日常生活活動練習ができる										
一般的治療技術－物理療法－										
1) ホットパック療法に関して適応、禁忌を理解して実施できる										
3) アイスパック療法に関して適応、禁忌を理解して実施できる										
4) 過流浴療法(褥瘡・創傷治療を除く)に関して適応、禁忌を理解して実施できる										
5) 低出力レーザー光線療法に関して適応、禁忌を理解して実施できる										
6) EMG バイオフィードバック療法に関して適応、禁忌を理解して実施できる										
義肢・装具・福祉用具・環境整備										
1) 装具を理解し、使用に関して指導ができる										
2) 福祉用具(姿勢保持具を含む)を理解し、使用に関して指導ができる										
3) 義肢を理解し、使用に関して指導ができる										

教育目標2：理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚をもった行動がとれる

2-1 対象者を尊重し、共感的理解をもって、良い人間関係を形成できる

1:できない 2:普通 3:できる

	自己評価			指導者評価		
	1	2	3	1	2	3
1) 適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度で対象者に接することができる						
2) 指導助言より、共感的態度をもって、良い人間関係を形成できる						
3) 周囲における自己の存在を意識し、行動することができる						
4) 自らが置かれた立場で、必要とされている要件が理解でき、助言等により応答できる						
5) 対象者、家族の要求に対し、自身の感情をコントロールして接することができる						
6) 対象者、家族にとって、相談しやすい雰囲気作りを心がけることができる						

2-2 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚をもった行動がとれる

1:できない 2:普通 3:できる

	自己評価			指導者評価		
	1	2	3	1	2	3
1) 医療人としての心得や職場におけるルールを遵守する						
2) 部門におけるルールの理解と診療プロセスを理解する（処方の確認、計画書、効果判定、カルテ記録、算定手順など）						
3) 臨床実習指導者と十分なコミュニケーションを保って良好な関係を維持することができる						
4) 積極的に理学療法スタッフや関係職種と関わり、良好な関係を維持することができる						
5) 提出物は期限を守って提出することができる						
6) インシデントが生じた場合に適切に対応することができる（指導者へ報告など）						
7) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる						

教育目標3 臨床実習をとおして、自己の理学療法士としての自覚を高めること

1:できない 2:普通 3:できる

	自己評価			指導者評価		
	1	2	3	1	2	3
1) 基本的理学療法の体験、実践を通して、自己の理学療法観を育成できる						
2) カンファレンスや勉強会、学会活動などのリハビリテーションスタッフの行事に積極的に参加し、新たな知見を得ることができる						
3) 自己管理能力、生涯学習の態度を身につけることができる						
4) 理学療法士になることへの動機づけを高めることができる						
5) 十分な意欲をもって実習に参加することができる						
6) 文献や指導によって知識・技術を増やすことができる						
7) 医の倫理、生命倫理について説明できる						

◇総合評価

臨床実習全体を通して総合的に判断して、当該箇所に○印をつけてください。

優 良 可 不可

◇コメント

実習全体を通じて、学生が成長した点、今後の課題などについて記入してください。

年 月 日

実習指導者名： _____ 印

_____ 印

* 上欄と表紙に施設登録時に登録していただいている指導者の署名捺印が必要になります。

高知健康科学大学 健康科学部
リハビリテーション学科 理学療法学専攻

〒781-5103

高知県高知市大津乙2500番地2

TEL : 088-866-6119

FAX : 088-866-6120

臨床総合実習評価表

実習施設名 : _____

実習指導者名 : _____

実習期間 自 令和 年 月 日

至 令和 年 月 日

学生氏名 : _____

高知健康科学大学 健康科学部
リハビリテーション学科 作業療法専攻

評価表の記載方法について

- ・行動目標に対し、評価尺度(Rating scale)を用いて評価します。
- ・各項目は4段階になっているので、該当するところに○をつけてください。

なお、該当しない項目は、~~優~~—~~良~~—~~可~~—~~不可~~ としてください。

優(良好)： わずかな助言・指導を与えるならば当該項目の実施が独立して可能であった。

良(普通)： 時々助言・指導を与えるならば当該項目の実施がほぼ独立して可能であった。

可(やや劣る)： 常に助言・指導を与えるならば当該項目の実施が可能であった。

不可(劣る)： 常に指導・助言を与えても当該項目の実施が不可能であった。

I . 作業療法士としての適性

1. 常識ある態度や行動をとる

評価項目	評価	備考
①レポートの提出期限、実習時間、約束などを守ることができる。	優 良 可 不可	
②対象者、職員に対して状況に応じた挨拶ができる。	優 良 可 不可	
③対象者、職員の前で公私のけじめをつけた行動ができる。	優 良 可 不可	
④対象者や職員に対しては、敬意をもって話をできる。	優 良 可 不可	
⑤その場にふさわしい服装や身なりを整えることができる。	優 良 可 不可	
⑥守秘義務の重要性を理解し、遵守することができる。	優 良 可 不可	

コメント：

2. 対象者および家族・職員と望ましい人間関係を保つ

評価項目	評価	備考
①相手の状況や気持ちに共感して、接したり話をすることができる。	優 良 可 不可	
②対象者に緊張を与えないような雰囲気や態度で接することができる。	優 良 可 不可	
③自分の言動について、相手がどのように感じたかを振り返ることができる。	優 良 可 不可	
④対象者と適切な距離をとり、接することができる。	優 良 可 不可	

コメント：

3. 関連職種との連携

評価項目	評価	備考
①職員、関係職種の役割を説明することができる。	優 良 可 不可	
②関連職種の中で作業療法士の役割について説明することができる。	優 良 可 不可	
③関連職種と情報交換することができる。	優 良 可 不可	

コメント:

4. 学習に対する探究心、意欲、創造性がみられる

評価項目	評価	備考
①与えられた課題を責任をもって遂行することができる。	優 良 可 不可	
②疑問点について、ディリーノートや口頭で質問することができる。	優 良 可 不可	
③必要に応じて文献や資料を収集することができる。	優 良 可 不可	
④指導者や関連職種の意見を受け入れながら、意見交換をすることができる。	優 良 可 不可	
⑤自ら進んで課題遂行や問題解決を行おうとする姿勢がみられる。	優 良 可 不可	

コメント:

Ⅱ . 評価技術

1 . 評価立案

評価項目	評価	備考
①疾患、障害の特徴を説明することができる。	優 良 可 不可	
②適切な評価手段を選択することができる。	優 良 可 不可	
③対象者に応じた評価の流れを考え、手順を組むことができる。	優 良 可 不可	

コメント:

2 . 評価実施

評価項目	評価	備考
①対象者に分かりやすい言葉で、評説明をすることができる。	優 良 可 不可	
②検査・測定手技が適切に実施できる。	優 良 可 不可	
③評価に必要な物品の準備、場所の確保ができる。	優 良 可 不可	
④評価に必要な情報を適切に収集することができる。	優 良 可 不可	
⑤観察から必要な情報を適切に収集することができる。	優 良 可 不可	
⑥評価実施の際に安全への配慮ができる。	優 良 可 不可	

コメント:

3 . 評価の統合

評価項目	評価	備考
①対象者の全体像を捉えることができる。	優 良 可 不可	
②作業療法に必要な対応課題を列挙し、相互作用を考察できる。	優 良 可 不可	
③対象者に必要な作業療法目標の設定ができる。	優 良 可 不可	

コメント:

Ⅲ . 作業療法計画

評価項目	評価	備考
①対象者の対応課題を整理し、ゴールを設定することができる。	優 良 可 不可	
②対象者のゴールを具体的な治療/支援計画を立てることができる。	優 良 可 不可	
③対象者の変化に対し、柔軟に計画の修正を行うことができる。	優 良 可 不可	

コメント:

Ⅳ . 作業療法実施

評価項目	評価	備考
①対象者の家族に対して、必要な説明や指導を行うことができる。	優 良 可 不可	
②作業療法を適切に実施できる。	優 良 可 不可	
③作業療法実施の際に、安全を考慮できる。	優 良 可 不可	
④対象者の変化に応じた作業療法を実施できる。	優 良 可 不可	

コメント:

V . 記録・報告

評価項目	評価	備考
①実習における必要な記録、および報告を専門用語を用いて適切に作成することができる。	優 良 可 不可	
②実習における報告を口頭で適切に行うことができる。	優 良 可 不可	

コメント:

VI . 管理・運営

評価項目	評価	備考
①カルテ、諸記録、各種書類等を適切に整理し、指定場所に収納することができる。	優 良 可 不可	
②備品などの整理整頓、メンテナンスを行うことができる。	優 良 可 不可	
③部門における管理・運営の対象を理解し、実行することができる。	優 良 可 不可	

コメント:

地域実習 評価表

実習施設名 : _____

実習期間 : 年 月 日 ~ 月 日

実習指導者名 : _____ 印

学籍番号 : _____

学生氏名 : _____

高知健康科学大学 健康科学部

リハビリテーション学科

【出席表】

記載方法

①出席：捺印 ②欠席：／印 ③遅刻：×印 ④早退：△印

	月	火	水	木	金
月日	／	／	／	／	／
出欠					

【見学・体験内容】

本実習で主に見学・体験させて頂いた内容についてご記入ください。

【コメント】

実習生が成長した点、今後の課題などについてご記入ください。

年 月 日

実習指導者名： _____ 印

高知健康科学大学 健康科学部
リハビリテーション学科

〒781-5103

高知県高知市大津乙2500番2

TEL : 088-866-6119

FAX : 088-866-6120

理学療法学専攻 臨床実習施設一覧

No.	施設名	施設種別	所在地	学生受入れ数			
				評価	総合Ⅰ	総合Ⅱ ①	総合Ⅱ ②
1	済生会湘南平塚病院	医療機関	神奈川県平塚市宮松町18-1		1		1
2	静岡済生会療育センター令和	小児施設	静岡県静岡市駿河区曲金5-3-30		1	1	
3	藍の都脳神経外科病院	医療機関	大阪府大阪市鶴見区放出東2-21-16	1	1	1	1
4	京都大学医学部附属病院	医療機関	京都府京都市左京区聖護院川原町54	1	1	1	1
5	野瀬病院	医療機関	兵庫県神戸市長田区二葉町5丁目1-36	1	1	1	1
6	高岡病院	医療機関	兵庫県姫路市西今宿5-3-8		1	1	1
7	姫路聖マリア病院	医療機関	兵庫県姫路市仁豊野650				1
8	姫路赤十字病院	医療機関	兵庫県姫路市下手野1丁目12番1号		1	1	
9	姫路第一病院	医療機関	兵庫県姫路市御国野町国分寺143		1	1	1
10	国立病院機構 福山医療センター	医療機関	広島県福山市沖野上町4-14-17	1			
11	中国電力株式会社 中電病院	医療機関	広島県広島市中区大手町3-4-27			1	
12	香川大学医学部附属病院	医療機関	香川県木田郡三木町池戸1750-1		1		
13	おさか脳神経外科病院	医療機関	香川県高松市三名町378-1			1	
14	まるがめ医療センター	医療機関	香川県丸亀市津森町219番地		1		
15	松井病院	医療機関	香川県観音寺市村黒町739	2	2	2	2
16	三豊総合病院企業団	医療機関	香川県観音寺市豊浜町姫浜708		1	1	
17	橋本病院	医療機関	徳島県徳島市中常三島町3丁目22-1		1		
18	さいとう整形外科クリニック	医療機関	徳島県小松島市中田町土持21-25		1	1	1
19	国立病院機構 徳島病院	医療機関	徳島県吉野川市鴨島町敷地1354		1	1	
20	いずみの病院	医療機関	高知県高知市薊野北町2-10-53	1	1	1	1
21	きんろう病院	医療機関	高知県高知市薊野北町3-2-28	1	1	1	1
22	愛宕病院	医療機関	高知県高知市愛宕町1丁目1-13	1	1	1	
23	介護老人保健施設 あいおい	老人保健施設	高知県高知市相生町1-35	1	1	1	1
24	高知病院	医療機関	高知県高知市相生町1-35			1	1
25	近森オルソリハビリテーション病院	医療機関	高知県高知市北本町1-2-6	1	1	1	1
26	島津病院	医療機関	高知県高知市比島町4丁目6-22	1	1	1	1
27	だいいちリハビリテーション病院	医療機関	高知県高知市九反田2-14	2	1	1	
28	近森リハビリテーション病院	医療機関	高知県高知市廿代町2-22	2	2	1	1
29	さんさんクリニック	医療機関	高知県高知市鷹匠町1丁目1-8			1	
30	上町病院・上町病院介護医療院	医療機関	高知県高知市上町1-7-34	1	1		
31	高知整形・脳外科病院	医療機関	高知県高知市上町4-7-20	2	1	1	1
32	田中整形外科病院	医療機関	高知県高知市上町3丁目2-6	1			1
33	内田脳神経外科	医療機関	高知県高知市塚ノ原37	1		1	
34	もみのき病院	医療機関	高知県高知市塚ノ原6番地1	1			1
35	高知生協病院	医療機関	高知県高知市口細山206-9	1		1	
36	高知西病院	医療機関	高知県高知市神田317-12				1
37	高知県立療育福祉センター	小児施設	高知県高知市若草町10-5				1

38	高知厚生病院	医療機関	高知県高知市葛島1-9-50	1			
39	国立病院機構 高知病院	医療機関	高知県高知市朝倉西町1丁目2番25号	1	1	1	1
40	近森病院	医療機関	高知県高知市大川筋1-1-16	1	1	1	1
41	細木病院	医療機関	高知県高知市大膳町37	2	1		
42	高知赤十字病院	医療機関	高知県高知市秦南町一丁目4番63-11号			1	
43	海里マリン病院	医療機関	高知県高知市仁井田1617-5	2	1	1	1
44	永井病院	医療機関	高知県高知市春野町西分2027-3	1	1	1	
45	リハビリテーション病院すこやかな杜	医療機関	高知県高知市春野町芳原1316-1	1		1	
46	川田整形外科	医療機関	高知県土佐市高岡町甲920-1	1	1	1	1
47	白菊園病院	医療機関	高知県土佐市新居萩の里1	1	1	1	
48	野市中央病院	医療機関	高知県香南市野市町東野555-18	1			1
49	介護老人保健施設リゾートヒルやわらぎ	老人保健施設	高知県安芸郡芸西村和食甲4249	1	1	1	1
50	芸西病院	医療機関	高知県安芸郡芸西村和食甲4268	1	1	1	1
51	芸西オルソクリニック	医療機関	高知県安芸郡芸西村和食甲1495-1	1			
52	田野病院	医療機関	高知県安芸郡田野町1414-1	1	1	1	1
53	高知総合リハビリテーション病院	医療機関	高知県高知市一宮南町一丁目10番15号	2			1
54	三愛病院	医療機関	高知県高知市一宮西町1丁目7-25	1		1	
55	香長中央病院	医療機関	高知県香美市土佐山田町西本町5丁目5-34	1	1	1	1
56	南国中央病院	医療機関	高知県南国市後免町3-1-27			1	
57	介護老人保健施設 夢の里	老人保健施設	高知県南国市岡豊町中島1521-1		1	1	1
58	高知大学医学部附属病院	医療機関	高知県南国市岡豊町小蓮185-1	1	1	1	1
59	JA高知病院	医療機関	高知県南国市明見字中野526-1	1	1		
60	高知県立あき総合病院	医療機関	高知県安芸市宝永町3-33		1	1	
61	高陵病院	医療機関	高知県須崎市横町1-28	1	1	1	1
62	須崎くろしお病院	医療機関	高知県須崎市緑町4-30	1	1		1
63	大西病院	医療機関	高知県高岡郡四万十町古市町6-12				1
64	竹本病院	医療機関	高知県四万十市右山1973-2	1	1	1	1
65	渭南病院	医療機関	高知県土佐清水市越前町6番1号	1	1	1	1
66	筒井病院	医療機関	高知県宿毛市平田町戸内1802	1	1	1	1
67	高知県立幡多けんみん病院	医療機関	高知県宿毛市山奈町芳奈3-1			1	1
68	松山リハビリテーション病院	医療機関	愛媛県松山市高井町1211番地		1		
69	南高井病院	医療機関	愛媛県松山市南高井町333	1	1	1	1
70	加戸病院	医療機関	愛媛県喜多郡内子町内子771番地		1		
71	介護老人保健施設まなべ	老人保健施設	愛媛県西条市小松町妙口甲1521番地		1		1
72	宇和島徳洲会病院	医療機関	愛媛県宇和島市住吉町2丁目6-24			1	
73	ジェイコー宇和島病院	医療機関	愛媛県宇和島市賀古町2-1-37			1	
74	広瀬病院	医療機関	愛媛県今治市拝志1-26			1	
75	伊予病院	医療機関	愛媛県伊予市八倉906-5			1	
76	福岡大学病院	医療機関	福岡県福岡市城南区七隈7-45-1	1	1	1	1
	合	計		52	52	55	44

作業療法学専攻 実習施設一覧

No.	施設名	種別	所在地	学生受入数			
				評価	総合Ⅰ	総合Ⅱ①	総合Ⅱ②
1	愛宕病院	医療機関	高知県高知市愛宕町1-1-13	2	1	1	1
2	愛宕病院分院	医療機関	高知県高知市長浜6012-1	1	1		
3	高知病院	医療機関	高知県高知市相生町1-35				1
4	近森病院	医療機関	高知県高知市大川筋一丁目1-16	2			1
5	近森リハビリテーション病院	医療機関	高知県高知市廿代町2-22	2	2	1	2
6	近森オルソリハビリテーション病院	医療機関	高知県高知市北本町1-2-6	1	1	1	1
7	みなみの風診療所	医療機関	高知県高知市栄田町3-7-1			1	
8	土佐病院	精神分野	高知県高知市新本町2-10-24	1	1		1
9	函南病院	医療機関	高知県高知市知寄町1-5-15				1
10	久病院	医療機関	高知県高知市桜井町1丁目2番35号	1		1	
11	藤戸病院	精神分野	高知県高知市上町1-4-24	1	1	1	1
12	田中整形外科病院	医療機関	高知県高知市上町3丁目2-6	1		1	
13	高知整形・脳外科病院	医療機関	高知県高知市上町4-7-20	2	1	1	1
14	介護老人保健施設ピアハウス高知	老人保健施設	高知県高知市塚ノ原36	1		1	
15	内田脳神経外科	医療機関	高知県高知市塚ノ原37	1	1		1
16	もみのき病院	医療機関	高知県高知市塚ノ原6-1	1	1	1	
17	高知西病院	医療機関	高知県高知市神田317-12				1
18	高知脳神経外科病院	医療機関	高知県高知市朝倉戊767-5				1
19	高知県立療育福祉センター	小児施設	高知県高知市若草町10-5			1	
20	細木病院	医療機関	高知県高知市大膳町37	1	1	1	1
21	高知赤十字病院	医療機関	高知市秦南町一丁目4番63-11号			1	
22	いずみの病院	医療機関	高知県高知市薊野北町2-10-53	1	1	1	1
23	きんろう病院	医療機関	高知県高知市薊野北町3-2-28	1	1	1	1
24	横浜病院	医療機関	高知県高知市横浜東町10-1				1
25	海辺の杜ホスピタル	精神分野	高知県高知市長浜251	1	1	1	1
26	リハビリテーション病院すこやかな杜	医療機関	高知県高知市春野町芳原1316-1	1	1		
27	高知ハビリテーリングセンター	授産施設	高知県高知市春野町内ノ谷63-6				1
28	だいいちリハビリテーション病院	医療機関	高知県高知市九反田2-14	1	2	2	2
29	土佐市立土佐市民病院	医療機関	高知県土佐市高岡町甲1867	1	1	1	1
30	白菊園病院	医療機関	高知県土佐市新居菽の里1	1	1		1
31	北島病院	医療機関	高知県高岡郡越知町越知甲1502-2	1	1	1	1

32	野市中央病院	医療機関	高知県香南市野市町東野555-18		1	1	
33	介護老人保健施設リゾートヒルやわらぎ	老人保健施設	高知県安芸郡芸西村和食甲4249	1	1	1	1
34	芸西病院	医療機関	高知県安芸郡芸西村和食甲4268	1	1	1	1
35	田野病院	医療機関	高知県安芸郡田野町1414-1	1	1		1
36	介護老人保健施設梅寿苑	老健施設	高知県高知市土居町9-18	1	1		
37	高知医療センター	医療機関	高知県高知市池2125番地1	1	1	1	1
38	南国病院	精神分野	高知県南国市大埴甲1479-3	2	1	1	1
39	南国中央病院	医療機関	高知県南国市後免町3-1-27				1
40	土佐希望の家 医療福祉センター	小児施設	高知県南国市小籠107番地	1		1	
41	高知大学医学部附属病院	医療機関	高知県南国市岡豊町小蓮185-1	1	1	1	1
42	JA高知病院	医療機関	高知県南国市明見字中野526-1	1			
43	高知県立あき総合病院	精神分野	高知県安芸市宝永町3-33	1	1	1	
44	一陽病院	精神分野	高知県須崎市赤崎町9-3	1		1	
45	須崎くろしお病院	医療機関	高知県須崎市緑町4-30	1	1	1	1
46	竹本病院	医療機関	高知県四万十市右山1973-2	1	1	1	1
47	渡川病院	精神分野	高知県四万十市具同2278-1	4	4	4	4
48	大井田病院	医療機関	高知県宿毛市中央8丁目3番6号	2	2	2	2
49	筒井病院	医療機関	高知県宿毛市平田町戸内1802		1		
50	清和病院	精神分野	高知県高岡郡佐川町乙1777	2	2	2	2
51	おおりん病院	精神分野	福岡県大野城市中央1丁目13番8号				1
合 計				48	40	39	42

高知健康科学大学 臨床実習に関する委託契約書

受託者 ○○○病院（以下「甲」という）と、委託者 高知健康科学大学（以下「乙」という）とは、甲乙両当事者間において、乙のリハビリテーション学科○○学専攻学生の臨床実習に関する委託契約を行うものとする。

（総則）

第1条 甲は本契約に基づき乙の臨床実習学生に対し、甲の施設設備を提供し定められた指導者の下で学生指導を行うものとする。

（実習期間）

第2条 乙は、甲に対し実習期間を、実習開始6か月前までに協議するものとする。

（実習場所）

第3条 臨床実習指導は甲の施設において実施するものとする。

- (1) 名称 医療法人○○会 ○○○病院
- (2) 所在地 高知県○○市○○町○丁目○○番地

（実習指導担当者）

第4条 甲は、実習指導担当者（臨床実習指導者講習会受講者）を配置し、実習期間中の学生に対する直接的指導および実習指導に関する総合調整を行うものとする。

- 2 実習指導担当者は、乙の開催する臨床実習指導者会議や実習指導担当者を対象とした研修会に参加するほか、臨床実習教育の資質向上に協力するものとする。

（個人情報の保護）

第5条 甲乙双方は、臨床実習の実施にあたって甲の保有する個人情報および学生の個人情報等の漏えいが生じないように、個人情報等を適正に管理する。

- 2 乙は学生に対し、実習期間中および実習終了後も実習期間中に知り得た事項を第三者に口外せぬよう、個人情報保護の重要性を認識させ、適切な指導をするものとする。

（学生の事故）

第6条 臨床実習期間中の学生の関係する事故は、乙が加入する学生総合保険等により対応するものとする。

（実習委託料）

第7条 学生の臨床実習委託料は、学生1人当たり1週4,000円とする。

(臨床実習委託料の支払い)

第8条 乙は、臨床実習終了後、速やかに甲の指定口座に支払うものとする。

(損害補償)

第9条 実習期間中に甲の管理下における物、人に対して学生がその責めに帰すべき事由により、損害を与えたときは、原則として乙が加入する学生総合保険において対応するものとし、それにより難しい場合は甲が協議して対応するものとする。

(契約の解除)

第10条 甲は、乙がこの契約に違反したとき、この契約を解除することができる。

(遵守事項)

第11条 契約書の履行については、甲乙双方関係法規に定めるところにより遵守するものとする。

(協議事項)

第12条 本契約の履行について疑義が生じた場合、又は、契約期間中途にその内容を変更しようとするとき、若しくは本契約に定めのない事由については、その都度甲乙協議して定めるものとする。

(契約期間)

第13条 本契約書による契約期間は、令和6年4月1日より令和7年3月31日までの1年間とする。但し、期間満了の1ヶ月前までに甲乙いずれから何らかの申し出のないときは、自動的に1年間延長されるものとし、その後も同様とする。

この契約を証するため契約書2通を作成し、甲乙記名押印の上、各自1通を保管するものとする。

令和〇年〇月〇日

甲（受託者） 高知県〇〇市〇〇町〇丁目〇〇番地
医療法人 〇〇会 〇〇〇病院
院長 〇〇〇〇

乙（委託者） 高知県高知市大津乙 2500-2
高知健康科学大学
学長 宮口 英樹

学研災付帯学生生活総合保険のご案内※日本人学生向け

本学ではご入学からご卒業まで、安心して学生生活を過ごせるよう、安全対策には万全を尽くしております。しかしながら、近年は学生の生活様式も多様化し、交通事故や日常生活でのケガなどが増えております。また、学生が誤って他人のものを破損したり、ケガを負わせることでの賠償事故も発生しております。

本学では、(公財)日本国際教育支援協会の『学生教育研究災害傷害保険(略称:学研災)』への加入を原則としておりますが、日常生活全体までカバーされていません。

そこで本学では、学生生活全般に対応できる補償制度として、『学研災付帯学生生活総合保険(略称:付帯学総)』を強く推奨しております。

● **新型コロナウイルス感染症にも対応しております。**

(治療費用(一部負担金※)、救援者費用、学資費用(病気)が対象。)

※新型コロナウイルス感染症の治療費用は基本的には公費負担となりますが、自己負担が発生する場合がございます。

● **ケガだけでなく、風邪など病気による通院を補償。**

調剤薬局で処方されたお薬代も対象となります。

● 「メディカルアシスト」が自動セットされており、お電話(フリーダイヤル)にて、無料医療相談が可能。

● **Web加入手続きで、月単位での中途加入が可能。**

※在学期間より、保険料は異なりますが、Web加入では在学期間に合わせて保険料が自動計算されます。

より安心な学生生活を過ごすためにも、本制度をご理解の上、是非この機会にご加入頂きますようご案内申し上げます。下記に記載のQRコードを読み込んで頂き、Web加入手続きを実施頂くことでスムーズにご加入頂けます。

1.ご加入タイプと保険期間

	＜一般学部・研究科用＞						＜医学系学部・研究科用＞					
	自宅生用			一人暮らし用			自宅生用			一人暮らし用		
	Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ	Dタイプ	Eタイプ	Fタイプ	Gタイプ	Hタイプ	Iタイプ	Jタイプ	Kタイプ	Lタイプ
個人賠償責任	1事故 国内:1億円 国外:1億円 限度											
死亡・後遺障害(ケガ)	100万円											
入院・通院(ケガ)	治療費用実費 (医療機関の窓口で自己負担した費用を補償)											
入院・通院(病気)												
救援者費用等	100万円											
感染予防費用	－ (医学系学部・研究科のみ適用)						50万円					
育英費用(ケガ)	対象外	100万円	100万円	対象外	100万円	100万円	対象外	100万円	100万円	対象外	100万円	100万円
学資費用(ケガ)	対象外	50万円	50万円	対象外	50万円	50万円	対象外	50万円	50万円	対象外	50万円	50万円
学資費用(病気)	対象外	対象外	50万円	対象外	対象外	50万円	対象外	対象外	50万円	対象外	対象外	50万円
生活用動産	対象外	対象外	対象外	50万円	50万円	50万円	対象外	対象外	対象外	50万円	50万円	50万円
借家人賠償責任	対象外	対象外	対象外	300万円	300万円	300万円	対象外	対象外	対象外	300万円	300万円	300万円
保険料 (例：3年8ヵ月分)	33,950円	38,210円	53,470円	39,460円	43,720円	58,980円	34,030円	38,290円	53,550円	39,540円	43,800円	59,060円

2.下記QRコードからお申し込みください

- ①サイトへアクセス→②事前登録→③加入内容の入力→
④加入タイプの選択→⑤コンビニの選択→⑥コンビニで保険料払込
<URL>
<https://tokiomarine.secure.force.com/futaigakuso?id=0013200>
※払込日翌日午前0時より補償開始となります。



3.その他

こちらのチラシは学研災付帯学生生活総合保険の概要についてご紹介したものです。
ご契約にあたっては、必ず「パンフレット」並びに「重要事項説明書」をよくお読みください。
ご不明点がございましたら、下記お問い合わせ先にご連絡ください。




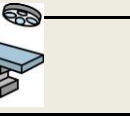


お問い合わせ先

【取扱代理店】
【引受保険会社】

東京海上日動あんしんコンサルティング株式会社
東京海上日動火災保険株式会社

TEL:0120-811-806
TEL:022-225-6321

* 全国の大学での一例です

補償内容		事例	保険金お支払額
治療費用 (病気・ケガ) 健康保険等の自己負担分 (高額療養費・給付は 控除されます)	通院1日でも補償		
	医師の処方箋に基づいたお薬代も補償		
	風邪をひいて1回受診した。	1,260円	
	バレーボールで突き指して2回通院した。	4,630円	
個人賠償責任 臨床実習にも対応 自転車条例に対応	示談交渉サービス付		
	自転車の事故も補償		
	臨床実習で使用の鼓膜ファイバーを誤って落とし破損。	225,720円	
感染予防費用 臨床実習に対応 院内感染も補償	病院実習で床コードに足を引っ掛け 歯石取り機器を破損。	81,795円	
	自転車で走行中、他人にぶつかり大けがを負わせた。 	3,660,000円	
救済者費用 一人暮らし用プラン	実習中、結核患者と接触したため、感染予防 措置を受けた。 	6,673円	
	実習中、使用済みの注射針が自身に刺さり、 感染予防措置を受けた。 	35,800円	
育英費用・ 学資費用	急性胃腸炎で3日以上入院し、両親が駆けつけた際の宿泊費と往復交通費。	116,150円	
	扶養者が交通事故で死亡した。 扶養者が登山中の事故で死亡し、大学の授業料等の費用を請求した。	1,000,000円 1,190,000円	
一人暮らし用プラン	建物外への持ち出し家財も補償		
	生活用動産 駅前の駐輪場で自転車が盗難にあった。	25,000円	
借家人賠償	火災・爆発等に加え、偶然な事故による破損も補償		
	下宿先の部屋の模様替え中、家具が窓ガラスに当たり破損。 	89,640円	

東京海上日動

メディカルアシスト (各種相談医療サービス)

24時間
365日
受付



急に激しい頭痛!
どうしたらいいの?



現役の救急の
専門医が
常駐!

困ったときはお電話一本!!
緊急医療相談

持病の腰痛が気になる。
良い治療法は
ないかな…



困ったときはお電話一本!!
予約制専門医相談

旅行先で急病!
最寄りの病院を
知りたい!!



困ったときはお電話一本!!
医療機関案内

合宿先で倒れ入院。
自宅近くの病院に
転院したい…



困ったときはお電話一本!!
転院・患者移送手配

検査結果を聞きに
行ったが、言葉が難しく
よくわからなかった。



困ったときはお電話一本!!
がん専用相談窓口

自動セット

※各サービスは、弊社提携先を通じてご提供いたします。なお、サービスの内容は予告なく変更される場合がありますので、ご了承ください。

サービスの対象は、学生本人の治療費用実費(治療費用保険金)をお支払いするタイプにご加入の方とご親族に日本国内で発生した身の回りの事象(事業活動等を除きます。)とします。
詳しくは、東京海上日動のホームページ「<http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>」をご参照ください。

教育課程と指定規則の対比表（理学療法学専攻）

教育課程						指定規則の教育内容						基礎分野		専門基礎分野				専門分野					計
						科学的思考の基礎	人間と生活	社会の理解	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎理学療法学	理学療法管理学	理学療法評価学	理学療法治療学	地域理学療法	臨床実習						
区分	授業科目	配当年次	単位数		時間数	履修方法及び卒業要件		14		12	14	4	6	2	6	20	3	20	101				
教養基礎科目	初年次科目	ラーニングリテラシー	1前	1	15	教養基礎科目必修18単位を含む22単位以上を履修	●																
		情報リテラシー	1前	1	15																		
		初年次IPE演習	1前	1	15			●															
	人間の探求	人間科学概論	1前	2	30				●														
		心理学	1後	2	30				●														
		生命倫理学	1前		1		15	教養科目A (1単位)															
	社会の探求	医療人類学	1後		1		15																
		社会学概論	1前	2	30					●													
		情報と社会	1後	1	15																		
	自然の探求	法律と社会	1後		1		15	教養科目B (1単位)															
		教育と社会	1後		1		15																
		データサイエンス	3前	2	30				●														
	言語の探求	災害と共に生きる	1前	1	15																		
		ライフサイエンス生物学	1前		1		15	教養科目C (1単位)	●														
		バイオメカニクス	1後		1		15		●														
	保健体育	基礎英語	1前	2	30																		
		コミュニケーション論	1前	1	15																		
		コミュニケーション英語	1後		1		15	教養科目D (1単位)															
	異文化コミュニケーション(中国語)	1後		1	15																		
	スポーツ実践	1前	2	30																			
	小計			18	8	390	22	330	22											22			
専門基礎科目	リハビリテーション基礎医学	解剖学Ⅰ	1前	2	30	専門基礎科目必須52単位を履修				●													
		解剖学Ⅱ	1後	2	30						●												
		骨学筋学Ⅰ	1前	1	15						●												
		骨学筋学Ⅱ	1後	1	15						●												
		体表解剖学	2前	1	15						●												
		組織学	2後	1	15						●												
		生理学Ⅰ	1前	2	30						●												
		生理学Ⅱ	1後	2	30						●												
		生理学演習Ⅰ	1前	1	15						●												
		生理学演習Ⅱ	1後	1	15						●												
		応用解剖生理学	3後	1	15						●												
		身体運動学Ⅰ	1前	2	30						●												
		身体運動学Ⅱ	1後	2	30						●												
		運動生理学	2前	2	30						●												
		人間発達学	1前	2	30						●												
		脳科学概論	2後	2	30										●								
		医学英語	2前	1	15																		
		臨床医学	リハビリテーション医学	1後	1		30																
	病理学		1後	2	30																		
	内科学		2前	2	30																		
	神経内科学		2後	2	30																		
	整形外科		2前	2	30																		
	精神医学		2前	2	30																		
	小児科学		2後	2	30																		
	臨床心理学		2後	2	30																		
	臨床栄養学		3前	1	15																		
	臨床薬理学		3前	1	15																		
	救急救命処置演習		3後	1	15																		
	保健医療福祉	リハビリテーション概論	1前	1	15																		
健康科学概論		2前	2	30																			
社会福祉学概論		2後	2	30																			
災害リハビリテーション		3後	1	15																			
国際リハビリテーション学		4前	1	15																			
	福祉住環境論	3前	1	15																			
	小計			52		795	52	795		23	19	10								52			

教育課程と指定規則の対比表（作業療法学専攻）

教育課程 指定規則の教育内容							基礎分野			専門基礎分野				専門分野				計		
							科学的思考の基礎	人間と生活	社会の理解	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎作業療法学	作業療法管理学	作業療法評価学	作業療法治療学	地域作業療法		臨床実習	
区分	授業科目	配当年次	単位数		時間数	履修方法及び卒業要件				12	14	4	5	2	5	19	4	22	101	
教養基礎科目	初年次科目	ラーニングリテラシー	1前	1	15	教養基礎科目 必修18単位を 含む22単位以上を履修	●													
		情報リテラシー	1前	1	15															
		初年次IPE演習	1前	1	15															
	人間の探求	人間科学概論	1前	2	30		教養科目A (1単位)		●											
		心理学	1後	2	30				●											
		生命倫理学	1前		15				●											
	社会の探求	医療人類学	1後		15		教養科目B (1単位)		●											
		社会学概論	1前	2	30				●											
		情報と社会	1後	1	15				●											
	自然の探求	法律と社会	1後		15		教養科目C (1単位)		●											
		教育と社会	1後	1	15				●											
		データサイエンス	3前	2	30				●											
	言語の探求	災害と共に生きる	1前	1	15		教養科目D (1単位)	●												
		ライフサイエンス生物学	1前		15				●											
		バイオメカニクス	1後		15				●											
保健体育	基礎英語	1前	2	30	教養科目D (1単位)		●													
	コミュニケーション論	1前	1	15			●													
	コミュニケーション英語	1後		15			●													
異文化コミュニケーション(中国語)	1後	1	15		●															
スポーツ実践	1前	2	30		●															
小計			18	8	390	22	330	22											22	
専門基礎科目	リハビリテーション基礎医学	解剖学Ⅰ	1前	2	30	専門基礎科目 必須52単位を履修				●										
		解剖学Ⅱ	1後	2	30						●									
		骨学筋学Ⅰ	1前	1	15						●									
		骨学筋学Ⅱ	1後	1	15						●									
		体表解剖学	2前	1	15						●									
		組織学	2後	1	15						●									
		生理学Ⅰ	1前	2	30						●									
		生理学Ⅱ	1後	2	30						●									
		生理学演習Ⅰ	1前	1	15						●									
		生理学演習Ⅱ	1後	1	15						●									
		応用解剖生理学	3後	1	15						●									
		身体運動学Ⅰ	1前	2	30						●									
		身体運動学Ⅱ	1後	2	30						●									
		運動生理学	2前	2	30						●									
		人間発達学	1前	2	30						●									
	脳科学概論	2後	2	30								●								
	医学英語	2前	1	15								●								
	臨床医学	リハビリテーション医学	1後	1	30								●							
		病理学	1後	2	30								●							
		内科学	2前	2	30								●							
		神経内科学	2後	2	30								●							
		整形外科	2前	2	30								●							
		精神医学	2前	2	30								●							
		小児科学	2後	2	30								●							
		臨床心理学	2後	2	30								●							
		臨床栄養学	3前	1	15								●							
		臨床薬理学	3前	1	15								●							
	救急救命処置演習	3後	1	15								●								
保健医療福祉	リハビリテーション概論	1前	1	15								●								
	健康科学概論	2前	2	30								●								
	社会福祉学概論	2後	2	30								●								
	災害リハビリテーション	3後	1	15								●								
	国際リハビリテーション学	4前	1	15								●								
福祉住環境論	3前	1	15								●									
小計			52		795	52	795		23	19	10								52	

学校法人 土佐リハ学院
高知健康科学大学 職員就業規則（抜粋）

（定年退職）

第 46 条 事務職員の定年退職は満 62 歳に達して迎える 3 月末日とする。

- 2 学長を除く教員の定年退職は満 65 歳に達して迎える 3 月末日とする。
- 3 学長が満 70 歳を過ぎた場合は任期の満了をもって定年退職とする。
- 4 本学の設置に際し、満 65 歳を過ぎて採用した教員（特任教員）においては、本学完成年度末をもって定年退職とする。

（再雇用）

第 47 条 定年後に引き続き勤務を希望する事務職員は、満 65 歳に達して迎える 3 月末日までの間再雇用する。

- 2 定年後に引き続き勤務を希望する教員は、特任教員として満 70 歳に達して迎える 3 月末日までの間再雇用する。
- 3 再雇用職員ならびに特任教員の給与等の雇用条件については、理事長より再雇用を希望する職員に個別に提示するものとし、再雇用期間及び再雇用後の勤務条件等を記載した再雇用通知書を交付するものとする。
- 4 再雇用期間の延長は、原則として行わない。

高知健康科学大学教員選考規程（案）

（趣旨）

第1条 この規程は、「高知健康科学大学就業規則」に基づき、高知健康科学大学の教員の選考に関する規程（以下「教員選考規程」という。）について定めるものとする。

（教員選考委員会）

第2条 教員の採用に関する選考に当たっては、教授会のもとに教員選考委員会を置き、教員候補を選考するものとする。

- 2 教員選考委員会は、教員候補の選考結果を教授会に報告する。
- 3 教授会は教員候補に関する審議を行い、大学運営会議に提案する。
- 4 教員選考審査に関する、委員会、教授会および大学運営会議の議事内容については非公開とする。

（委員構成）

第3条 教員選考委員会の委員は、学長、学部長、事務局長、学科長及び専攻長とする。

- 2 委員長は学長をもって充てる。

（採用）

第4条 大学運営会議は教授会の提案を基に、教員採用の判断を行うものとする。

- 2 教員の採用については、原則として公募により、選考を行う。
- 3 教員採用の選考審査に当たっては、教育・研究業績の提出を求めるとし、人格はもとより、学位・資格、教育・研究業績、臨床経験及び社会的活動等を総合的に判断して行うものとする。
- 4 退職者の予定者の補充に伴う採用に係る公募については、原則として、採用予定月の6カ月前から開始する。
- 5 公募の期間は、概ね1カ月程度とする。
- 6 公募による応募者がいない場合には、再公募を行う等を含め、教員選考委員会において協議の上、決定する。

（その他）

第5条 この教員選考規程に定めることのほか、教員選考に関して必要となる事項については大学運営会議において定めることとする。

附 則

この教員選考規程は令和6年4月1日から施行する。

既存校舎の外観



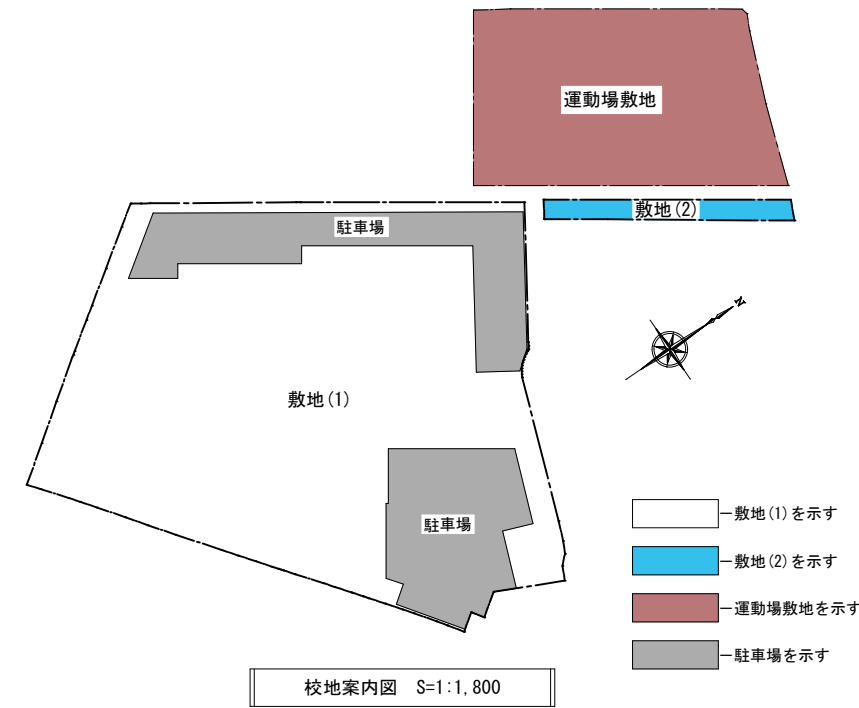
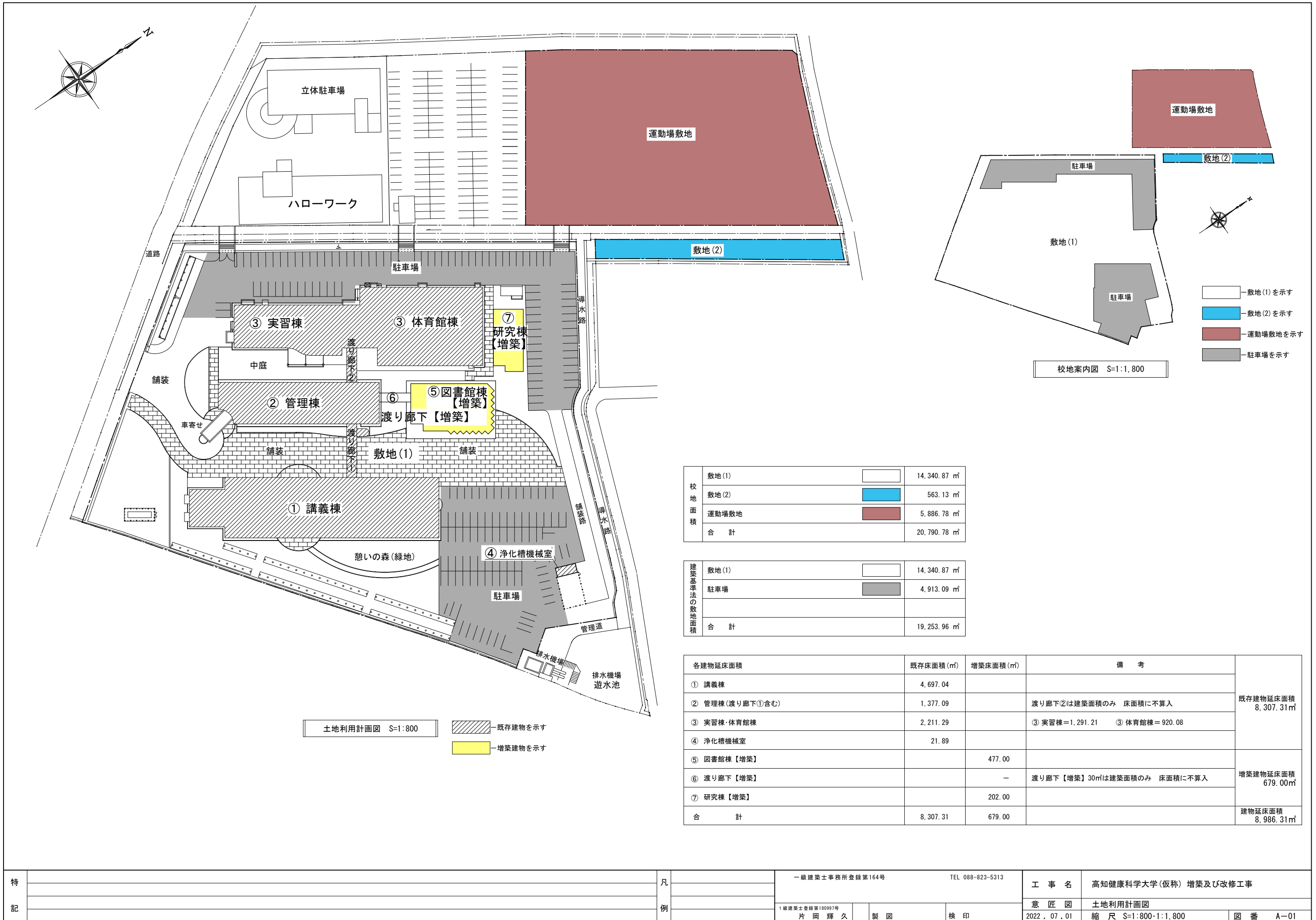
講義棟



大講義室



キャンパス正門



校地面積	敷地(1)	14,340.87 m ²
	敷地(2)	563.13 m ²
	運動場敷地	5,886.78 m ²
	合計	20,790.78 m ²

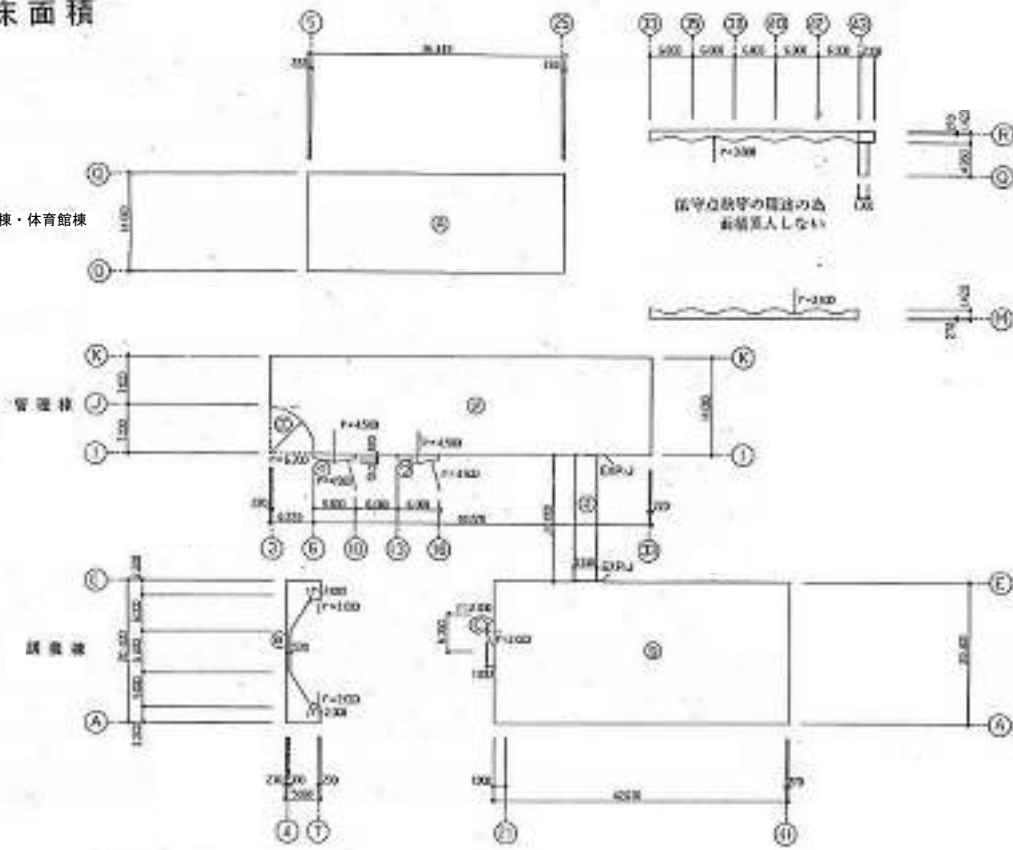
建築基準法の敷地面積	敷地(1)	14,340.87 m ²
	駐車場	4,913.09 m ²
	合計	19,253.96 m ²

各建物延床面積	既存床面積(m ²)	増築床面積(m ²)	備考	
① 講義棟	4,697.04			既存建物延床面積 8,307.31m ²
② 管理棟(渡り廊下①含む)	1,377.09		渡り廊下②は建築面積のみ 床面積に不算入	
③ 実習棟・体育館棟	2,211.29		③ 実習棟=1,291.21 ③ 体育館棟=920.08	
④ 浄化槽機械室	21.89			増築建物延床面積 679.00m ²
⑤ 図書館棟【増築】		477.00		
⑥ 渡り廊下【増築】		-	渡り廊下【増築】30mは建築面積のみ 床面積に不算入	
⑦ 研究棟【増築】		202.00		建物延床面積 8,986.31m ²
合計	8,307.31	679.00		

特記	凡例	一級建築士事務所登録第164号	TEL 088-823-5313	工事名	高知健康科学大学(仮称) 増築及び改修工事		
		製図	検印	意匠図	土地利用計画図		
		片岡輝久		2022.07.01	縮尺 S=1:800・1:1,800	図番	A-01

2階床面積

実習棟・体育館棟



講義棟

- 2 F
- ① $(5.00 \times 2.20 + 0.30 \times 4.00) \times 1/2 + 0.30 \times 2 + 0.30 \times 0.30$
 - ② 42.87×28.80
 - ③ 1.00×2.00

管理棟

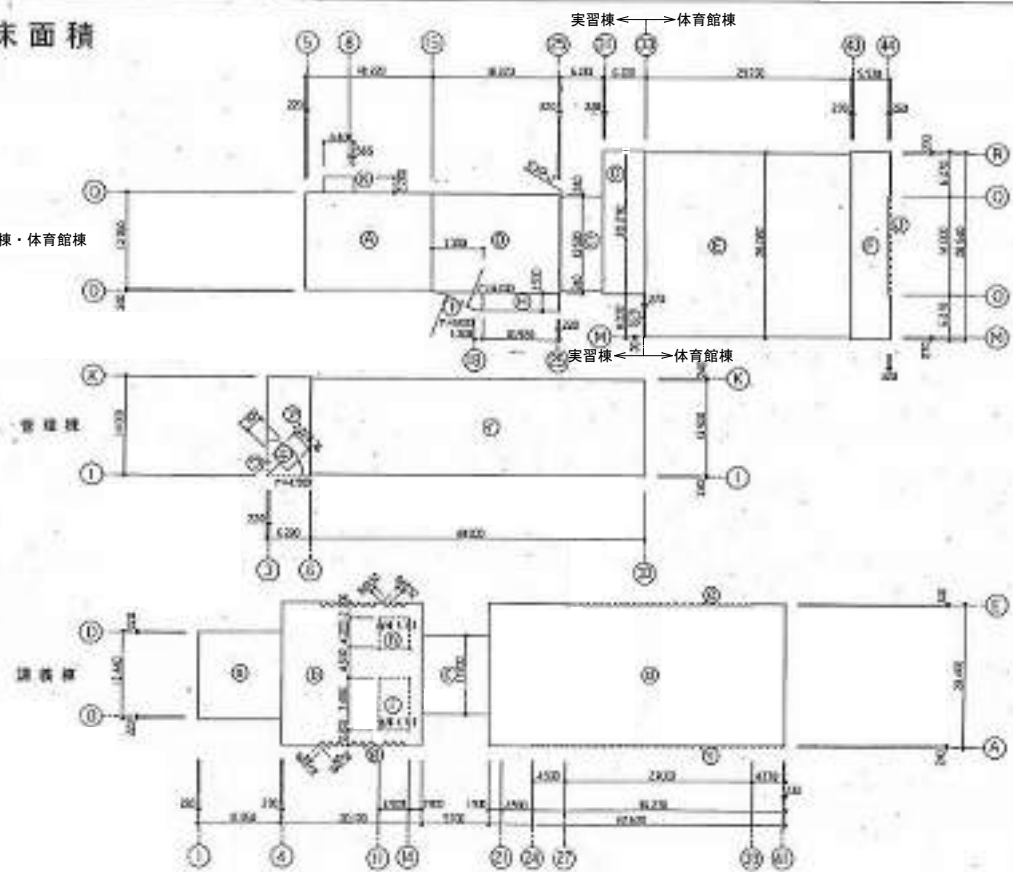
- ④ 48.21×14.00
- ⑤ $5.00 \times 0.00 + 1.00 \times 0.00$
- ⑥ $6.00 \times 0.00 + 1.00 \times 0.00$
- ⑦ $6.00 \times 5.00 \times 1/4 + 1/4 \times 2.00 \times 0.00$

実習棟・体育館棟

実習棟	2階床面積	510.16㎡
体育館棟	2階床面積	0.00㎡

1階床面積

実習棟・体育館棟



講義棟

- 1 F
- ① 11.94×12.44
 - ② 28.77×28.80
 - ③ 3.79×11.20
 - ④ 42.87×28.80
 - ⑤ 22.00×0.24
 - ⑥ 26.81×0.24
 - ⑦ $(0.30 \times 4.00 \times 1/2) \times 18$
 - ⑧ 4.00×4.00
 - ⑨ 4.00×7.45

管理棟

- ⑩ 5.00×14.00
- ⑪ 48.00×14.00
- ⑫ $4.00 \times 4.00 \times 1/4 \times 1/4$
- ⑬ $3.0000 \times 2.00 + 2/2 \times 3.0000 \times 0.00$

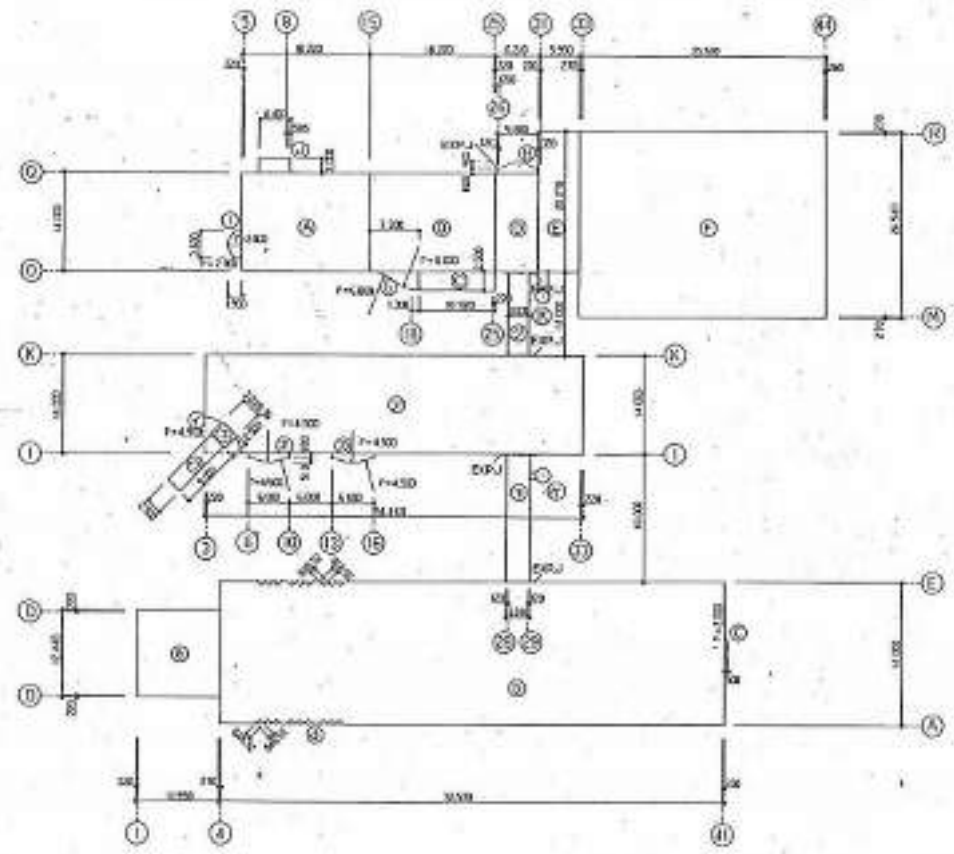
実習棟・体育館棟

⑭	16.00	×	13.00	208.00
⑮	18.00	×	14.00	252.00
⑯	6.00	×	13.00	78.00
⑰	6.00	×	28.00	168.00
⑱	29.00	×	28.00	812.00
⑲	5.50	×	26.50	146.75
⑳	0.27	×	6.00	1.62
㉑	19.00	×	2.00	38.00
㉒	3.00	×	2.00	6.00
㉓	4.00	×	14.00	56.00
㉔	4.00	×	2.00	8.00

体育館棟 1階床面積				
⑮	29.73	×	26.06	774.764
⑰	5.53	×	26.54	146.766
⑱	0.27	×	6.00	1.628
㉑	0.22	×	14.00	3.080
			合計	920.078 (920.08)

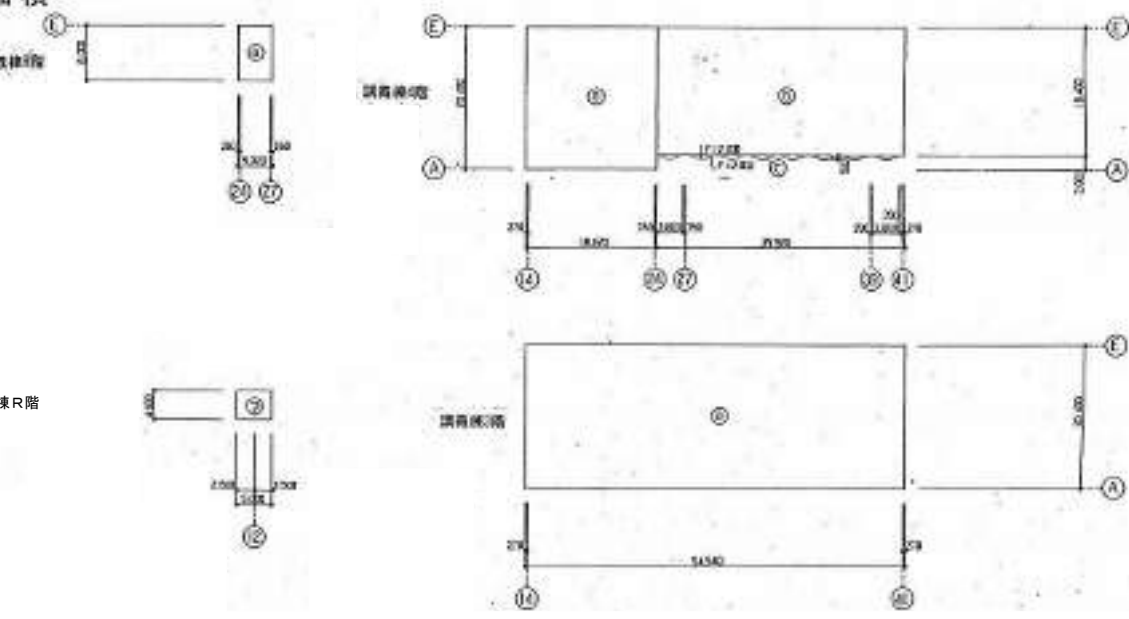
実習棟 1階床面積			
1階床面積合計	-	体育館棟 1階床面積	
1,681.13	-	920.08	761.05 (761.05)

建築面積



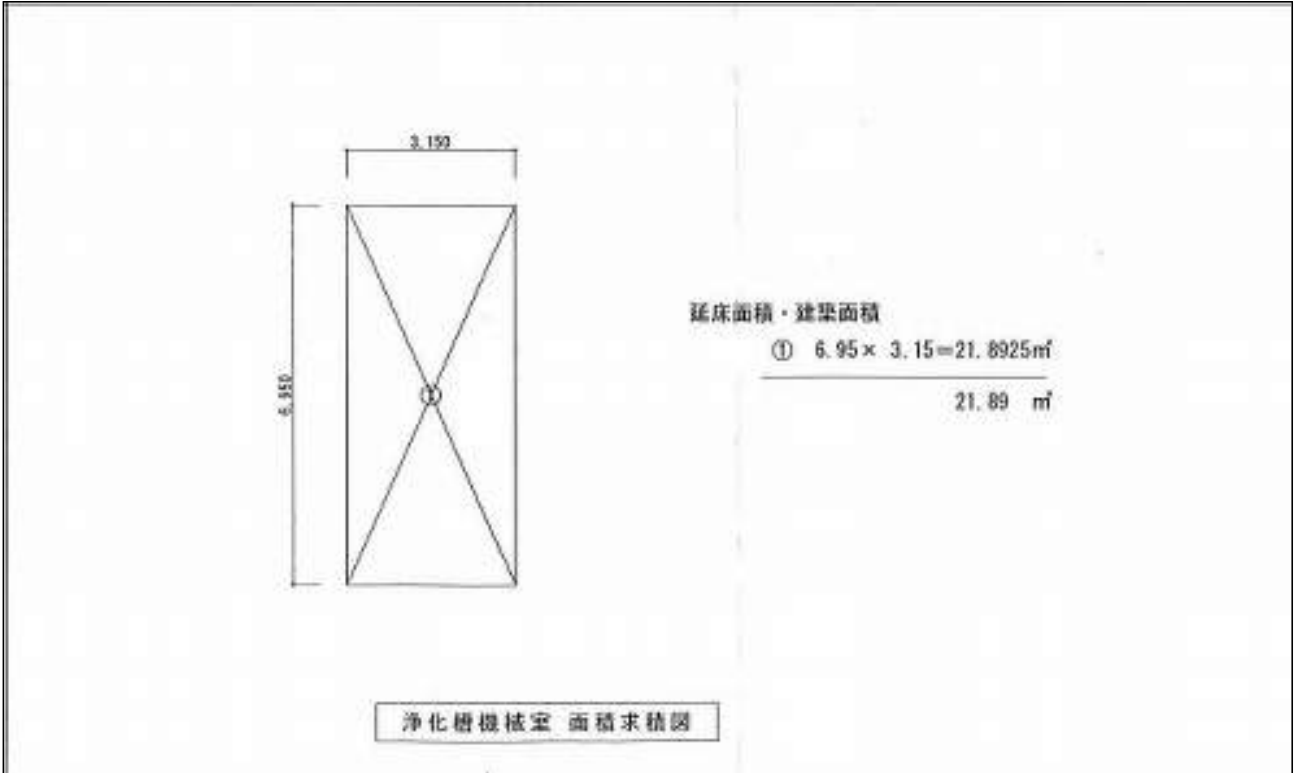
講義棟	管理棟	実習棟・体育館棟				
① 11.00 x 12.00 ② 20.00 x 14.00 ③ 2.04 x 8.79 x 2.07 ④ 20.00 x 8.00 x 1/2 x 1.8	① 54.00 x 20.00 ② 4.00 x 4.00 x 2.00 x 1.4 ③ 2.00 x 5.00 ④ 2.000 x 2.00 + 2.00 x 2.000 x 2.00 ⑤ 5.00 x 0.50 + 2.00 x 0.50 ⑥ 5.00 x 0.50 + 2.00 x 0.50 ⑦ 2.00 x 10.00 ⑧ 2.00 x 12.00 ⑨ (1.00 x 1.00 x 2.00) + (1.00 x 1.00) + (1.00 x 1.00)	① 18.00 x 14.00 ② 10.00 x 14.00 ③ 10.00 x 2.00 ④ 0.00 x 14.00 ⑤ 0.00 x 20.00 ⑥ 20.00 x 20.00 ⑦ 20.00 x 20.00 ⑧ 2.00 x 2.00 ⑨ 5.00 x 0.50 + 2.00 x 0.50 ⑩ 3.14 x 2.00 x 2.00 x 1/4 + (1.00 x 1.00 x 1/2) x 2 + (0.50 x 1.00) x 2 + (0.50 x 0.50 x 1/2) x 2 - 2.00 x 0.50 ⑪ 5.00 x 2.00 ⑫ (1.00 x 1.00 x 1.00) + (1.00 x 1.00) + (1.00 x 1.00)				
建築設計	1158.40 (1158.40)	管理設計	856.00 (856.00)	実習棟・体育館棟 計	1826.58 (1726.58)	
設備管理棟計				204.00	実習棟・体育館棟 計	1930.58
延床面積合計				3998.58 m ²		

3, 4, R階床面積

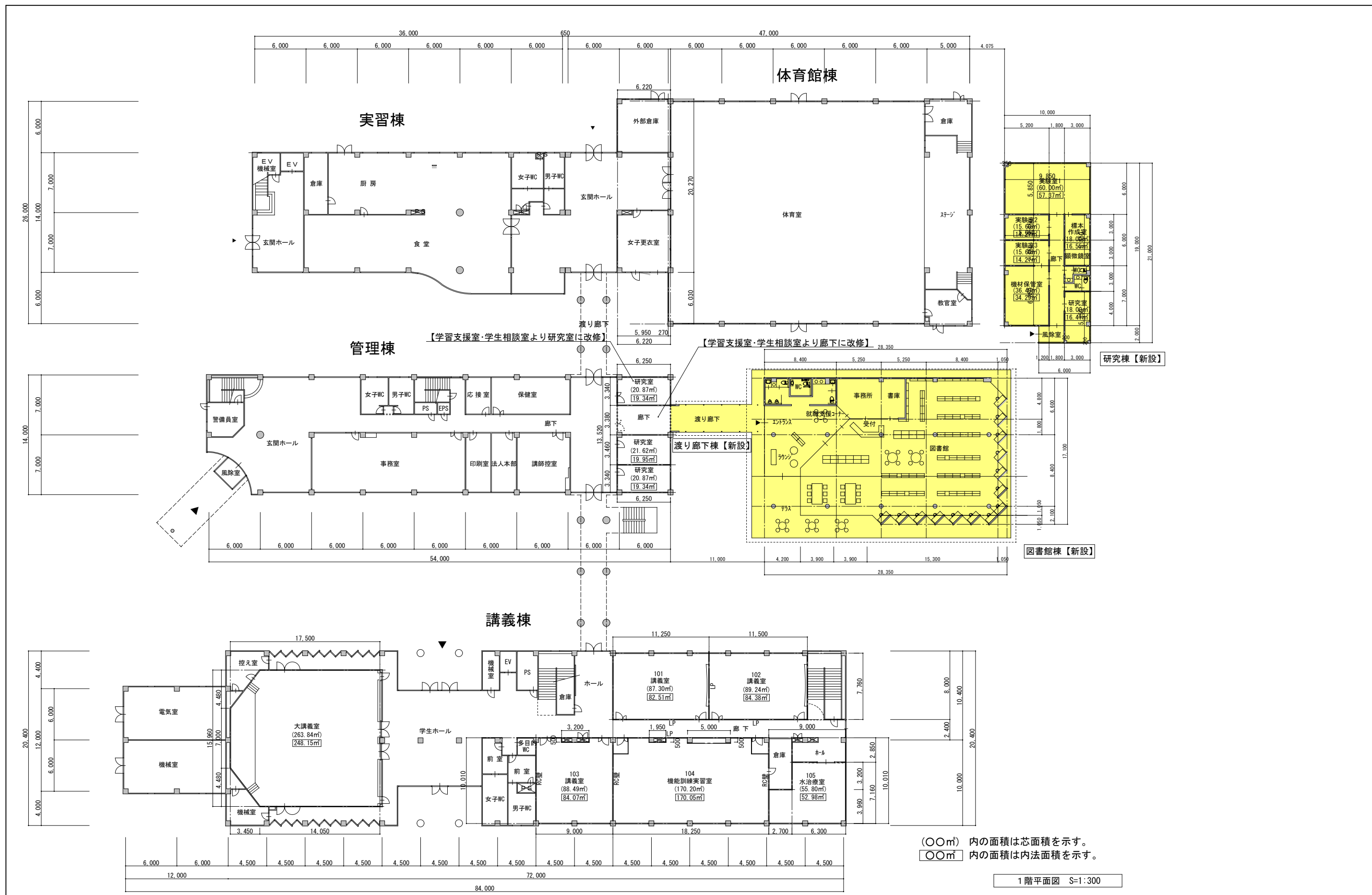


講義棟	管理棟	実習棟・体育館棟				
0 F ① 3.00 x 6.00 4 F ① 10.00 x 20.00 ② 20.00 x 18.00 ③ (1.00 x 0.50) x 8 3 F ① 54.00 x 20.00	40.00 40.00 (40.00) 270.00 360.00 7.00 (9.00 x 10) (1.00 x 2.00) 112.00 (112.00)	20.00 実習棟 R階床面積 20.00m ² 体育館棟 R階床面積 0.00m ²				
延床面積		実習棟 体育館棟 延床面積 (1,291.21 + 920.08)				
0 F	40.00	0 F (20.00 + 0.00)				
4 F	1,048.00					
3 F	1,112.00					
2 F	422.00	2 F (510.16 + 0.00)				
1 F	1,512.00	1 F (761.05 + 920.08)				
建築設計	4,034.00	管理設計	1,317.00	実習棟・体育館棟 計	2,211.21	
設備管理棟計				204.00	実習棟・体育館棟 計	2,415.21
既存建物 延床面積合計				5,255.42 m ²		
増築建物 延床面積				図書館棟(平家建て):477.00m ² ・渡り廊下(平家建て):0m ² ・研究棟(平家建て):202.00m ² 合計面積 679.00m ²		
延床面積集計 (既存建物+増築建物)				8,285.42 + 679.00 = 8,964.42m ²		

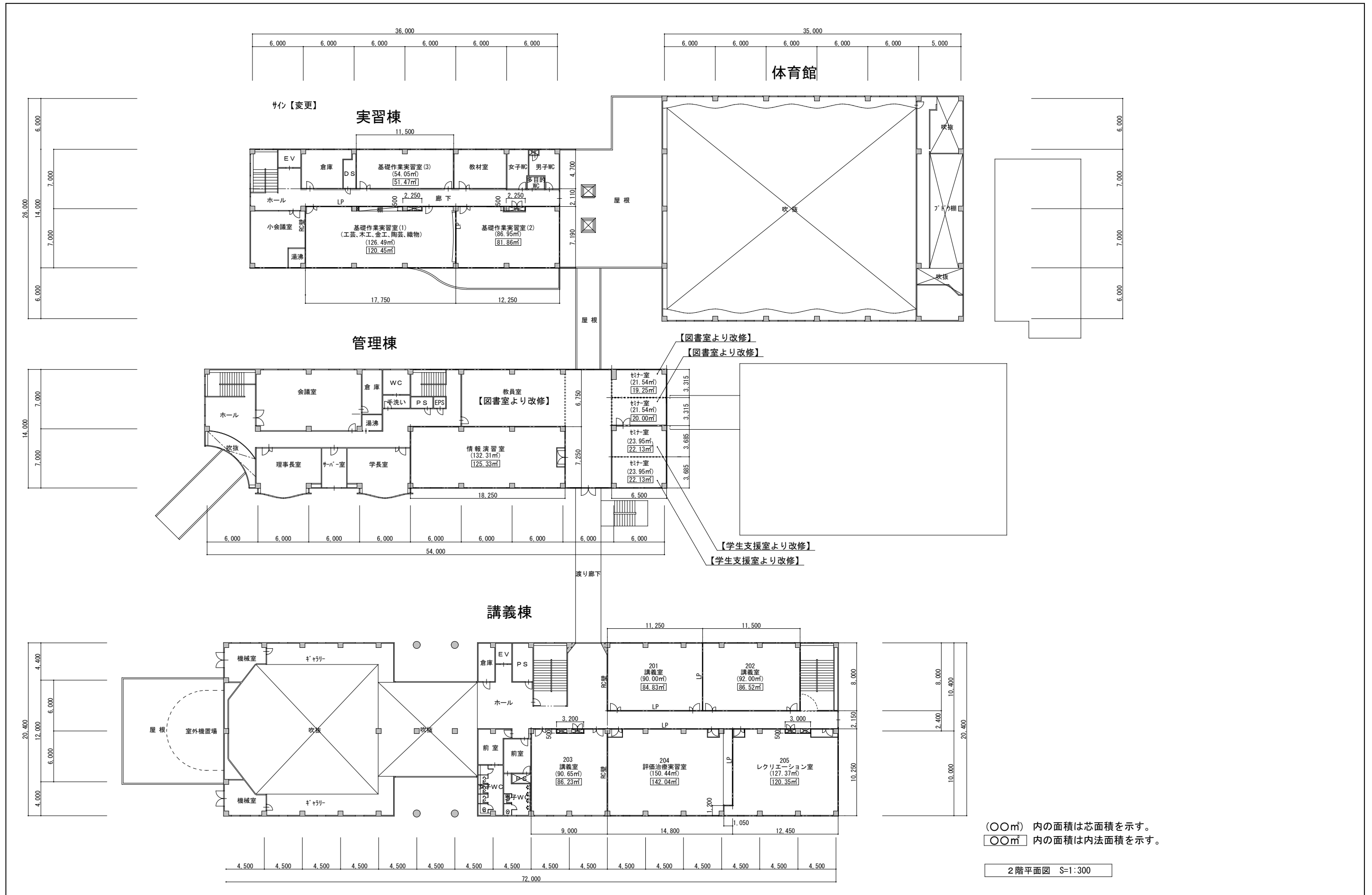
特記	凡例	一級建築士事務所登録第164号 TEL 088-823-5313	工事名	高知健康科学大学(仮称) 増築及び改修工事
		株式会社 総合企画設計	意匠図	各棟 3・4・PH階床面積積積図・建築面積積積図
		1級建築士登録第180997号 片岡輝久 製図	縮尺	S=1:800
		検印	図番	A-05
			2022.07.01	



特 記		凡 例		一級建築士事務所登録第164号 株式会社 総合企画設計 1級建築士登録第180997号 片岡輝久	TEL 088-823-5313	工事名	高知健康科学大学(仮称) 増築及び改修工事
				製図	検印	意匠図	その他の部分床面積・建築面積求積図 縮尺 S=1:100

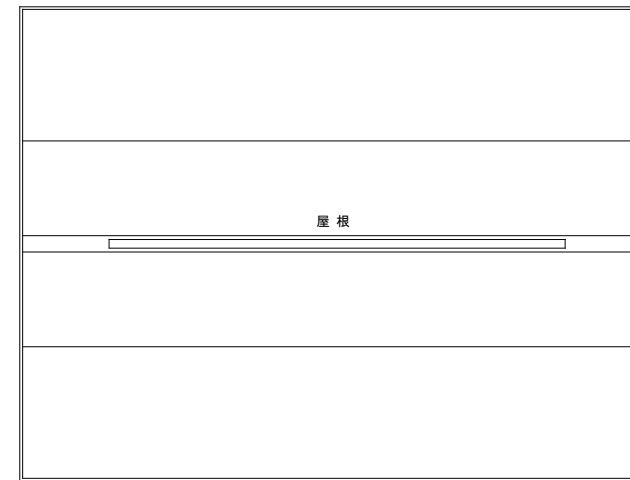


特 記	凡例	一級建築士事務所登録第164号 株式会社 総合企画設計 1級建築士登録第180997号 片岡 輝久	TEL 088-823-5313	工事名 高知健康科学大学(仮称)増築及び改修工事
		製図 片岡 輝久	検印	意匠図 2022.07.01
				1階平面図 縮尺 S=1:300
				図番 A-07

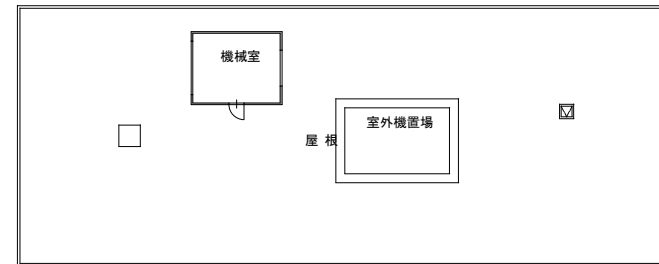


特 記	凡	一級建築士事務所登録第164号 株式会社 総合企画設計 1級建築士登録第180997号 片岡 輝久	TEL 088-823-5313	工 事 名	高知健康科学大学(仮称) 増築及び改修工事
	例	製 図	検 印	意 匠 図	2階平面図 縮 尺 S=1:300
				2022.07.01	図 番 A-08

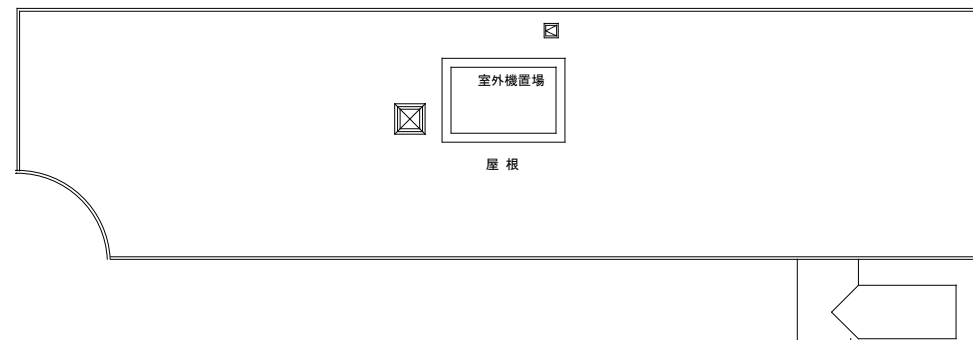
体育館棟



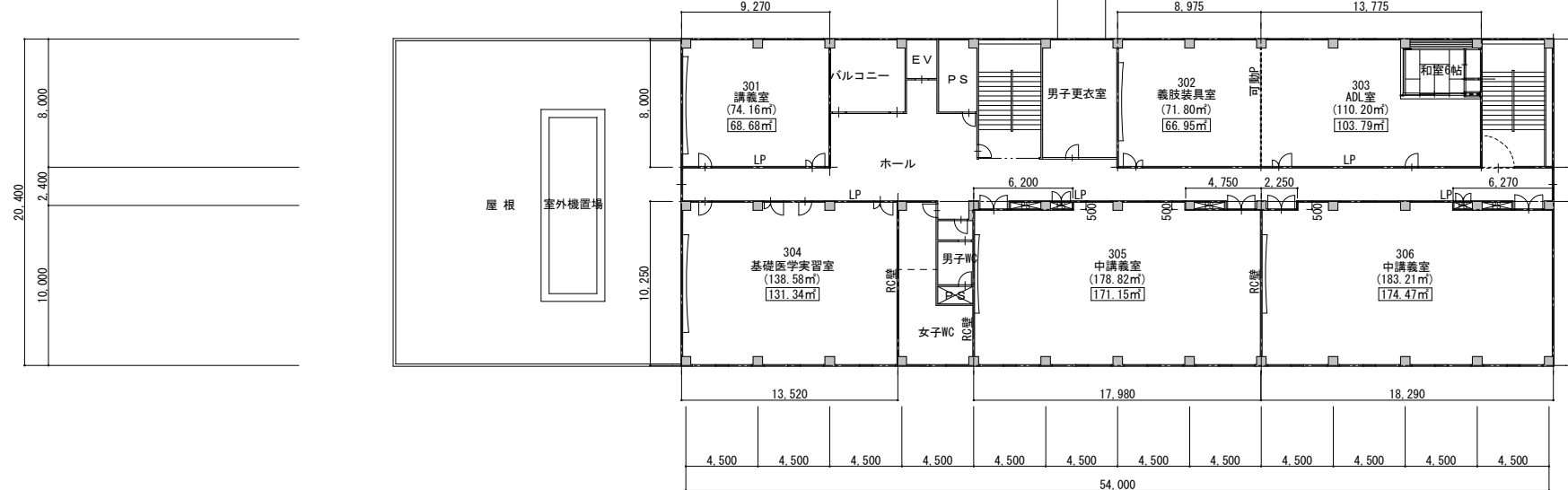
実習棟



管理棟



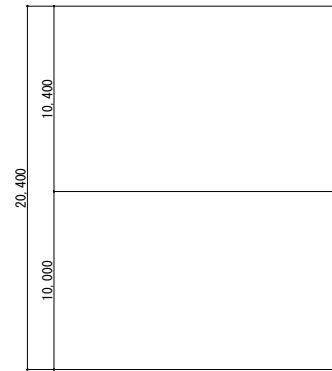
講義棟



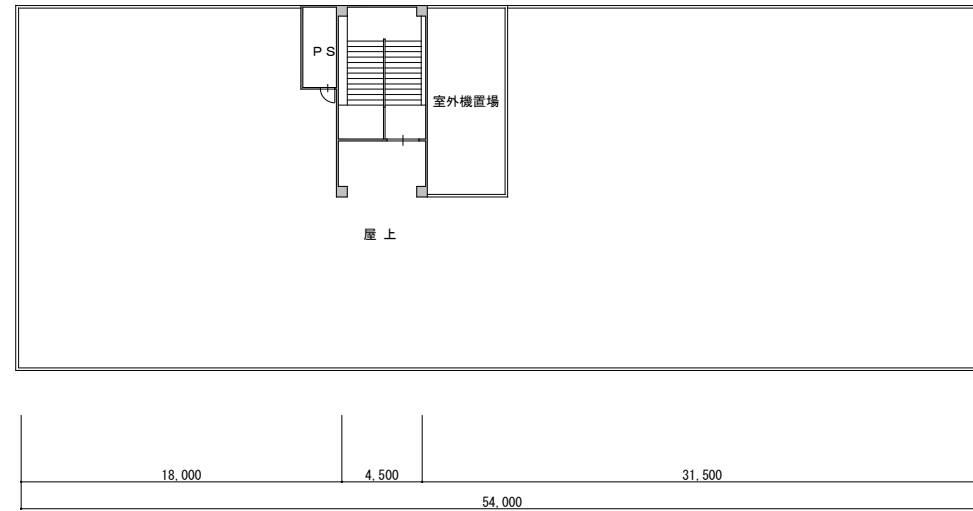
(○)m² 内の面積は芯面積を示す。
 (□)m² 内の面積は内法面積を示す。

3階平面図 S=1:300

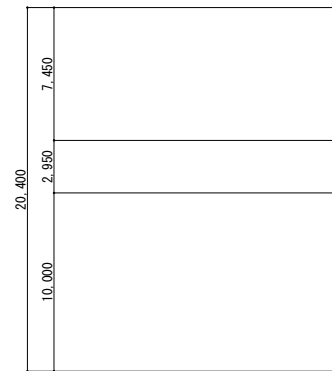
特 記		凡 例	一級建築士事務所登録第164号 TEL 088-823-5313		工 事 名	高知健康科学大学(仮称) 増築及び改修工事
			株式会社 総合企画設計		意 匠 図	3階・R階平面図
			1級建築士登録第180997号 片岡 輝 久	製 図	検 印	2022.07.01 縮 尺 S=1:300 図 番 A-09



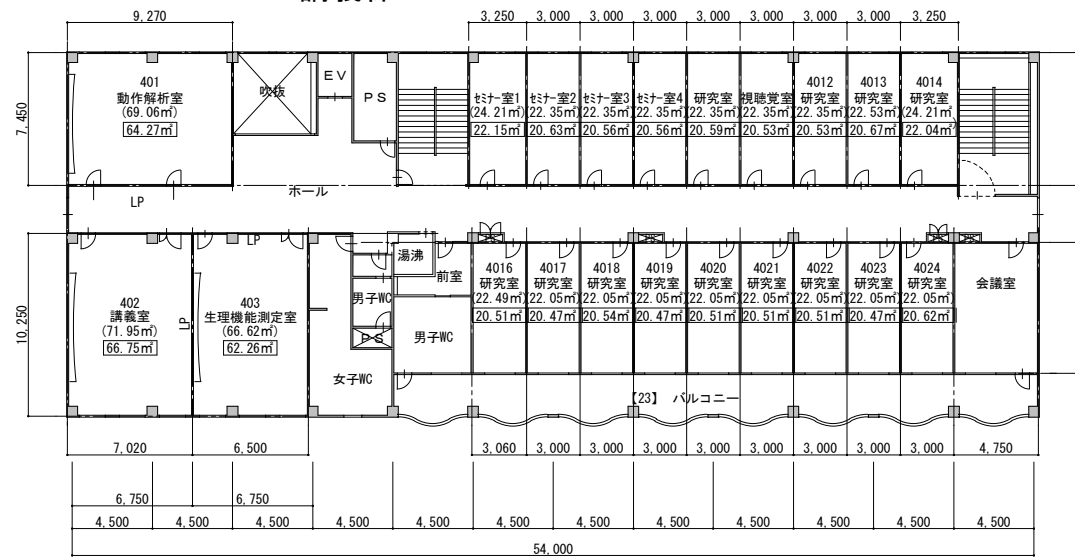
講義棟



屋上平面図 S=1:300



講義棟



(〇〇㎡) 内の面積は芯面積を示す。
 □〇〇㎡ 内の面積は内法面積を示す。

4階平面図 S=1:300

特 記		凡 例	一級建築士事務所登録第164号	TEL 088-823-5313	工 事 名	高知健康科学大学(仮称) 増築及び改修工事
			株式会社 総合企画設計	1級建築士登録第180997号	意 匠 図	4階・R階平面図
			片岡 輝久	製 図	検 印	2022.07.01
						縮 尺 S=1:300
						図 番 A-10

高知健康科学大学（仮称）
建築・改修工事計画（予定）

【工期】

開学前年度（令和5年度）				開学年度（令和6年度）			
4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月

⇒ ① 第1期校舎改修工事

⇒ ② 図書館棟建築工事

③ 研究棟建築工事 ⇒

④ 第2期校舎改修工事 ⇒

【工事内容】

- ① 第1期校舎改修工事（主に講義棟）

EV更新／トイレ改修／外装サイン／室内塗装
その他（学長室・情報演習室改装等）

- ② 図書館棟建築工事

床面積約 477.00 m²（工期 8 カ月）

- ③ 研究棟建築工事

床面積約 202.00 m²（4 カ月）

- ④ 第2期校舎改修工事（主に管理棟）

旧図書室改装

主な教室等の用途別整備計画

用途	名称	収容人員	面積	場所	整備状況
	普通教室101 (PT1年)	35	87.3㎡	講義棟 1 F	既設
	普通教室102 (PT2年)	35	89.2㎡	講義棟 1 F	
	普通教室103 (PT3年)	35	88.4㎡	講義棟 1 F	
	普通教室402 (PT4年)	35	71.9㎡	講義棟 4 F	
	普通教室201 (OT1年)	35	90.0㎡	講義棟 2 F	
	普通教室202 (OT2年)	35	92.0㎡	講義棟 2 F	
	普通教室203 (OT3年)	35	90.6㎡	講義棟 2 F	
	普通教室301 (OT4年)	35	74.1㎡	講義棟 3 F	
	中講義室305	120	178.8㎡	講義棟 3 F	
	中講義室306	120	183.2㎡	講義棟 3 F	
	大講義室100	263	263.8㎡	講義棟 1 F	
演習室	機能訓練実習室104		170.2㎡	講義棟 1 F	既設
	水治療実習室105		55.8㎡	講義棟 1 F	
	評価治療実習室204		150.4㎡	講義棟 2 F	
	レクレーション実習室205		127.3㎡	講義棟 2 F	
	日常生活訓練実習室303		110.2㎡	講義棟 3 F	
	義肢装具加工室302		71.8㎡	講義棟 3 F	
実習・実験室	基礎医学実習室304		138.5㎡	講義棟 3 F	新築
	生理機能測定室403		66.6㎡	講義棟 4 F	
	動作解析室401		69.0㎡	講義棟 4 F	
	基礎作業療法実習室 1		126.4㎡	実習棟 2 F	
	基礎作業療法実習室 2		86.9㎡	実習棟 2 F	
	基礎作業療法実習室 3		54.0㎡	実習棟 2 F	
	研究棟実験室①		60.0㎡	研究棟 1 F	
情報施設	情報演習室		132.3㎡	管理棟 2 F	既設
教員研究室	教員研究室 1 (個室)	1	22.0~24.2㎡	講義棟 4 F	既設
	教員研究室 2 (個室)	1			
	教員研究室 3 (個室)	1			
	教員研究室 4 (個室)	1			
	教員研究室 5 (個室)	1			
	教員研究室 6 (個室)	1			
	教員研究室 7 (個室)	1			
	教員研究室 8 (個室)	1			
	教員研究室 9 (個室)	1			
	教員研究室10 (個室)	1			
	教員研究室11 (個室)	1			
	教員研究室12 (個室)	1			
	教員研究室13 (個室)	1			
	教員研究室14 (個室)	1	20.8㎡	管理棟 1 F	既設
	教員研究室15 (個室)	1	20.9㎡	管理棟 1 F	既設
	教員研究室16 (個室)	1	21.6㎡	管理棟 1 F	改修
	教員研究室17 (個室)	1	20.0㎡	体育館棟	既設
	教員研究室18 (個室)	1	18.0㎡	研究棟	新築
	教員研究室19 (合同)	6	81.0㎡	管理棟 2 F	改修
セミナー室	セミナー室 1	8	22.3~24.2㎡	講義棟 4 F	既設
	セミナー室 2	8		講義棟 4 F	
	セミナー室 3	8		講義棟 4 F	
	セミナー室 4	8		講義棟 4 F	
	セミナー室 5	8	21.5㎡	管理棟 2 F	改修
	セミナー室 6	8	21.5㎡	管理棟 2 F	
	セミナー室 7	8	23.9㎡	管理棟 2 F	
	セミナー室 8	8	23.9㎡	管理棟 2 F	

講義時間割表（理学療法学専攻）〈1年〉

1年次

前期時間割

下線は大・中講義室（2室）を利用

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限目	<u>人間発達学</u>	スポーツ実践	<u>リハビリテーション概論</u>	<u>解剖学Ⅰ</u>	<u>基礎英語</u>
2時限目	身体運動学Ⅰ	理学療法概論	<u>(前半)/災害と共に生きる</u>	<u>ライフサイエンス生物学</u>	骨学筋学Ⅰ(前半)/ 生理学演習Ⅰ(後半)
3時限目	<u>人間科学概論</u>	<u>ラーニングリテラシー(前半)/</u>	早期臨床体験実習	<u>社会学概論</u>	<u>情報リテラシー(前半) /</u> <u>コミュニケーション論</u> <u>(後半)</u>
4時限目	<u>生理学Ⅰ</u>	<u>初年次IPE(後半)</u>		<u>生命倫理学</u>	

後期時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限目	身体運動学Ⅱ	法律と社会	<u>情報と社会</u>	<u>生理学Ⅱ</u>	異文化コミュニケーション(中国語)
2時限目	骨学筋学Ⅱ	<u>リハビリテーション医学</u>	理学療法評価学	形態評価学実習	生理学演習Ⅱ
3時限目	<u>病理学</u>	<u>医療人類学</u>	早期臨床体験実習	<u>心理学</u>	<u>解剖学Ⅱ</u>
4時限目		<u>コミュニケーション英語</u>		<u>教育と社会</u>	<u>バイオメカニクス</u>

講義時間割表（理学療法学専攻）〈2年〉

2年次

前期時間割					
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限目	体表解剖学	運動療法学	運動器理学療法学Ⅰ		精神医学
2時限目	筋機能評価学実習	医学英語	神経機能評価学実習	神経理学療法学Ⅰ	健康科学概論
3時限目	整形外科学	運動生理学	内科学	物理療法学	日常生活活動学
4時限目					

後期時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限目	運動器理学療法学Ⅱ	神経内科学	運動分析学	臨床心理学	神経理学療法学Ⅱ
2時限目	運動療法学実習	物理療法学実習	装具学	組織学	地域リハビリテーション学
3時限目	理学療法評価学実習	小児科学	日常生活活動学実習	脳科学概論	社会福祉学概論
4時限目					

後期時間割（12月～）＊理学療法臨床評価実習Ⅰ：3週間×1回（12月の1週目開始～3週間）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限目	臨床評価実習	臨床評価実習	臨床評価実習	臨床評価実習	臨床評価実習
2時限目	臨床評価実習	臨床評価実習	臨床評価実習	臨床評価実習	臨床評価実習
3時限目	臨床評価実習	臨床評価実習	臨床評価実習	臨床評価実習	臨床評価実習
4時限目	臨床評価実習	臨床評価実習	臨床評価実習	臨床評価実習	臨床評価実習

講義時間割表（理学療法学専攻）＜3年＞

3年次

前期時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限目	理学療法研究法	神経理学療法学実習	データサイエンス	理学療法セミナーⅠ	義肢学
2時限目	生理機能評価学実習	臨床薬理学	運動器理学療法学実習	筋骨格系リハビリテーション	呼吸器理学療法学
3時限目	社会自立/児童発達/地域社会	福祉住環境論		予防リハビリテーション	認知のリハビリテーション
4時限目		臨床栄養学		理学療法特論Ⅰ	痛みサイエンス

後期時間割（10月～12月）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限目	循環器理学療法学		スポーツ理学療法学	地域理学療法学	小児理学療法学
2時限目	循環器理学療法学	代謝理学療法学	スポーツ理学療法学	救命救急処置演習	小児理学療法学
3時限目	理学療法教育論	多職種連携教育	災害リハビリテーション	がんリハビリテーション	応用解剖生理学
4時限目	理学療法特論Ⅰ	ヘルスプロモーション	ニューロサイエンス		スポーツサイエンス

*30時間の科目：週2コマ15時間の科目：週1コマで8週間の講義

*臨床技能演習Ⅰ：12月に集中講義

後期時間割（1月～2月）*理学療法臨床総合実習Ⅰ：6週間×1回（1月2週目開始～6週間）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限目	臨床総合実習Ⅰ	臨床総合実習Ⅰ	臨床総合実習Ⅰ	臨床総合実習Ⅰ	臨床総合実習Ⅰ
2時限目	臨床総合実習Ⅰ	臨床総合実習Ⅰ	臨床総合実習Ⅰ	臨床総合実習Ⅰ	臨床総合実習Ⅰ
3時限目	臨床総合実習Ⅰ	臨床総合実習Ⅰ	臨床総合実習Ⅰ	臨床総合実習Ⅰ	臨床総合実習Ⅰ
4時限目	臨床総合実習Ⅰ	臨床総合実習Ⅰ	臨床総合実習Ⅰ	臨床総合実習Ⅰ	臨床総合実習Ⅰ

講義時間割表（理学療法学専攻）〈4年〉

4年生

前期時間割（4月）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限目	理学療法管理学*	国際リハビリテーション学*	理学療法特論Ⅱ**	卒業研究**	卒業研究**
2時限目	理学療法管理学*	国際リハビリテーション学*	理学療法特論Ⅱ**	卒業研究**	卒業研究**
3時限目					
4時限目					

*理学療法管理学・国際リハビリテーション学は、15時間科目：週2コマで4週の講義日程

**理学療法特論Ⅱ・卒業研究は4年通年科目

前期時間割（5月～8月）作業療法臨床総合実習Ⅱ：7週間×2回（5月2週目～7週間 7月2週目～7週間）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限目	臨床総合実習Ⅱ	臨床総合実習Ⅱ	臨床総合実習Ⅱ	臨床総合実習Ⅱ	臨床総合実習Ⅱ
2時限目	臨床総合実習Ⅱ	臨床総合実習Ⅱ	臨床総合実習Ⅱ	臨床総合実習Ⅱ	臨床総合実習Ⅱ
3時限目	臨床総合実習Ⅱ	臨床総合実習Ⅱ	臨床総合実習Ⅱ	臨床総合実習Ⅱ	臨床総合実習Ⅱ
4時限目	臨床総合実習Ⅱ	臨床総合実習Ⅱ	臨床総合実習Ⅱ	臨床総合実習Ⅱ	臨床総合実習Ⅱ

後期時間割（9月）理学療法地域実習：1週間×1回（9月1週目～1週間）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限目	理学療法地域実習	理学療法地域実習	理学療法地域実習	理学療法地域実習	理学療法地域実習
2時限目	理学療法地域実習	理学療法地域実習	理学療法地域実習	理学療法地域実習	理学療法地域実習
3時限目	理学療法地域実習	理学療法地域実習	理学療法地域実習	理学療法地域実習	理学療法地域実習
4時限目	理学療法地域実習	理学療法地域実習	理学療法地域実習	理学療法地域実習	理学療法地域実習

*臨床技能演習Ⅱ：10月に集中講義

後期時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限目	卒業研究	理学療法特論Ⅱ	理学療法総合演習		
2時限目					
3時限目					
4時限目					

図書館棟・研究棟増築平面図

面積算定

図書館棟・渡廊下棟
 屋内床面積(建築基準法算入) : 433m²
 テラス面積(建築基準法算入) : 44m²
 犬走面積 : 113m²
 渡り廊下面積(建築基準法算入) : 30m²

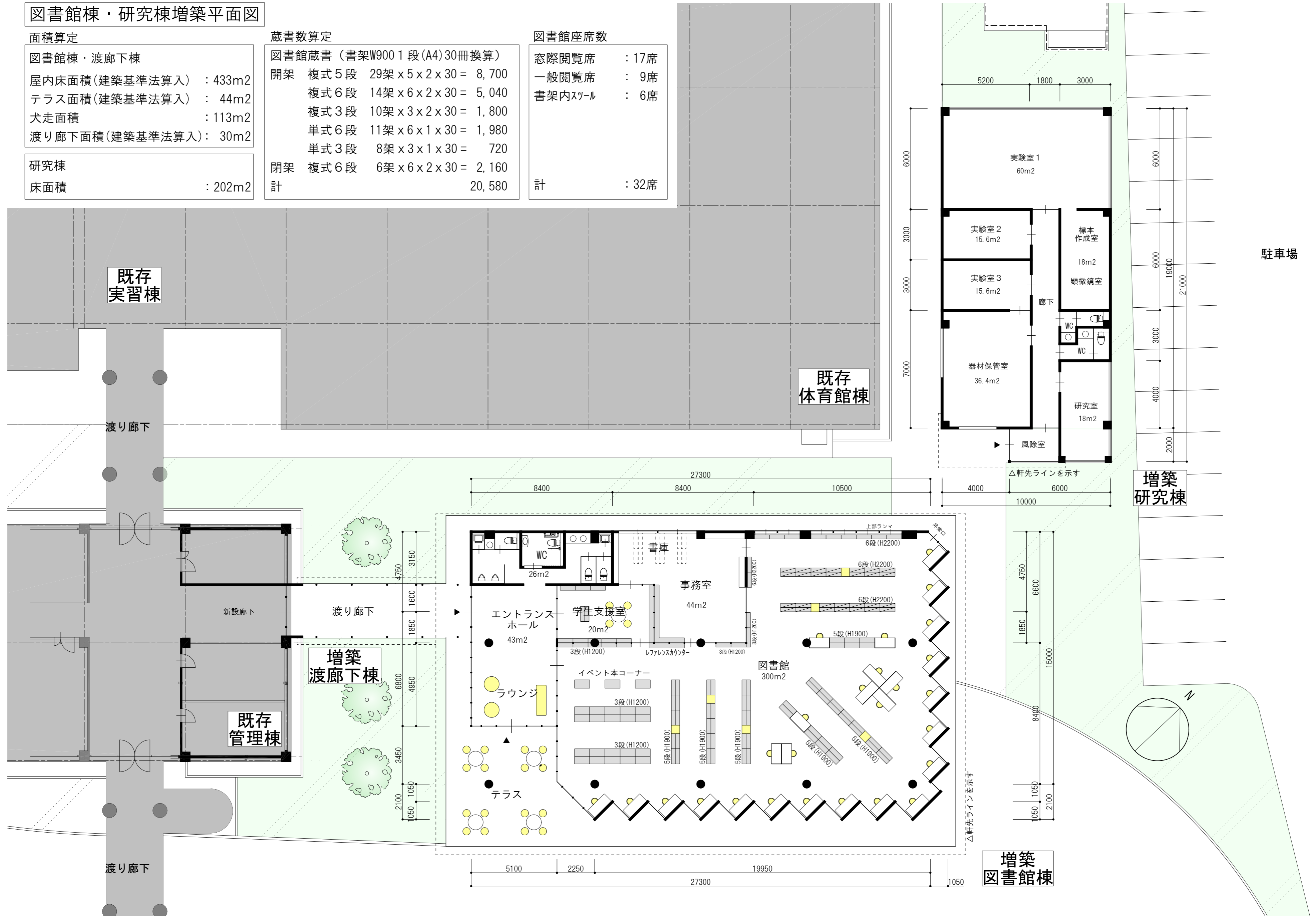
研究棟
 床面積 : 202m²

蔵書数算定

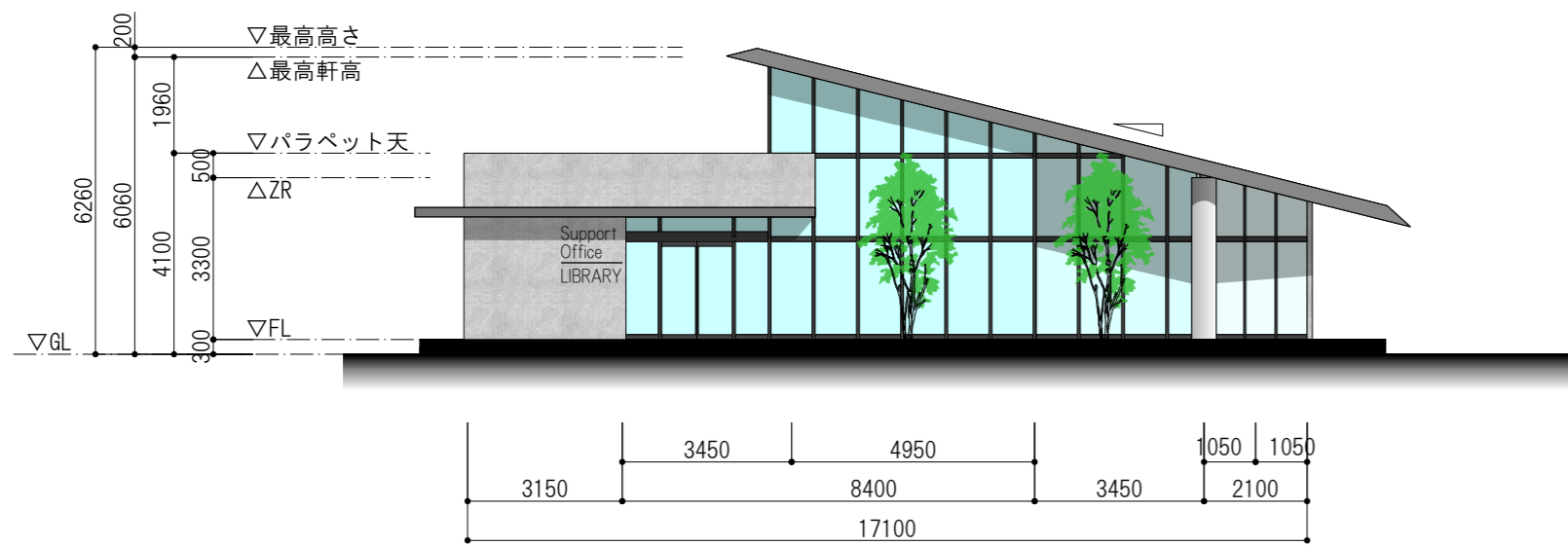
図書館蔵書(書架W900 1段(A4)30冊換算)
 開架 複式5段 29架×5×2×30 = 8,700
 複式6段 14架×6×2×30 = 5,040
 複式3段 10架×3×2×30 = 1,800
 単式6段 11架×6×1×30 = 1,980
 単式3段 8架×3×1×30 = 720
 閉架 複式6段 6架×6×2×30 = 2,160
 計 20,580

図書館座席数

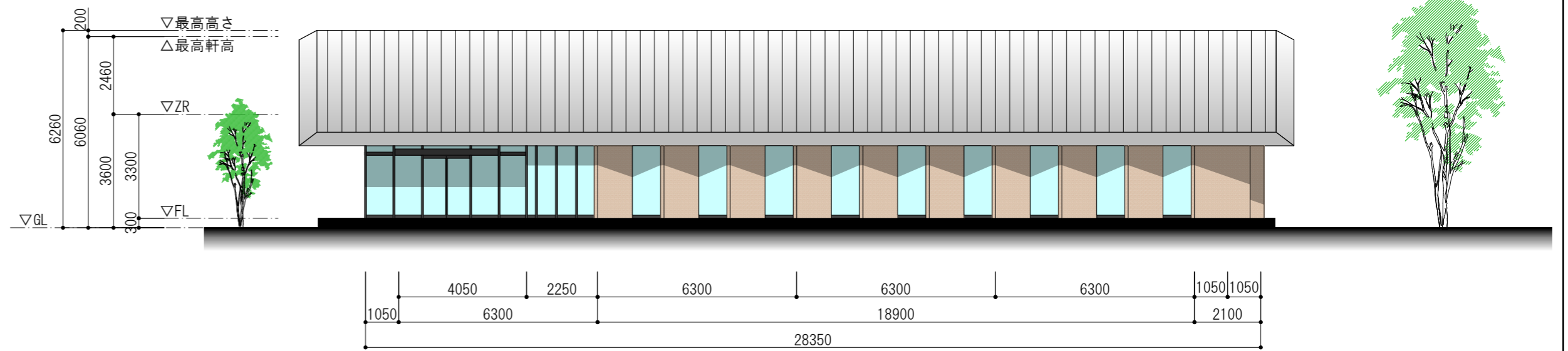
窓際閲覧席 : 17席
 一般閲覧席 : 9席
 書架内スツール : 6席
 計 : 32席



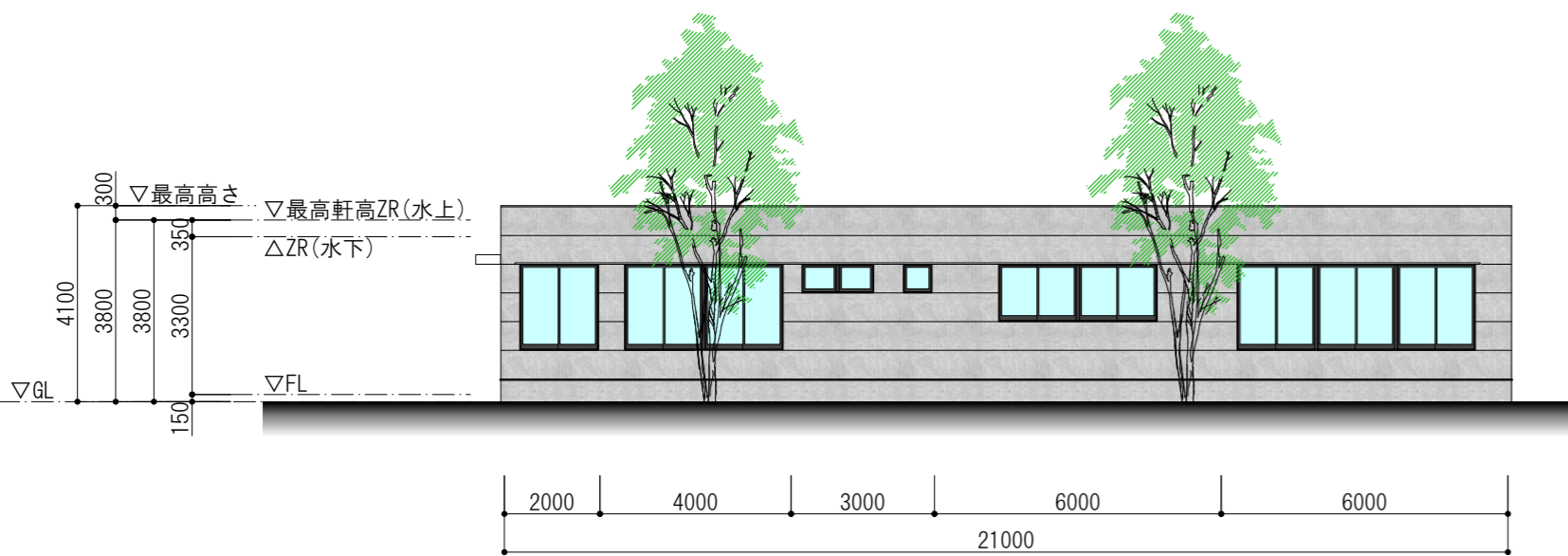
特 記	用紙サイズによる縮小率	一級建築士事務所登録第164号	TEL 088-823-5313	工事名	高知健康科学大学(仮称)増築及び改修工事
	A2用紙時: 100%	株式会社 総合企画設計	製図 片岡 輝久	意匠図	平面図(図書館棟・研究棟)
	A3用紙時: 70.7%			2022.08.06	縮尺 S=1:150
	A4用紙時: 50%			検印	図番



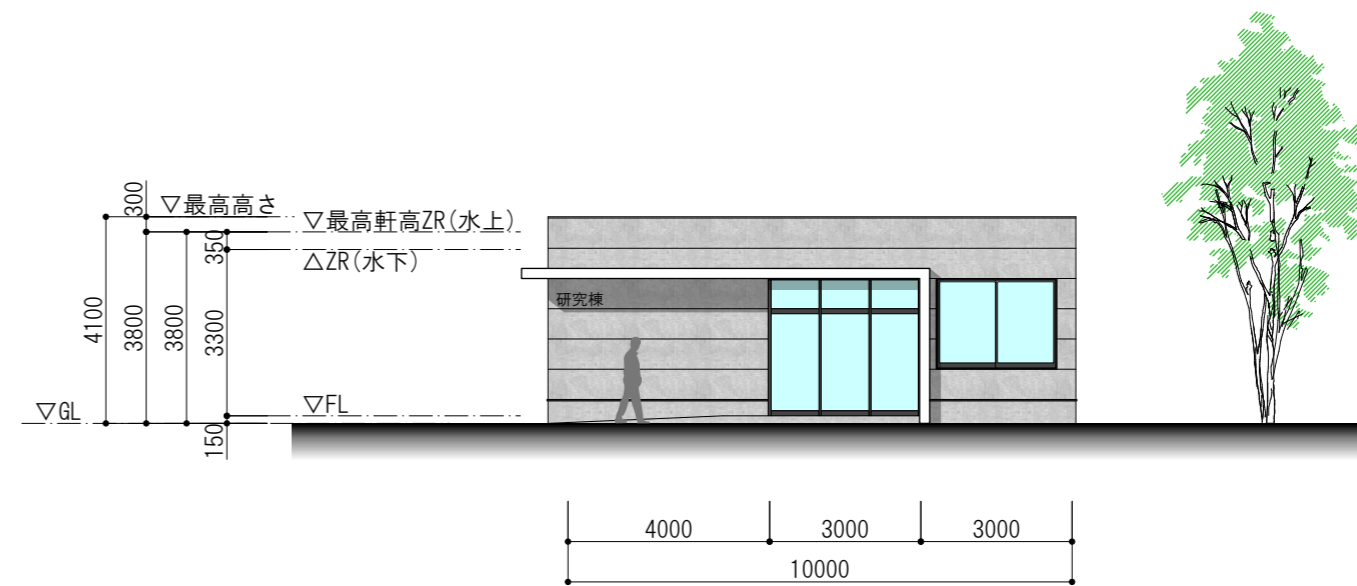
図書館棟 西立面図 S=1 : 150



図書館棟 南立面図 S=1 : 150



研究棟 東立面図 S=1 : 150



研究棟 南立面図 S=1 : 150

特	凡例	用紙サイズによる縮小率	一級建築士事務所登録第164号	TEL 088-823-5313	工事名	高知健康科学大学(仮称)増築及び改修工事	
		A2用紙時: 100%	株式会社 総合企画設計		意匠図	立面図(図書館棟・研究棟)	
記	例	A3用紙時: 70.7%			1級建築士登録第180997号	2022.08.16	縮尺
		A4用紙時: 50%	片岡輝久	製図	検印		

学術雑誌

	雑誌名
1	脳と発達
2	クリニカルリハビリテーション
3	臨床精神医学
4	呼吸器ジャーナル
5	循環器ジャーナル
6	臨床スポーツ医学
7	リハビリテーション医学
8	老年医学
9	臨床作業療法
10	精神療法
11	作業療法ジャーナル
12	作業療法
13	理学療法ジャーナル
14	理学療法
15	精神医学
16	体育の科学
17	こころの科学
18	生体の科学
19	精神障害とリハビリテーション
20	総合リハビリテーション
21	月刊スポーツメディスン
22	Monthly Book Medical Rehabilitation
23	Monthly Book Medical Rehabilitation
24	The British Journal of Occupational Therapy
25	Archives of Physical Medicine and Rehabilitation
26	Physiotherapy

電子ジャーナル

	雑誌名
1	理学療法
2	総合リハビリテーション
3	理学療法ジャーナル
4	BRAIN and NERVE
5	臨床整形外科
6	作業療法ジャーナル
7	脊椎脊髄ジャーナル
8	地域リハビリテーション
9	言語聴覚研究
10	リハビリテーション医学
11	作業療法

年間購読雑誌(予定)

	雑誌名
1	リハビリテーション医学
2	クリニカルリハビリテーション
3	総合リハビリテーション
4	臨床整形外科
5	臨床スポーツ医学
6	月刊スポーツメディスン
7	循環器ジャーナル
8	呼吸器ジャーナル
9	老年医学
10	臨床精神医学
12	精神医学
13	精神療法
14	精神障害とリハビリテーション
15	臨床作業療法
16	作業療法ジャーナル
17	作業療法
18	理学療法学
19	理学療法ジャーナル
20	理学療法
21	理学療法科学
22	脳と発達
23	生体の科学
24	体育の科学
25	こころの科学
26	こころの発達
27	Physiotherapy
28	Archives of Physical Medicine and Rehabilitation
29	Journal of Physical Therapy Science
30	Physical Therapy
31	Medical Rehabilitation
32	The British Journal of Occupational Therapy
33	The American Journal of Occupational Therapy

医学書院購読電子書籍(リハプラン)

1. 総合リハビリテーション 2. 理学療法ジャーナル 3. BRAIN and NERVE 4. 臨床整形外科
5. 作業療法ジャーナル 6. 脊椎脊髄ジャーナル 7. 地域リハビリテーション 8. リハ医学 ほか

高知健康科学大学 整備予定蔵書数（内訳）

		令和5年度	令和6年度	令和7年度	計
和書	一般	60	101	100	261
	専門	49	102	104	255
洋書	専門	10	5	2	17
計		119	208	206	533

高知健康科学大学 整備予定蔵書一覧

令和5年度

	書名	分類	購入 年度	出版社
1	アトラス 自然と文化を知るイラスト世界地図	一般	R5	B L 出版
2	ぼくはアスペルガー症候群 仕事と人間関係	一般	R5	彩図社
3	沖縄戦が問うもの	一般	R5	大槻書店
4	オーウェル「一九八四年」ディストピアを生き抜くために	一般	R5	慶応義塾大学出版
5	過敏で傷つきやすい人たち	一般	R5	幻冬舎
6	老人をなめるな	一般	R5	幻冬舎
7	一生頭がよくなり続けるすごい脳の使い方	一般	R5	サンマーク出版
8	よけいなひと言を好かれるセリフに変える言いかえ図鑑	一般	R5	サンマーク出版
9	ウイルスも認知症も生きづらいのも、すべて菌のせい	一般	R5	小学館
10	学習まんが 日本の歴史 全20巻(発売後)	一般	R5	小学館
11	別冊太陽 牧野富太郎	一般	R5	世界文化
12	AIに負けない子どもを育てる	一般	R5	東洋経済新報社
13	子どもから話したくなる「かぞくかいぎ」の秘密	一般	R5	白夜書房
14	アンネ・フランクはひとりじゃなかった	一般	R5	みすず書房
15	脳卒中患者だった理学療法士が伝えたい本当のこと	一般	R5	三輪書店
16	ジェンダーと脳	一般	R5	メディカ出版
17	怪異の民俗学 全8巻	一般	R5	河出書房新社
18	〈叱る依存〉がとまらない	一般	R5	紀伊國屋書店
19	100の思考実験	一般	R5	紀伊國屋書店
20	〈洗う〉文化史	一般	R5	吉川弘文館
21	アイヌ文化史辞典	一般	R5	吉川弘文館
22	アジア人物史 全12巻+索引巻	一般	R5	集英社
23	1人称単数の哲学 ソクラテスのように考える	一般	R5	春秋社
24	ウイルスはささやく	一般	R5	春秋社
25	無意味のススメ	一般	R5	春秋社

	書名	分類	購入 年度	出版社
26	私お先にゆきますわ	一般	R5	春秋社
27	21世紀の道徳	一般	R5	晶文社
28	クイズでわかる！世界まるごと大百科	一般	R5	世界文化社
29	カラースポーツ・運動栄養学大事典 健康生活・医療に役立つ	一般	R5	西村書店東京出版編集部
30	GIS	一般	R5	創元社
31	イラストで学ぶ 地理と地球科学の図鑑	一般	R5	創元社
32	10代からのSDGs	一般	R5	大月書店
33	101のビジュアル・イリュージョン	一般	R5	東京書籍
34	リーダーは話し方が9割	一般	R5	すばる舎
35	面接・面談の達人 目には見えない力を鍛える125の問い	一般	R5	幻冬舎
36	うまくやる ^コミュニケーションが変わる25のレッスン^	一般	R5	あさ出版
37	記憶する体	一般	R5	春秋社
38	死をどう生きたか	一般	R5	中央公論新社
39	最高の体調	一般	R5	クロスメディア・パブリッ シング
40	すぐ「決めつける」バカ、まず「受けとめる」知的な人	一般	R5	日本実業出版社
41	明日できる仕事は今日やるな マニャーナの法則	一般	R5	ディスカヴァー・トゥエン ティワン
42	アンゲラ・メルケル 東ドイツの物理学者がヨーロッパの母になるまで	一般	R5	東京書籍
43	いきもの寿命ずかん	一般	R5	東京書籍
44	お金のしくみを知りかしく扱う方法	一般	R5	東京書籍
45	くらべる時代 昭和と平成	一般	R5	東京書籍
46	くらべる世界	一般	R5	東京書籍
47	くらべる東西	一般	R5	東京書籍
48	くらべる日本 東西南北	一般	R5	東京書籍
49	くらべる値段	一般	R5	東京書籍
50	「歴史総合」をつむぐ	一般	R5	東京大学出版会
51	14歳からのプログラミング	一般	R5	東京大学出版会

	書名	分類	購入 年度	出版社
52	あなたも名医！微生物×薬剤クロスリファレンス 微生物の特徴と適切な抗菌薬がわかる！ j m e d 8 1	一般	R5	日本医事新報社
53	「死にたい」に現場で向き合う	一般	R5	日本評論社
54	いやな気持ちは大事な気持ち	一般	R5	日本評論社
55	「その他の外国文学」の翻訳者	一般	R5	白水社
56	5. 1 3ある名門哲学科卒の脳卒中格闘記	一般	R5	文芸社
57	「慰安婦」問題ってなんだろう？	一般	R5	平凡社
58	アートって何だろう はじめてアートに出会う本	一般	R5	保育社
59	アフリカから始める水の話	一般	R5	勁草書房
60	きみにもできる！よりよい世界のつくりかた SDG sにつながる小さな一歩	一般	R5	廣済堂あかつき
61	Muscle & Sensory Testing, 4th ed	専門	R5	ELSEVIER
62	Stroke, 7th ed.	専門	R5	ELSEVIER
63	Osteoporotic Fracture Care	専門	R5	GEORG THIEME VERLAG
64	Atlas of Osteopathic Techniques, 4th ed.	専門	R5	WOLTERS KLUWER
65	Biomechanical Basis of Human Movement, 5th ed.	専門	R5	WOLTERS KLUWER
66	DeLisa's Physical Medicine & Rehabilitation, 6th ed.	専門	R5	WOLTERS KLUWER
67	Hoppenfeld's Rehabilitation & Treatment of Fractures,	専門	R5	WOLTERS KLUWER
68	Management of Common Orthopaedic Disorders, 5th	専門	R5	WOLTERS KLUWER
69	Motor Control, 6th ed., (Int'l ed.)	専門	R5	WOLTERS KLUWER
70	Postoperative Orthopaedic Rehabilitation	専門	R5	WOLTERS KLUWER
71	栄養大全	専門	R5	N H K
72	The Grasping Hand 手・上肢の構造と機能	専門	R5	医学書院
73	筋疾患の骨格画像アトラス	専門	R5	医学書院
74	AO法 骨折治療 FOOT and Ankie	専門	R5	医学書院
75	イラストレクチャー認知神経科学 心理学と脳科学が解くこころの仕組み	専門	R5	オーム社
76	スポーツ筋損傷診断と治療法 ペーパーバック普及版	専門	R5	ガイアブックス
77	P T ・ O T 学生のためのクリニカル・クラークシップ臨床実習ガイド 実習での経験の仕方・学び方	専門	R5	シービーアール

	書名	分類	購入 年度	出版社
78	初期研修医・総合診療医のための小児科ファーストタッチ	専門	R5	じほう
79	ビジュアル大事典	専門	R5	新星
80	スポーツ栄養学ハンドブック	専門	R5	パイインターナショナル
81	5W1Hでわかりやすく学べる作業療法理論の教科書	専門	R5	メジカルビュー社
82	5つの臨床推論で整理して学ぶ作業療法リーディングの教科書	専門	R5	メジカルビュー社
83	Neurosurgical Re-Operations 脳神経外科における再手術・再治療 新NS NOW Neurosurger y 16	専門	R5	メジカルビュー社
84	シチュエーションで学ぶ輸液レッスン 第3版	専門	R5	メジカルビュー社
85	クエスチョン・バンク理学療法士・作業療法士国家試験問題解説 20 23 共通問題	専門	R5	メディックメディア
86	クエスチョン・バンク理学療法士国家試験問題解説 2023 専門問題	専門	R5	メディックメディア
87	サンフォード感染症治療ガイド 日本語版 2022	専門	R5	ライフサイエンス出版
88	PT/OT/STのための臨床に活かすエビデンスと意思決定の考えか た	専門	R5	医学書院
89	がんのリハビリテーションマニュアル 周術期から緩和ケアまで 第2 版	専門	R5	医学書院
90	手術術式の完全解説 診療報酬点数表 1437術式のポイントと適応 疾患・使用材料 2022-23年版	専門	R5	医学通信社
91	臨床手技の完全解説 診療報酬点数表 処置・リハビリ・生体検査・注 射・麻酔・放射線治療・精神科専門療法/適応疾患と手技 2022- 23年版	専門	R5	医学通信社
92	'23 ST基礎科目 言語聴覚士国家試験必修ポイント	専門	R5	医歯薬出版
93	'23 障害別OT治療学 PT/OT国家試験必修ポイント	専門	R5	医歯薬出版
94	PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養 基礎からリハ栄養 ケアプロセスまで 第3版	専門	R5	医歯薬出版
95	PT・OT基礎から学ぶ精神医学ノート 理学療法士・作業療法士 第 2版	専門	R5	医歯薬出版
96	イラストでわかる運動器障害理学療法 PT入門	専門	R5	医歯薬出版
97	当直医マニュアル 2023	専門	R5	医歯薬出版
98	極論で語る腎臓内科 第2版	専門	R5	丸善出版
99	'21 脳卒中治療ガイドライン	専門	R5	協和企画
100	PT・OTのための運動学テキスト 基礎・実習・臨床 補訂版	専門	R5	金原出版
101	PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入 編 第2版	専門	R5	金原出版
102	PT・OTのための臨床実習の鉄則 実習準備からレポート作成まで	専門	R5	金原出版
103	Think critically クリティカル・シンキングで真実を見極める	専門	R5	慶應義塾大学出版会

	書名	分類	購入 年度	出版社
104	12人のクライアントが教えてくれる作業療法をするうえで大切なこと 続	専門	R5	三輪書店
105	Critical Thinking 脊椎外科 第2版	専門	R5	三輪書店
106	OT・PTのための住環境整備論 第3版	専門	R5	三輪書店
107	OT臨床ハンドブック ポケット版 聖マリアンナ医科大学病院リハビリ テーションセンター 第2版	専門	R5	三輪書店
108	インソールマニュアル 姿勢と歩行を快適にする運動連鎖アプローチ 第2版	専門	R5	三輪書店
109	エビデンスに基づくボツリヌス治療 上肢・下肢痙縮に対するリハビリ テーションの最適化のために	専門	R5	三輪書店
110	研修医当直御法度 ピットフォールとエッセンシャルズ 第7版	専門	R5	三輪書店
111	PT・OT・ST・心理職のための高次脳機能障害・精神医学・心理学 必修キーワード	専門	R5	診断と治療社
112	カウンセリングの理論 (上)	専門	R5	誠信書房
113	カウンセリングの理論 (下)	専門	R5	誠信書房
114	災害現場でのトリアージと応急処置 第3版	専門	R5	日本看護協会出版会
115	PT・OTのための画像評価学テキスト	専門	R5	文光堂
116	ジェネラリストのための向精神薬の使い方	専門	R5	文光堂
117	ADL 第2版 PT・OTビジュアルテキスト	専門	R5	羊土社
118	ER実践ハンドブック 現場で生きる初期対応の手順と判断の指針 改 訂版	専門	R5	羊土社
119	小児の作業療法 匠の技術	専門	R5	シービーアール

令和6年度

	書名	分類	購入 年度	出版社
1	ヒストリーアトラス 世界がつながるイラスト歴史地図	一般	R6	B L 出版
2	なぜ私たちは友だちをつくるか	一般	R6	青土社
3	核酸医薬の創製と応用展開 普及版 ファインケミカルシリーズ	一般	R6	シーエムシー出版
4	ビジュアル宇宙探検図鑑 美しい宇宙の謎にせまる	一般	R6	ポプラ社
5	ビジュアル地球探検図鑑 おどろくべき大地の姿とメカニズム	一般	R6	ポプラ社
6	恐竜と古代の生物図鑑 圧倒的ビジュアルで迫る驚異の世界	一般	R6	ポプラ社
7	給料はあなたの価値なのか	一般	R6	みすず書房
8	科学的思考のススメ	一般	R6	ミネルヴァ書房
9	世界探検全集 全16巻	一般	R6	河出書房新社
10	ピーナッツ大図鑑 スヌーピーとチャーリー・ブラウンと仲間たちのすべて	一般	R6	河出書房新社
11	ピクチャーベディア なんでもいっぱい大図鑑 増補改訂版	一般	R6	河出書房新社
12	びっくり！動物園のおしごと大図鑑 70のひみつにせまる！	一般	R6	河出書房新社
13	まるごとわかる！海の科学大図鑑	一般	R6	河出書房新社
14	進化をたどる7億年の旅 太古のいきものを探しにいこう	一般	R6	河出書房新社
15	言語・思考・感性の発達からみた聴覚障害児の指導方法 豊かな言葉で確かに考え、温かい心で感じる力を育てる	一般	R6	学苑社
16	飛び道具の人類史	一般	R6	紀伊國屋書店
17	働くことの哲学	一般	R6	紀伊國屋書店
18	ぼくはテクノロジーを使わずに生きることにした	一般	R6	紀伊國屋書店
19	マークの本	一般	R6	紀伊國屋書店
20	古代の食を再現する	一般	R6	吉川弘文館
21	事典 太平洋戦争と子どもたち	一般	R6	吉川弘文館
22	もっともシンプルな英語ライティング講義	一般	R6	慶應義塾大学出版会
23	新版 大学生が知っておきたい生活のなかの法律	一般	R6	慶應義塾大学出版会
24	ミツバチの本	一般	R6	合同出版
25	海の生きものの本	一般	R6	合同出版
26	なぜ私は凍りついたのか ポリヴェーガル理論で読み解く性暴力と癒し	一般	R6	春秋社

	書名	分類	購入 年度	出版社
27	マンガで読む14歳のための現代物理学と般若心経	一般	R6	春秋社
28	医療民俗学序説 日本人は厄災とどう向き合ってきたか	一般	R6	春秋社
29	君ならわかる哲学	一般	R6	春秋社
30	まちの風景をつくる学校	一般	R6	晶文社
31	維摩さまに聞いてみた	一般	R6	晶文社
32	ビジュアル大事典	一般	R6	新星出版社
33	ビッグゴッド	一般	R6	誠信書房
34	情報発信者（メッセンジャー）の武器	一般	R6	誠信書房
35	自然の一生図鑑 あらゆるものの“ライフサイクル”を知って地球環境を学ぶ はじまりからおわりまでのお話60	一般	R6	誠文堂新光社
36	ひと目でわかる マネジメントのしくみとはたらき図鑑	一般	R6	創元社
37	もしも紫式部が大企業のOLだったなら 大鏡篇	一般	R6	創元社
38	国際平和協力	一般	R6	創元社
39	寝るのが楽しくなる睡眠のひみつ	一般	R6	創元社
40	大学生になるってどういうこと？ 第2版	一般	R6	大月書店
41	メディアリテラシーを学ぶ	一般	R6	大月書店
42	改訂版 金持ち父さん 貧乏父さん	一般	R6	筑摩書房
43	海をあげる	一般	R6	筑摩書房
44	実在とは何か	一般	R6	筑摩書房
45	つながる百科 地球なんでも大図鑑	一般	R6	東京書籍
46	奇跡の大自然図鑑	一般	R6	東京書籍
47	ネットとSNSを安全に使いこなす方法	一般	R6	東京書籍
48	パターン・デザイン大全	一般	R6	東京書籍
49	ビジュアル大大図鑑 中国の歴史	一般	R6	東京書籍
50	まぎらわしい現実の大図鑑	一般	R6	東京書籍
51	パワーブック 世界を変えてやるチカラ	一般	R6	東京書籍
52	ビジュアルマップ大図鑑 世界史	一般	R6	東京書籍

	書名	分類	購入 年度	出版社
53	フィンセント・ファン・ゴッホの思い出	一般	R6	東京書籍
54	プラスチックの現実と未来へのアイデア	一般	R6	東京書籍
55	まちのしくみ	一般	R6	東京書籍
56	ミケランジェロ・ブオナローティの生涯	一般	R6	東京書籍
57	みつけて！アートたんてい	一般	R6	東京書籍
58	もっと知りたい科学入門	一般	R6	東京書籍
59	レオナルド・ダ・ヴィンチを探して	一般	R6	東京書籍
60	ワイド判 散歩が楽しくなる 空の手帳	一般	R6	東京書籍
61	ワイド判 散歩が楽しくなる雑草手帳	一般	R6	東京書籍
62	ワイド判 散歩が楽しくなる樹の手帳	一般	R6	東京書籍
63	移民の世界史	一般	R6	東京書籍
64	英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史	一般	R6	東京書籍
65	英語で読む日本の歴史をつくった女性たち	一般	R6	東京書籍
66	奇跡の大自然図鑑	一般	R6	東京書籍
67	気候危機がサクッとわかる本	一般	R6	東京書籍
68	義足ランナー	一般	R6	東京書籍
69	見つける東京	一般	R6	東京書籍
70	算数・数学で何ができるの？	一般	R6	東京書籍
71	子どもと木であそぶ	一般	R6	東京書籍
72	似ていることば	一般	R6	東京書籍
73	似ている英語	一般	R6	東京書籍
74	自分のこころとうまく付き合う方法	一般	R6	東京書籍
75	小学生教科書まるごとクイズ大全	一般	R6	東京書籍
76	色彩のデザイン図鑑	一般	R6	東京書籍
77	信じられない現実のうんこ科学図鑑	一般	R6	東京書籍
78	信じられない現実の生きもの図鑑	一般	R6	東京書籍

	書名	分類	購入 年度	出版社
79	信じられない現実の大図鑑2	一般	R6	東京書籍
80	新訂版 信じられない現実の大図鑑	一般	R6	東京書籍
81	リベラルアーツの法学	一般	R6	東京大学出版会
82	漢文ノート	一般	R6	東京大学出版会
83	学問としての教育学	一般	R6	日本評論社
84	詰将棋の世界	一般	R6	日本評論社
85	裁判員制度の10年	一般	R6	日本評論社
86	児童養護施設で暮らすということ	一般	R6	日本評論社
87	食卓から地球を変える	一般	R6	日本評論社
88	とってもナチュラル ふだんのひとことフランス語	一般	R6	白水社
89	ノブレス・オブリージュ イギリスの上流階級	一般	R6	白水社
90	ブックセラーズ・ダイアリー	一般	R6	白水社
91	寝るまえ5分のパスカル「パンセ」入門	一般	R6	白水社
92	宮廷のデザイン	一般	R6	平凡社
93	障害者ってだれのこと？	一般	R6	平凡社
94	ソーシャルメディア解体全書	一般	R6	勁草書房
95	ゆるぎなき自由	一般	R6	勁草書房
96	基礎から学ぶ宗教と宗教文化	一般	R6	勁草書房
97	食農倫理学の長い旅	一般	R6	勁草書房
98	思考のリミッターを外す非常識力 日本一不親切な介護施設に行列ができる理由	一般	R6	ユサブル
99	レスキューナースが教える 新型コロナ×防災マニュアル	一般	R6	扶桑社
100	避難所に行かない防災の教科書	一般	R6	扶桑社
101	災害現場でのトリアージと応急処置	一般	R6	日本看護協会出版会
102	Rehabilitation of the Spine, 3rd ed	専門	R6	WOLTERS KLUWER
103	Tecklin's Pediatric Physical Therapy, 6th ed.	専門	R6	WOLTERS KLUWER
104	Textbook of Spinal Surgery, 4th ed., in 2 vols.	専門	R6	WOLTERS KLUWER

	書名	分類	購入 年度	出版社
105	Travell, Simons & Simons' Myofascial Pain & Dysfunction	専門	R6	WOLTERS KLUWER
106	Willard & Spackman's Occupational Therapy, 13th ed	専門	R6	WOLTERS KLUWER
107	リハビリテーションのための姿勢と動作	専門	R6	シービーアール
108	医療観察法と司法精神科作業療法臨床ハンドブック	専門	R6	シービーアール
109	外来リハ・通所リハ・通所介護のリハビリテーション 運動器疾患編	専門	R6	シービーアール
110	外来リハ・通所リハ・通所介護のリハビリテーション 組織マネジメントと高齢者リハビリ編	専門	R6	シービーアール
111	消化器内科専攻医マニュアル	専門	R6	シービーアール
112	つながる薬学	専門	R6	じほう
113	なぜ痛い？どう治す？運動器疾患のメカニズムとリハビリテーション医療 豊富なイラストと写真で見てわかる！	専門	R6	ナツメ社
114	言語聴覚士のアルバム	専門	R6	ヒューマン・プ
115	リハ実践ポケット手帳 PT・OT・STのリスク管理	専門	R6	ヒューマン・プレス
116	疾患別リハビリテーションリスク管理マニュアル 第2版	専門	R6	ヒューマン・プレス
117	運動器・整形外科の基本 オールカラー 運動・からだ図解	専門	R6	マイナビ出版
118	バランス障害リハビリテーション 障害像を的確にとらえるための基礎理論と評価・治療の進め方	専門	R6	メジカルビュー社
119	リハビリテーション医学 Crosslink basicリハビリテーションテキスト	専門	R6	メジカルビュー社
120	高齢者リハビリテーション実践マニュアル 改訂第2版	専門	R6	メジカルビュー社
121	実践関節リウマチ診療 内科治療から外科手術まで	専門	R6	メジカルビュー社
122	ハリゾン内科学 第5版 2巻セット	専門	R6	メディカル・サイエンス・インターナショナル
123	フレームワークで考える内科診断	専門	R6	メディカル・サイエンス・インターナショナル
124	新生児リハビリテーション	専門	R6	メディカルプレス
125	回復期リハ病棟の失敗する介入×(と)成功する介入 うまくいかなかった事例は学びの宝庫だった オールカラー	専門	R6	メディカ出版
126	高次脳機能障害ビジュアル大事典 ナース・PT・OT・ST必携！オールカラー	専門	R6	メディカ出版
127	新・脳血管内治療兵法書 宮地流心・技・体六十八手 第2版	専門	R6	メディカ出版
128	リハビリテーションレジデントマニュアル 第4版	専門	R6	医学書院
129	回復期リハビリテーションで「困った！」ときの臨床ノート	専門	R6	医学書院
130	検査値と画像データから読み解く薬効・副作用評価マニュアル	専門	R6	医学書院

	書名	分類	購入 年度	出版社
131	神経システムがわかれば脳卒中リハ戦略が決まる	専門	R6	医学書院
132	泌尿器外傷診療ガイドライン 2022年版	専門	R6	医学図書出版
133	ビジュアル治療食300 カラー版 栄養成分別・病態別栄養食事療法 第2版	専門	R6	医歯薬出版
134	ビジュアル治療食300 栄養成分別・病態別栄養食事療法 食品・献 立データ付 第3版	専門	R6	医歯薬出版
135	ママ&パパの疑問にこたえる乳幼児の摂食支	専門	R6	医歯薬出版
136	リハビリ専門職のためのがんリハビリテーション こんなときどうす る！？ここが知りたい！！	専門	R6	医歯薬出版
137	運動器理学療法学 最新理学療法学講座	専門	R6	医歯薬出版
138	筋膜マニピュレーション 実践編レベル2 第2版	専門	R6	医歯薬出版
139	口にかかわるすべての人のための誤嚥性肺炎予防	専門	R6	医歯薬出版
140	高次脳機能障害のための神経心理学的リハビリテーション 英国 the Oliver Zangwill Centreでの取り組み	専門	R6	医歯薬出版
141	高次脳機能障害学 第3版	専門	R6	医歯薬出版
142	子どもの食べる機能の障害とハビリテーション	専門	R6	医歯薬出版
143	失語リハビリQ&A フレッシュSTのギモンを解決！	専門	R6	医歯薬出版
144	疾患別 嚥下障害	専門	R6	医歯薬出版
145	就労支援の作業療法	専門	R6	医歯薬出版
146	つなげる！バイタルショルダーコンプレックス 肩複合体：評価、治 療、リハビリテーション	専門	R6	医道の日本社
147	基礎科学を融合した理学療法推論の実際	専門	R6	運動と医学の出版社
148	よくわかる失語症セラピーと認知リハビリテーション	専門	R6	永井書店
149	リハビリの心と力 かかわることで学んだ輝く命のStory 第3版	専門	R6	学研メディカル秀潤社
150	「子どもが苦手」な研修医へ小児救急の極意を伝授	専門	R6	学研メディカル秀潤社
151	言語機能系の再学習プロセスに向かって 失語症のリハビリテーション のために	専門	R6	協同医書出版社
152	身体障害の作業療法 改訂第6版	専門	R6	協同医書出版社
153	小児輸液のトリセツ	専門	R6	金原出版
154	患者さんのための胃がん治療ガイドライン 2023年版	専門	R6	金原出版
155	作業療法士のための超実践！シングルケースデザイン 導入から統計手 法まで すぐに使えるExcel・Rのサンプルデータ付き	専門	R6	金芳堂
156	麻酔科医のための体外循環の知識	専門	R6	克誠堂出版

	書名	分類	購入 年度	出版社
157	軽度認知障害と認知症の人および家族・介護者のためのリハビリテーションマニュアル 2022年版	専門	R6	国立長寿医療研究センター
158	運動器の傷害と機能障害 その病態とメカニズム	専門	R6	三輪書店
159	患者さんの主観的体感とリハ治療 レジェンド富田昌夫×サバイバー小林純也 シリーズCROSS REHA	専門	R6	三輪書店
160	環境適応実践実技ノート 中枢神経系障害への知覚探索アプローチ	専門	R6	三輪書店
161	近代ボバース概念による正常発達分析 脳性まひの治療示唆	専門	R6	三輪書店
162	作業療法における上肢機能アプローチ 疾患別	専門	R6	三輪書店
163	作業療法に役立つ臨床推論	専門	R6	三輪書店
164	司法精神科作業療法	専門	R6	三輪書店
165	実践運動学習のREBUILDING 身体の動きと体性感覚に基づく運動学習	専門	R6	三輪書店
166	実践！失語症のリハビリテーション 症例から学ぶ訓練プランの組み立て方	専門	R6	新興医学出版社
167	医薬品に関する臨床系論文の読み方 ランダム化比較試験からリアルワールドデータ研究まで	専門	R6	新興医学出版社
168	成人スチル病診療ガイドライン 2017年版 2023年Update	専門	R6	診断と治療社
169	慢性活動性EBウイルス病とその類縁疾患の診療ガイドライン 2023	専門	R6	診断と治療社
170	EBウイルス関連胃癌 改訂第2版	専門	R6	診断と治療社
171	最新NICUマニュアル 改訂第7版	専門	R6	診断と治療社
172	事例に学ぶAYA世代のがん サポートケア・緩和ケア	専門	R6	診断と治療社
173	小児免疫性血小板減少症診療ガイドライン 2022年版	専門	R6	診断と治療社
174	「イラスト」めまいの検査 改訂第3版	専門	R6	診断と治療社
175	活動分析アプローチ 中枢神経系障害の評価と治療 第2版	専門	R6	青海社
176	重度障害者への活動分析アプローチ 下 具体的症状に対する介入と応用	専門	R6	青海社
177	重度障害者への活動分析アプローチ 上 基本的介入のあり方から治療展開へ	専門	R6	青海社
178	輝生会がおくる！リハビリテーションチーム研修テキスト チームアプローチの真髄を理解する	専門	R6	全日本病院出版会
179	股関節痛の教科書 自分に合ったケアと治療法がわかる 専門医と理学療法士が徹底解説！	専門	R6	池田書店
180	運動学・神経学エビデンスと結ぶ脳卒中理学療法	専門	R6	中外医学社
181	血液内科グリーンノート 第2版	専門	R6	中外医学社
182	心臓リハビリテーショングリーンノート	専門	R6	中外医学社

	書名	分類	購入 年度	出版社
183	心不全の心臓リハビリテーション U40世代の answer	専門	R6	中外医学社
184	EBMから考える生殖医療 生殖医療フロントラインMOOK 1	専門	R6	中外医学社
185	医師が知っておきたい法律の知識 続 医療トラブルを回避する対策	専門	R6	中外医学社
186	運動器スペシャリストのための整形外科保存療法実践マニュアル	専門	R6	中山書店
187	講座精神疾患の臨床 6 てんかん 睡眠・覚醒障害	専門	R6	中山書店
188	作業療法テキスト 高次脳機能障害・実習 15 レクチャーシリーズ	専門	R6	中山書店
189	心療内科学 診断から治療まで	専門	R6	朝倉書店
190	リハビリテーション概論のいろは はじめての講義	専門	R6	南江堂
191	運動器リハビリテーションシラバス セラピストのための実践マニュアル 改訂第5版	専門	R6	南江堂
192	骨粗鬆症治療薬の選択と使用法 骨折の連鎖を防ぐために 改訂第2版	専門	R6	南江堂
193	骨転移診療ガイドライン 改訂第2版	専門	R6	南江堂
194	コンバス薬物治療学 改訂第2版	専門	R6	南江堂
195	リハビリテーション診療クリニカルガイド	専門	R6	南山堂
196	絵でまるわかり分子標的抗がん薬 改訂2版	専門	R6	南山堂
197	耳鼻咽喉科頭頸部外科領域のリハビリテーション医学・医療テキスト	専門	R6	日本リハビリテーション医学教育推進機構
198	フルカラーでやさしくわかる！腰痛の理学療法 医師と理学療法士のタッグで腰痛患者を治す！	専門	R6	日本医事新報社
199	運動器の体外衝撃波治療マニュアル	専門	R6	日本医事新報社
200	肩のスポーツリハビリテーション	専門	R6	日本医事新報社
201	股関節のスポーツリハビリテーション	専門	R6	日本医事新報社
202	レジデントのための内科診断の道標	専門	R6	日本医事新報社
203	運動器ケア 治す医療から多職種で治し支えるケアへ	専門	R6	福村出版
204	運動器理学療法超音波フロンティア Vol. 2	専門	R6	文光堂
205	小児・発達期の包括的アプローチ PT・OTのための実践的リハビリテーション	専門	R6	文光堂
206	糖尿病治療ガイド 2022-2023	専門	R6	文光堂
207	リハビリテーション管理学 PT・OTビジュアルテキスト	専門	R6	羊土社
208	運動学 第2版 PT・OTビジュアルテキスト専門基礎	専門	R6	羊土社

令和7年度

	書名	分類	購入 年度	出版社
1	猫に学ぶ	一般	R7	みすず書房
2	皮膚、人間のすべてを語る	一般	R7	みすず書房
3	味の台湾	一般	R7	みすず書房
4	大学1年生の君が、はじめてレポートを書くまで。	一般	R7	ミネルヴァ書房
5	中高生のための哲学入門	一般	R7	ミネルヴァ書房
6	命のビザ 評伝・杉原千畝	一般	R7	ミネルヴァ書房
7	世界の乗りもの大図鑑	一般	R7	河出書房新社
8	世界の植物大図鑑	一般	R7	河出書房新社
9	地球の生物大図鑑 ヴィジュアル版	一般	R7	河出書房新社
10	地球一周！世界の国ぐに大図鑑	一般	R7	河出書房新社
11	日本文学1) 古事記	一般	R7	河出書房新社
12	日本文学2) 口訳万葉集／百人一首／新々百人一首	一般	R7	河出書房新社
13	日本文学3) 竹取物語／伊勢物語／他3	一般	R7	河出書房新社
14	日本文学4) 源氏物語 上	一般	R7	河出書房新社
15	日本文学5) 源氏物語 中	一般	R7	河出書房新社
16	日本文学6) 源氏物語 下	一般	R7	河出書房新社
17	日本文学7) 枕草子 方丈記 徒然草	一般	R7	河出書房新社
18	日本文学8) 日本霊異記／今昔／宇治拾遺／発心集	一般	R7	河出書房新社
19	日本文学9) 平家物語	一般	R7	河出書房新社
20	日本文学10) 能・狂言／説経節／曾根崎心中	一般	R7	河出書房新社
21	日本文学11) 好色一代男／雨月物語／他2	一般	R7	河出書房新社
22	日本文学12) 松尾芭蕉／与謝蕪村	一般	R7	河出書房新社
23	日本文学13) 樋口一葉／夏目漱石／森鷗外	一般	R7	河出書房新社
24	日本文学14) 南方熊楠／柳田國男／折口／常一	一般	R7	河出書房新社
25	日本文学15) 谷崎潤一郎	一般	R7	河出書房新社
26	日本文学16) 宮沢賢治／中島敦	一般	R7	河出書房新社

	書名	分類	購入 年度	出版社
27	日本文学17) 堀辰雄／福永武彦／中村真一郎	一般	R7	河出書房新社
28	日本文学18) 大岡昇平	一般	R7	河出書房新社
29	日本文学19) 石川淳／辻邦生／丸谷才一	一般	R7	河出書房新社
30	日本文学20) 吉田健一	一般	R7	河出書房新社
31	日本文学21) 日野啓三／開高健	一般	R7	河出書房新社
32	日本文学22) 大江健三郎	一般	R7	河出書房新社
33	日本文学23) 中上健次	一般	R7	河出書房新社
34	日本文学24) 石牟礼道子	一般	R7	河出書房新社
35	日本文学25) 須賀敦子	一般	R7	河出書房新社
36	日本文学26) 近現代作家集 I	一般	R7	河出書房新社
37	日本文学27) 近現代作家集 II	一般	R7	河出書房新社
38	日本文学28) 近現代作家集 III	一般	R7	河出書房新社
39	日本文学29) 近現代詩歌	一般	R7	河出書房新社
40	日本文学30) 日本語のために	一般	R7	河出書房新社
41	博物館のバックヤードを探検しよう！ 博物館のすごい裏側大図鑑	一般	R7	河出書房新社
42	日本建築を作った職人たち	一般	R7	吉川弘文館
43	日本史人物〈あの時、何歳？〉事典	一般	R7	吉川弘文館
44	歴代内閣・首相事典 増補版	一般	R7	吉川弘文館
45	誰よりも、うまく書く	一般	R7	慶應義塾大学出版会
46	中国料理の世界史	一般	R7	慶應義塾大学出版会
47	世界の人物大年表 ビジュアル版	一般	R7	創元社
48	世界の歴史大年表 ビジュアル版	一般	R7	創元社
49	世界を変えた150の哲学の本	一般	R7	創元社
50	地球があぶない！地図で見る気候変動の図鑑	一般	R7	創元社
51	日英仏3言語 ビジュアル版 世界人権宣言	一般	R7	創元社
52	図鑑 デザイン全史	一般	R7	東京書籍

	書名	分類	購入 年度	出版社
53	図鑑 世界の作曲家	一般	R7	東京書籍
54	図鑑 世界の哲学者	一般	R7	東京書籍
55	図鑑 世界の文学者	一般	R7	東京書籍
56	図説 人新世 環境破壊と気候変動の人類史	一般	R7	東京書籍
57	数の女王	一般	R7	東京書籍
58	世界は女性が変わってきた	一般	R7	東京書籍
59	世界甲虫大図鑑	一般	R7	東京書籍
60	生物に学ぶ ガラパゴス・イノベーション	一般	R7	東京書籍
61	知っておきたい！モノ・人体・地球のしくみセット【全3巻】	一般	R7	東京書籍
62	地球博物学大図鑑	一般	R7	東京書籍
63	地政学世界地図	一般	R7	東京書籍
64	著作権ハンドブック	一般	R7	東京書籍
65	彫刻の歴史	一般	R7	東京書籍
66	超約ヨーロッパの歴史	一般	R7	東京書籍
67	目でみる1mmの図鑑	一般	R7	東京書籍
68	目でみるアスリートの図鑑	一般	R7	東京書籍
69	目でみることば	一般	R7	東京書籍
70	目でみることば 有頂天	一般	R7	東京書籍
71	目でみることば2	一般	R7	東京書籍
72	目でみることばのずかん	一般	R7	東京書籍
73	目でみる漢字	一般	R7	東京書籍
74	目でみる算数の図鑑	一般	R7	東京書籍
75	目でみる水面下の図鑑	一般	R7	東京書籍
76	目でみる数字	一般	R7	東京書籍
77	目でみる単位の図鑑	一般	R7	東京書籍
78	目でみる地下の図鑑	一般	R7	東京書籍

	書名	分類	購入 年度	出版社
79	政治学 第2版	一般	R7	東京大学出版会
80	津田梅子	一般	R7	東京大学出版会
81	飛ばないトカゲ	一般	R7	東京大学出版会
82	第七師団と戦争の時代	一般	R7	白水社
83	数学アタマがぐんぐん育つ算数の実験大図鑑	一般	R7	新星出版社
84	戦争記念碑は物語る	一般	R7	白水社
85	誰がために医師はいる	一般	R7	みすず書房
86	ギリギリまで我慢してしまおうあなたへ 逃げる技術	一般	R7	徳間書店
87	単純な脳、複雑な「私」	一般	R7	講談社
88	発達障害の人が見ている世界	一般	R7	アスコム
89	父と娘の認知症日記	一般	R7	中央法規出版
90	脳が認める勉強法	一般	R7	ダイヤモンド社
91	本物ケア	一般	R7	幻冬舎メディアコンサルティング
92	人は聞き方が9割	一般	R7	すばる舎
93	ART SINCE 1900 図鑑 1900年以後の芸術	一般	R7	東京書籍
94	FLORA 図鑑 植物の世界	一般	R7	東京書籍
95	G E M S 美しき宝石と鉱物の世界	一般	R7	東京書籍
96	i P S細胞の研究室	一般	R7	東京書籍
97	MICRO LIFE 図鑑 美しきミクロの世界	一般	R7	東京書籍
98	OCEAN LIFE 図鑑 海の生物	一般	R7	東京書籍
99	ZOOLOGY 図鑑 動物の世界	一般	R7	東京書籍
100	あなたを変える行動経済学	一般	R7	東京書籍
101	Fractures, 4th ed.	専門	R7	WOLTERS KLUWER
102	Localization in Clinical Neurology, 8th ed.	専門	R7	WOLTERS KLUWER
103	集中治療医学	専門	R7	G a k k e n
104	図解運動療法ガイド	専門	R7	文光堂

	書名	分類	購入 年度	出版社
105	日本の作業療法発達史 萌芽期の軌跡を尋ねて	専門	R7	シービーアール
106	知のビジュアル大百科人体 驚異の人体のしくみを、豊富な写真とイラストでわかりやすく解説!	専門	R7	ずばる舎
107	難聴聞き取りをよくするCDブック 耳鼻科で成果を上げる聴覚リハビリ	専門	R7	マキノ出版
108	脊椎・脊髄疾患の外科第2版	専門	R7	三和書店
109	人間発達学 Crosslink basicリハビリテーションテキスト	専門	R7	メジカルビュー社
110	卒後5年までにマスターすべき運動器障害理学療法 基礎から実践まで 下肢・腰部	専門	R7	メジカルビュー社
111	卒後5年までにマスターすべき運動器障害理学療法 基礎から実践まで 上肢・頸部	専門	R7	メジカルビュー社
112	中枢神経障害・運動器障害×内部障害を解釈するための臨床検査値活用術 リハビリテーション治療の実践	専門	R7	メジカルビュー社
113	軟部組織損傷・障害の病態とリハビリテーション 組織特性に基づくアプローチ法の構築	専門	R7	メジカルビュー社
114	認知障害作業療法ケースブック 重度別の認知症と作業療法 ADL/IADL能力の獲得に向けて	専門	R7	メジカルビュー社
115	脳・脊髄外傷の治療 外傷診療を再発見しよう 新NS NOW Neurosurgery 14	専門	R7	メジカルビュー社
116	脳幹・脳深部の手術 手術アプローチの基本と手術の考えかた 新NS NOW Neurosurgery 15	専門	R7	メジカルビュー社
117	脳卒中片麻痺の基本動作分析 バイオメカニクスから考える動作パターン分類と治療法の選択	専門	R7	メジカルビュー社
118	脳卒中理学療法の理論と技術 第4版	専門	R7	メジカルビュー社
119	脳卒中理学療法マネジメント 基本動作のパフォーマンス改善に向けた臨床思考を紐解く	専門	R7	メジカルビュー社
120	理学療法評価学 Crosslink 理学療法学テキスト	専門	R7	メジカルビュー社
121	図説足の臨床第4版	専門	R7	メジカルビュー社
122	四肢切断術のすべて	専門	R7	メジカルビュー社
123	製薬医学入門 くすりの価値最大化をめざして	専門	R7	メディカル・サイエンス・インターナショナル
124	総合内科病棟マニュアル疾患ごとの管理 第2版	専門	R7	メディカル・サイエンス・インターナショナル
125	スポーツと運動のバイオメカニクス	専門	R7	メディカル・サイエンス・インターナショナル
126	病気がみえる vol. 1 第6版 消化器	専門	R7	メディックメディア
127	病気がみえる vol. 10 第4版 産科	専門	R7	メディックメディア
128	病気がみえる vol. 11 運動器・整形外科	専門	R7	メディックメディア
129	病気がみえる vol. 2 第5版 循環器	専門	R7	メディックメディア
130	病気がみえる vol. 3 第5版 糖尿病・代謝・内分泌	専門	R7	メディックメディア

	書名	分類	購入 年度	出版社
131	病気がみえる vol. 4 第3版 呼吸器	専門	R7	メディックメディア
132	病気がみえる vol. 6 第2版 免疫・膠原病・感染症	専門	R7	メディックメディア
133	病気がみえる vol. 7 第2版 脳・神経	専門	R7	メディックメディア
134	病気がみえる vol. 8 第3版 腎・泌尿器	専門	R7	メディックメディア
135	病気がみえる vol. 9 第4版 婦人科・乳腺外科	専門	R7	メディックメディア
136	薬がみえる vol. 1 第2版 神経系の疾患と薬 循環器系の疾患と薬 腎・泌尿器系の疾患と薬 漢方薬	専門	R7	メディックメディア
137	薬がみえる vol. 2 代謝系の疾患と薬 内分泌系の疾患と薬 産婦人科系の疾患と薬 血液系の疾患と薬 免疫・炎症・アレルギー疾患と薬 眼・耳・皮膚の疾患と薬	専門	R7	メディックメディア
138	薬がみえる vol. 3 消化器系の疾患と薬 呼吸器系の疾患と薬 感染症と薬 悪性腫瘍と薬	専門	R7	メディックメディア
139	薬がみえる vol. 4 薬力学 薬物動態学 相互作用 製剤学 薬剤の使用と実務	専門	R7	メディックメディア
140	診療ができる Vol.1 身体診察	専門	R7	メディックメディア
141	摂食嚥下障害学 第2版 標準言語聴覚障害学	専門	R7	医学書院
142	動画で学ぼうPT・OTのためのハンドセラピー Web付録付	専門	R7	医学書院
143	内部障害のリハビリテーション医学・医療テキスト	専門	R7	医学書院
144	脳の機能解剖と画像診断 第2版	専門	R7	医学書院
145	脳血管障害のリハビリテーション医学・医療テキスト	専門	R7	医学書院
146	脳卒中の装具のミカタ Q&Aでひも解く57のダイジなコト Web動画付	専門	R7	医学書院
147	老人のリハビリテーション 第9版	専門	R7	医学書院
148	臨床検査データブック 2023-2024	専門	R7	医学書院
149	臨床手技の完全解説 診療報酬点数表 処置・リハビリ・生体検査・注射・麻酔・放射線治療・精神科専門療法/適応疾患と手技 2022-23年版	専門	R7	医学通信社
150	整形外科的理学療法 基礎と実践 第2版	専門	R7	医歯薬出版
151	精神障害作業療法 生活を支援する 急性期から地域実践まで 第2版	専門	R7	医歯薬出版
152	摂食嚥下障害者の栄養アセスメント実践マニュアル 摂食嚥下リハビリテーション栄養専門管理栄養士のための	専門	R7	医歯薬出版
153	内部機能障害への筋膜マニピュレーション 実践編	専門	R7	医歯薬出版
154	内部障害理学療法学 最新理学療法学講座	専門	R7	医歯薬出版
155	遊離端欠損の戦略的治療法 パーシャルデンチャー・インプラント・IARPD	専門	R7	医歯薬出版
156	理学療法士・作業療法士国家試験問題解答と解説 第53-57回	専門	R7	医歯薬出版

	書名	分類	購入 年度	出版社
157	理学療法士のための足病変知識Q & A	専門	R7	医歯薬出版
158	脳卒中運動学	専門	R7	運動と医学の出版社
159	臨床実習生・若手P Tのための理学療法実践ナビ 運動器疾患編	専門	R7	運動と医学の出版社
160	動作訓練の技術とこころ 障害のある人の生活に寄りそう心理リハビリテーション	専門	R7	遠見書房
161	整形外科ビジュアルリハビリテーション We b動画付き	専門	R7	学研メディカル秀潤社
162	精神科作業療法士の仕事 「社会に生きる手助け」という役割	専門	R7	協同医書出版社
163	動きのコツを教えます 自宅でできる脳卒中当事者のリハビリ・ガイド	専門	R7	協同医書出版社
164	認知神経リハビリテーションの誕生 身体と精神をめぐる思索 ベル フエッティ・パースペクティブ 1	専門	R7	協同医書出版社
165	脊椎脊髄病学 第3版	専門	R7	金原出版
166	理学療法評価学 第6版補訂版	専門	R7	金原出版
167	脳卒中を診るといふこと 症候と画像、機序から見た診療指針	専門	R7	金芳堂
168	成人言語聴覚療法ハンドブック 実践力を高める	専門	R7	建帛社
169	日本全国続々と学童保育に作業療法士がやって来た そこが知りたい学 童保育ブックレットシリーズ 6	専門	R7	高文研
170	地域リハビリテーション論 Ver. 8	専門	R7	三輪書店
171	中枢神経系疾患に対する作業療法 具体的介入論からADL・福祉用 具・住環境への展開	専門	R7	三輪書店
172	理学療法士が知っておきたい認知能力のアセスメントとアプローチ 高 次脳機能障害を行動から分析する	専門	R7	三輪書店
173	臨床OT ROM治療 運動・解剖学の基本的理解から介入ポイント・ 実技・症例への展開	専門	R7	三輪書店
174	脳卒中・脳外傷者の自動車運転に関する指導指針	専門	R7	新興医学出版社
175	面接から組み立てる！向精神薬処方ストラテジーマスト&ベスト M& B	専門	R7	診断と治療社
176	薬剤性内分泌障害診療マニュアル 診断と治療社内分泌シリーズ	専門	R7	診断と治療社
177	精神医学の近現代史	専門	R7	誠信書房
178	精神分析とナチズム	専門	R7	誠信書房
179	認知症に心理学ができること	専門	R7	誠信書房
180	痛みを治す徒手整復療法 解剖生理学に基づく手技の実際	専門	R7	総合医学社
181	脳神経内科学レビュー 最新主要文献とガイドラインでみる 2022 - 23	専門	R7	総合医学社
182	腎臓内科グリーンノート	専門	R7	中外医学社

	書名	分類	購入 年度	出版社
183	聴神経腫瘍・小脳橋角部腫瘍の手術とマネージメント	専門	R7	中外医学社
184	脳神経外科手術私のアプローチ	専門	R7	中外医学社
185	脳神経内科診断ハンドブック	専門	R7	中外医学社
186	整形外科臨床パサージュ 運動器専門医の外来診療と保存療法のために 9 足の痛みクリニカルプラクティス	専門	R7	中山書店
187	排泄リハビリテーション 理論と臨床 改訂第2版	専門	R7	中山書店
188	理学療法テキスト 義肢学 第2版 15レクチャーシリーズ	専門	R7	中山書店
189	理学療法テキスト 小児理学療法学 15レクチャーシリーズ	専門	R7	中山書店
190	理学療法テキスト 内部障害理学療法学呼吸 第3版 15レクチャー シリーズ	専門	R7	中山書店
191	理学療法テキスト 予防理学療法学 15レクチャーシリーズ	専門	R7	中山書店
192	内科学 第12版 6巻セット	専門	R7	朝倉書店
193	包括的心臓リハビリテーション	専門	R7	南江堂
194	臨床に活かす薬物動態の強化書	専門	R7	南山堂
195	薬の相互作用としくみ 新版 第2版	専門	R7	日経B P
196	脊椎のスポーツリハビリテーション	専門	R7	日本医事新報社
197	筑波大流！循環器内科医に伝えたい「15の手技」 検査から治療まで	専門	R7	日本医事新報社
198	内科救急診療指針 2022	専門	R7	日本内科学会
199	理学療法白書 2021	専門	R7	日本理学療法士協会
200	図解言語聴覚療法技術ガイド	専門	R7	文光堂
201	図解作業療法技術ガイド 根拠と臨床経験にもとづいた効果的な実践の すべて 第4版	専門	R7	文光堂
202	問題解決モデルで見える理学療法臨床思考 臨床実習・レポートにも役 立つ統合解釈テクニック	専門	R7	文光堂
203	理学療法プログラムデザイン ケース別アプローチのポイントと実際 5 神経系・内部障害編	専門	R7	文光堂
204	脳卒中後の構音障害への徒手的アプローチ	専門	R7	三恵社
205	臨床病態栄養学 第4版	専門	R7	文光堂
206	膝関節機能障害のリハビリテーション 痛みの理学療法シリーズ	専門	R7	羊土社

高知健康科学大学 動物実験施設運営規程

(前文)

本規程は、「動物の愛護及び管理に関する法律（昭和48年法律第105号）」、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（平成18年環境省告示第88号）」、及び文部科学省が策定した「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（平成18年文部科学省告示第71号）」を踏まえ、日本学術会議が作成した「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン（平成18年6月）」を参考に、科学的観点、動物愛護の観点及び環境保全の観点並びに動物実験等を行う教職員・学生等の安全確保の観点から、実験動物の飼養及び保管に係る管理運営体制の整備、並びに動物実験等の実施方法を定めるものである。

第1章 総 則

(趣旨及び基本原則)

- 第1条 この規程は、高知健康科学大学における動物実験等及び実験動物の飼養及び保管等を適正に行うため、学長の責務、動物実験委員会の設置、動物実験計画の承認手続き、実験動物の飼養及び保管等必要な事項を定めるものとする。
- 2 動物実験等については、法、飼養保管基準、基本指針、「動物の殺処分方法に関する指針」（平成7年総理府告示第40号）、その他法令等に定めがあるもののほか、この規程の定めるところによるものとする。
 - 3 動物実験等の実施に当たっては、法及び飼養保管基準に則し、動物実験等の原則である代替法の利用（科学上の利用の目的を達することができる範囲において、できる限り動物を供する方法に代わり得るものを利用することをいう。）、使用数の削減（科学上の利用の目的を達することができる範囲において、できる限りその利用に供される動物の数を少なくすること等により実験動物を適切に利用することに配慮することをいう。）及び苦痛の軽減（科学上の利用に必要な限度において、できる限り動物に苦痛を与えない方法によってしなければならないことをいう。）の3R（Replacement、Reduction、Refinement）に基づき適正に実施しなければならない。
 - 4 実験動物の飼養及び保管に当たっては、科学上の利用の目的を達することができる範囲において、動物福祉の基本理念である「5つの自由（飢え及び渇きからの解放、肉体的不快感及び苦痛からの解放、傷害及び疾病からの解放、恐怖及び精神的苦痛からの解放、本来の行動様式に従う自由）」に配慮して実施すること。

(定義)

- 第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の定義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。
- (1) 動物実験等 本条第5号に規定する実験動物を教育、試験研究又は生物学的製剤の製造の用その他の科学上の利用に供することをいう。
 - (2) 飼養保管施設 実験動物を恒常的に飼養若しくは保管又は動物実験等を行う施設・設備をいう
 - (3) 実験室 実験動物に実験操作（48時間以内の一時的保管を含む）を行う動物実験室をいう。
 - (4) 施設等 飼養保管施設及び実験室をいう。
 - (5) 実験動物 動物実験等の利用に供するため、施設等で飼養又は保管している哺乳類、鳥類又は爬虫類に属する動物（施設等に導入するために輸送中のものを含む）をいう。
 - (6) 動物実験計画 動物実験等の実施に関する計画をいう。
 - (7) 動物実験実施者 動物実験等を実施する者をいう。
 - (8) 動物実験責任者 動物実験実施者のうち、動物実験等の実施に関する業務を統括する者をいう。
 - (9) 管理者 学長の命を受け、実験動物及び施設等の管理を担当する総括的な責任者をいう。
 - (10) 実験動物管理者 実験動物に関する知識及び経験を有し、飼養保管施設において管理者を補佐

し、実験動物の管理を担当する者をいう。

- (11) 飼養者 実験動物管理者又は動物実験実施者の下で実験動物の飼養又は保管に従事する者をいう。
- (12) 管理者等 学長、管理者、実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者をいう。
- (13) 指針等 基本指針及び厚生労働省、農林水産省から示されている動物実験等の実施に関する基本指針並びにガイドラインをいう。

第2章 適用範囲

第3条 この規程は、本学において実施される哺乳類、鳥類、爬虫類の生体を用いる全ての動物実験等に適用される。

- 2 動物実験責任者は、動物実験等を本学以外の機関に委託等する場合、委託等先においても、指針等に基づき、適正に動物実験等が実施されることを確認すること。

第3章 組織

第4条 学長は、最終的な責任者として本学における動物実験等の適正な実施並びに実験動物の飼養及び保管を統轄する。

- 2 学長は、動物実験計画の承認、実施状況及び結果の把握とその結果に基づく改善措置、飼養保管施設の整備、並びに飼養保管施設及び実験室の承認、動物実験等に係る安全管理、教育訓練、自己点検・評価、外部の専門家による検証、情報公開、その他動物実験等の適正な実施に必要な措置に関して責務を負う。
- 3 学長は、前項の責務を遂行するために報告又は助言を行う組織として、第4章に定める動物実験委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第4章 動物実験委員会

（委員会の役割）

第5条 委員会は、学長の諮問を受け、次の事項を審査又は調査し、学長に報告又は助言する。

- (1) 動物実験計画が動物実験等に関する法令、飼養保管基準、基本指針及び本規程に適合していることの審査
 - (2) 動物実験計画の実施状況及び結果に関すること
 - (3) 施設等及び実験動物の飼養保管状況に関すること
 - (4) 動物実験及び実験動物の適正な取扱い並びに関係法令等に関する教育訓練の内容又は体制に関すること
 - (5) 自己点検・評価、外部の専門家による検証並びに情報公開に関すること
 - (6) その他、動物実験等の適正な実施のために必要な事項に関すること
- 2 委員会は、必要に応じて安全管理に注意を要する動物実験に関連する委員会等と相互に必要な情報の提供等を行うよう努めること。

（委員会の構成）

第6条 委員会は、次に掲げる委員により構成する。

- (1) 動物実験等に関して優れた識見を有する者1名
- (2) 実験動物に関して優れた識見を有する者1名
- (3) その他学識経験を有する者2名

（委員長等）

第7条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

2 委員会に副委員長を置き、委員の互選により選出する。

3 委員長は、委員会を主宰する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故ある時は、その職務を代行する。

(委員の任期)

第8条 学長は、第6条に掲げる者を委員に任命する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(担当事務)

第9条 委員会に関する事務は、事務局総務係が行う。

2 担当事務は、委員会開催に関する議事録等の作成及び保存等を行わなければならない

第5章 動物実験等の実施

(動物実験の手続き)

第10条 動物実験責任者は、動物実験等により取得されるデータの信頼性を確保する観点から、次に掲げる項を踏まえて動物実験計画を立案し、所定の動物実験計画書を学長に申請すること。

(1) 研究の目的、意義及び必要性

(2) 代替法を考慮して、実験動物を適切に利用すること。

(3) 実験動物の使用数削減のため、動物実験等の目的に適した実験動物種の選定、動物実験成績の精度と再現性を左右する実験動物の数、遺伝学的及び微生物学的品質並びに飼養条件を考慮すること。

(4) 苦痛の軽減により動物実験等を適切に行うこと。

(5) 苦痛度の高い動物実験等、例えば、致死的な毒性試験、感染実験、放射線照射実験等を行う場合は、動物実験等を計画する段階で人道的エンドポイント（実験動物を激しい苦痛から解放するための実験を打ち切るタイミング）の設定を検討すること。

2 学長は、動物実験等の開始前に前項を申請させ、委員会の審査を経て承認又は非承認を決定し、その結果を当該動物実験責任者に通知すること。

3 動物実験責任者は、動物実験計画について学長の承認を得た後でなければ、動物実験等を行うことができない。

4 動物実験責任者は、承認された動物実験計画を変更する場合は、第1項と同様に変更申請の承認を得なければならない。

(実験操作)

第11条 動物実験実施者は、動物実験等の実施に当たって、動物実験等に関する法令、飼養保管基準、指針等に則するとともに、特に以下の事項を遵守すること。

(1) 適切に維持管理された施設等において動物実験等を行うこと。

(2) 動物実験計画書に記載された事項及び次に掲げる事項を遵守すること。

①適切な麻酔薬、鎮痛薬等の利用

②実験の終了の時期（人道的エンドポイントを含む）の配慮

③適切な術後管理

④適切な安楽死の選択

(3) 安全管理に注意を払うべき実験（物理的、化学的に危険な材料、麻薬・向精神薬等、病原体、遺伝子組換え動物等を用いる実験）については、関係法令等及び本学における関連する規程等に從

うこと。

(4) 物理的、化学的に危険な材料又は病原体等を扱う動物実験等について、安全のための適切な施設や設備を確保すること。

(5) 実験実施に先立ち必要な実験手技等の習得に努めること。

(6) 侵襲性の高い大規模な存命手術に当たっては、経験等を有する者の指導下で行うこと。

- 2 学長は、動物実験等の終了後、動物実験責任者から所定の様式により、使用動物数、計画からの変更の有無、成果等の動物実験計画の実施の結果について報告させること。必要な場合は委員会の助言を受けて適正な動物実験等の実施のための改善措置を講ずること。

第6章 実験動物の飼養及び保管

(マニュアル作成と周知)

第12条 管理者及び実験動物管理者は、飼養保管のマニュアルを定め、動物実験実施者及び飼養者に周知し遵守させること。

(実験動物の健康と安全)

第13条 実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者は、飼養保管基準を遵守し、実験動物の健康及び安全の保持に努めること

(実験動物の導入)

第14条 管理者は、実験動物の導入に当たり、関連法令や指針等に基づき適正に管理されている機関より導入すること。

2 実験動物管理者は、実験動物の導入に当たり、適切な検疫、隔離飼育等を行うこと。

3 実験動物管理者は、実験動物の飼養環境への順化・順応を図るための必要な措置を講ずること。

(給餌・給水)

第15条 実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者は、実験動物の種類、生態、習性等に応じて、適切に給餌・給水を行うこと。

2 実験動物管理者は、飼養保管施設の日常的な管理及び保守点検並びに定期的な巡回等により、飼養又は保管をする実験動物の数及び状態の確認が行われること。

(健康管理)

第16条 実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者は、実験目的以外の傷害や疾病を予防するため、実験動物に必要な健康管理を行うこと。

2 実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者は、実験目的以外の傷害や疾病にかかった場合、実験動物に適切な治療等を行うこと。

(異種又は複数動物の飼育)

第17条 実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者は、異種又は複数の実験動物を同一施設内で飼養又は保管する場合、その組み合わせを考慮した収容を行うこと。

(記録と報告)

第18条 管理者等は、実験動物の入手先、飼育履歴、病歴等に関する記録を整備、保存すること。

2 管理者は、年度ごとに飼養又は保管した実験動物の種類と数等について、学長に報告すること。

(譲渡の際の情報提供)

第 19 条 管理者等は、実験動物の譲渡に当たり、その特性、飼養又は保管の方法、感染性疾病等に関する情報を提供すること。

(輸送)

第 20 条 管理者等は、実験動物の輸送に当たり、飼養保管基準を遵守し、実験動物の健康及び安全の確保、人への危害防止に努めること。

第 7 章 施設等

(飼育保管施設の設置)

第 21 条 飼養保管施設を設置(変更を含む)する場合は、管理者が所定の「飼養保管施設設置承認申請書」を提出し、学長の承認を得るものとする。

- 2 学長は、申請された飼養保管施設を委員会に調査させ、その助言により承認又は非承認を決定し、その結果を当該管理者に通知すること。
- 3 実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者は、学長の承認を得た飼養保管施設でなければ、実験動物の飼養若しくは保管又は動物実験等を行うことができない。
- 4 学長は、実験動物の飼養および保管の状況について管理者・実験動物管理者から報告させ、必要な場合は委員会の助言を受けて改善を指示すること。

(飼育保管施設の要件)

第 22 条 飼養保管施設は、以下の要件を満たすこと。

- (1) 適切な温度、湿度、換気、明るさ等を保つことができる構造等とすること。
- (2) 実験動物の種類や生態、習性等、並びに飼養又は保管する数に応じた飼育設備を有すること。
- (3) 床や内壁などの清掃、消毒等が容易な構造で、器材の洗浄や消毒等を行う衛生設備を有すること。
- (4) 実験動物が逸走しない構造及び強度を有すること。
- (5) 臭気、騒音、廃棄物等による周辺環境への悪影響を防止する措置がとられていること。
- (6) 実験動物管理者を配置すること。

(実験室の設置)

第 23 条 飼養保管施設以外において、実験室を設置(変更を含む)する場合は、管理者が所定の「実験室設置承認申請書」を提出し、学長の承認を得るものとする。

- 2 学長は、申請された実験室を委員会に調査させ、その助言により承認又は非承認を決定し、その結果を当該管理者に通知すること。
- 3 実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者は、学長の承認を得た実験室でなければ、当該実験室での動物実験等(48 時間以内の一時的保管を含む)を行うことができない。

(実験室の要件)

第 24 条 実験室は、以下の要件を満たすこと。

- (1) 実験動物が逸走しない構造及び強度を有し、実験動物が室内で逸走しても捕獲しやすい環境が維持されていること。
- (2) 排泄物や血液等による汚染に対して清掃や消毒が容易な構造であること。
- (3) 常に清潔な状態を保ち、臭気、騒音、廃棄物等による周辺環境への悪影響を防止する措置がとられていること。

(施設等の維持管理)

第 25 条 管理者は、実験動物の適正な管理並びに動物実験等の遂行に必要な施設等の維持管理及び改善に努めること。

2 管理者は、実験動物の種類、生理、生態、習性等を考慮した飼養又は保管を行うための環境の確保を行うこと。

(施設等の廃止)

第 26 条 学長は、管理者より届け出された所定の「施設等廃止届」に基づき、委員会による施設等の調査を経て廃止を承認すること。

2 管理者は、必要に応じて、動物実験責任者と協力し、飼養又は保管中の実験動物を他の飼養保管施設に譲り渡すよう努めること。

第 8 章 安全管理

(危害防止)

第 27 条 管理者は、逸走した実験動物の捕獲の方法等をあらかじめ定めること。

2 管理者は、人に危害を加える等のおそれのある実験動物が施設等外に逸走した場合には、速やかに関係機関へ連絡すること。

3 管理者は、実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者が、実験動物由来の感染症やアレルギー疾患等に罹患したり、実験動物による咬傷等に対して、予防及び発生時に必要な措置を講じること。

4 毒へび等の有毒動物は実験動物として使用しないこと。

5 管理者等は、人に危害を加える等のおそれがある実験動物について、名札、脚環、マイクロチップ等の装着等の識別措置を技術的な可能な範囲で講じるように努めること。

6 実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者は、相互に実験動物による危害の発生の防止に必要な情報の提供等を行うよう努めること。

7 管理者等は、実験動物の飼養及び保管並びに動物実験等の実施に関係のない者が実験動物等に接することのないよう、必要な措置を講じること。

(緊急時の対応)

第 28 条 管理者は、地震、火災、人と動物の共通感染症の発生時等の緊急時に執るべき措置の計画（緊急時対応マニュアル等）をあらかじめ作成し、関係者に対して周知を図ること。

2 管理者等は、緊急事態発生時において、実験動物の保護、実験動物の逸走による人への危害、環境保全上の問題等の発生の防止に努めること。

(人と動物の共通感染症の対応)

第 29 条 実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者は、人と動物の共通感染症に関する十分な知識の習得及び情報の収集に努めること。

2 管理者、実験動物管理者及び動物実験実施者は、人と動物の共通感染症の発生時において必要な措置を迅速に講じることができるよう、公衆衛生機関等との連絡体制の整備に努めること。

第 9 章 教育訓練

第 30 条 学長は、実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者に、以下の事項に関する所定の教育訓練を受講させること。

①動物実験等に関する法令、指針等、本学の定める規程等

②動物実験等の方法に関する基本的事項

③実験動物の飼養又は保管に関する基本的事項

- ④安全確保、安全管理に関する事項
 - ⑤人と動物の共通感染症に関する事項
 - ⑥その他、適切な動物実験等の実施に関する事項
- 2 学長は、教育訓練の実施日、教育内容、講師及び受講者名の記録を保存すること。
 - 3 学長は、実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者の別に応じて必要な教育訓練が確保されるよう努めること。

第10章 自己点検・評価・検証

- 第31条 学長は、委員会に、基本指針への適合性並びに飼養保管基準の遵守状況に関し、毎年、自己点検・評価を行わせること。
- 2 委員会は、動物実験等の実施状況等や飼養保管状況に関する自己点検・評価を行い、その結果を学長に報告しなければならない。
 - 3 委員会は、管理者、実験動物管理者、動物実験責任者、並びに飼養者等に、自己点検・評価のための資料を提出させることができる。
 - 4 学長は、自己点検・評価の結果について、外部の専門家による検証を定期的実施すること。

第11章 情報公開

- 第32条 学長は、本学における動物実験等に関する情報（動物実験等に関する規程、実験動物の飼養又は保管の状況、自己点検・評価、外部の専門家等による検証の結果、動物実験委員会の構成等の情報）を毎年1回程度公表すること。

第12章 補則

（準用）

- 第33条 第2条第5号に定める実験動物以外の動物を動物実験等に供する場合においても、飼養保管基準の趣旨に沿って行なうよう努めること。

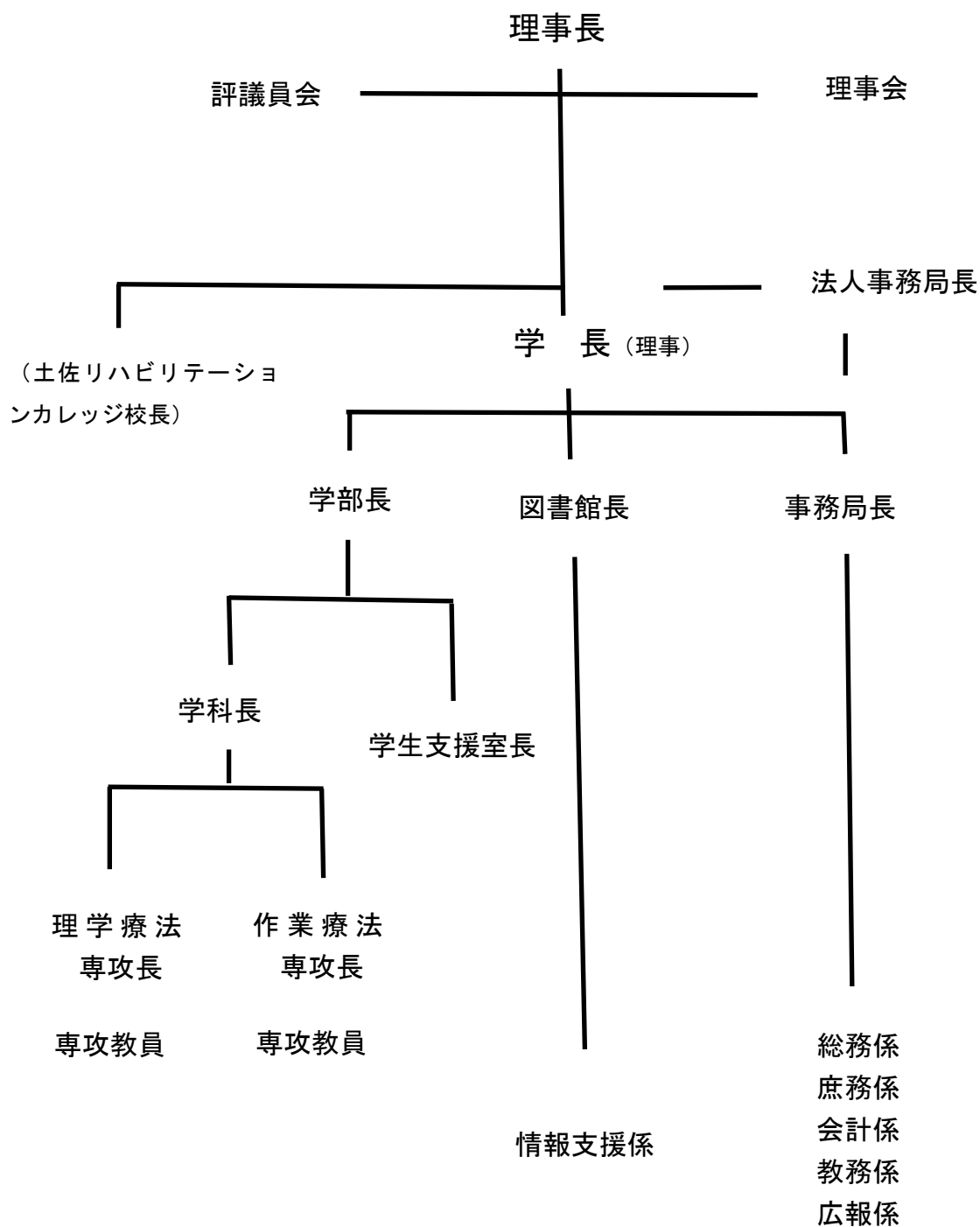
（雑則）

- 第34条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、学長が別に定める。

（附則）

この規程は令和6年4月1日より施行する

高知健康科学大学 組織図



高知健康科学大学 教授会 規程（案）

（趣旨）

第1条 この規程は、高知健康科学大学学則第49条の規定に基づき、教授会の組織及び運営に関して必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第2条 本学に教授会を置く。

- 2 前項の教授会は、教育研究に従事する基幹教員ならびに事務局長をもって組織するものとする。ただし、学長が必要と認めた場合は他の職員を加えることができる。

（審議事項）

第3条 教授会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関すること
- (2) 教育課程の編成に関する事項
- (3) 学生の入学・休学・復学及び退学に関する事項
- (4) 単位修得及び卒業認定に関する事項
- (5) 学生生活に関する事項
- (6) その他、学生教育及び研究に関する事項

（運用）

第4条 教授会に議長を置き、学長をもって充てる。

- 2 議長は教授会を主宰する。
- 3 学長に事故あるときは、あらかじめ教授会が定めた順序による教授がその職務を代行する。
- 4 教授会において審議される議題は、緊急やむを得ない場合を除き、会議の3日前までに構成員に通知しなければならない。
- 5 教授会は、その構成員の3分の2以上が出席しなければ、開会することができない。
- 6 教授会へはオンライン参加での出席を認めることがある。ただし、対面での会議と同等の議論ができるよう、即時性と双方向性が確保された環境に限って認めるものとする。
- 7 教授会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（事務）

第5条 教授会に関する事務は、事務局において処理する。

(議事録)

第6条 教授会の議事進行の過程及び決定事項は議事録に記録する。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、教授会の運営に関し必要な事項は、教授会の議を経て、学長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、令和6年4月1日から施行する。